

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

— 2020・2021年度 —

2020・2021年度事業報告と
文京遺跡72～74次調査・樽味遺跡19・20次調査正式報告

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2023

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

— 2020・2021年度 —

2020・2021年度事業報告と
文京遺跡72～74次調査・樽味遺跡19・20次調査正式報告

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2023

序 文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及んでいます。そのうち、大学本部と5つの学部が所在する城北団地には文京遺跡・道後樋又遺跡があり、附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校がある持田団地には持田遺跡、農学部と附属高等学校がある榑味団地には榑味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地には鷹子遺跡など、数多くの遺跡があります。

愛媛大学では、文化財保護法に準じるため、昭和62年に埋蔵文化財調査室を設置、以来校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度ををはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査の発掘調査を実施してきました。また、大学構内における遺跡の有無や分布状況を高い精度で把握する確認調査を実施しています。こうした調査の成果の蓄積を踏まえ、後世に伝えるべき国民共有の財産である文化財を保護するため、基盤施設部と協議し、埋蔵文化財への影響を最小限にとどめることに努めています。

さらに、調査成果は、愛媛大学ミュージアムでの常設展示や特別企画展示を通して学内外に発信することで、学生や教職員への実践的教育及び研究に活用し、さらに多くの方々の生涯学習に寄与しています。そして発掘調査報告書や埋蔵文化財調査室の実施事業をまとめた年報を刊行することで、調査研究成果を全国に公開しています。

平成31年4月に改正された文化財保護法では、未指定を含めた文化財をまちづくりを活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要と明示されました。これにより前にも増して大学研究機関にも文化財の計画的保存と利活用が求められるようになり、埋蔵文化財調査室が担う責務もさらに大きくなりました。

本書は、2020・2021年度に埋蔵文化財調査室が実施した試掘調査・立会調査の報告と、文京遺跡72～74次調査、榑味遺跡19・20次調査の正式報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』です。

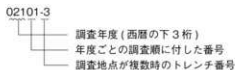
本書をまとめるにあたっては、学内はもとより学外の多くの機関・個人の方々からご協力をいただきました。その労に深く感謝するとともに、本書が多くの方々に利用・活用されることを願っております。

令和5年3月1日

愛媛大学埋蔵文化財調査室長
柴田昌児

例 言

1. 本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2020・2021年度に実施した事業、特に大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査および本格調査の成果等を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告XXXVIにあたる。
2. 埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下3桁の後に年度ごとの調査順に01からの2桁の通し番号を加えた5桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、一の後に地点番号を付して表示している。



3. 本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、堅穴建物：SC、溝：SD、土壁：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。
4. 本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。
5. 小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に基づき、土色については土色名（Munsell 記号）、遺物の色調については Munsell 記号を省略し、土色名のみで表示している。
6. 本書で使用した遺構図は、柴田昌見、三吉秀充、加島なおみ、大西恭子、吉田倫美が作成し浄書を行い、柴田と大西がレイアウトの調整を行った。
7. 本書で使用した遺物図は、柴田、大西、加島が実測・浄書を行い、大西が観察表を作成した。
8. 本書で使用した写真は、柴田と三吉が撮影し、柴田と吉田がレイアウトの調整を行った。
9. 本書は柴田と三吉が執筆した。
10. 本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。
11. 本書は柴田が編集し、吉田が編集ソフトのオペレーターを務めた。

本文目次

I	埋蔵文化財小委員会と埋蔵文化財調査室の事業	1
1	埋蔵文化財小委員会	1
2	2020・2021年度の埋蔵文化財調査室の事業	5
	(1) 調査と体制	5
	(2) 整理作業	7
	(3) 調査報告書・年報の作成作業	8
	(4) 調査成果の公開・利活用	8
II	2020年度の発掘調査	17
02001	(持田団地) 附属小学校校舎等改修その他工事に伴う立会調査	17
02002	(城北団地) 基幹・環境整備(排水設備改修)工事に伴う発掘調査(文京72次調査)	26
02003	(城北団地) 愛媛大学学内LANに伴う立会調査	58
02004	(城北団地) 教育学部2号館(Ⅱ期)改修その他工事に伴う立会調査	63
02005	(榊団地) 愛媛大学学内LANに伴う立会調査	65
III	2021年度の発掘調査	69
02101	(城北団地) 統合車庫取り壊しその他工事に伴う発掘調査(文京道跡73次調査)	69
02102	(城北団地) 埋設電波実験に伴う掘削工事	92
02103	(榊団地) 基幹・環境整備(排水設備等改修)工事に伴う発掘調査(榊道跡19次調査)	94
02104	(榊団地) 基幹・環境整備(さく井設備)工事に伴う立会調査	111
02105	(城北団地) レジонаルコモンズ(仮称)新営その他工事(文京道跡74次調査)	112
02106	(城北団地) 愛媛大学学内LAN光ケーブル(Ⅱ期)設備工事	118
02107	(城北団地) 基幹・環境整備(排水設備等改修)工事に伴う立会調査	120
02108	(城北団地) 共通講義棟A等改修機械設備工事に伴う立会調査	124
02109	(榊団地) 農学部会館厨房等改修その他工事に伴う発掘調査(榊道跡20次調査)	127
02110	(城北団地) 基幹・環境整備(排水設備等改修)工事に伴う立会調査	164

挿図目次

図1	城北団地調査地点位置図(縮尺1/2,000)	13・14
図2	持田団地調査地点位置図(縮尺1/2,000)	15
図3	榊団地調査地点位置図(縮尺1/2,000)	16
図4	持田団地(02001調査)調査地点位置(縮尺1/500)	18
図5	持田団地(02001調査)1・2区平面図(縮尺1/400)・土層断面図(縮尺1/40)	19
図6	持田団地(02001調査)出土遺物実測図(縮尺1/3)	21
図7	持田団地(02001調査)3区平面図(縮尺1/500)・土層柱状図(縮尺1/50)	21
図8	文京72次(02002調査)平面図・土層断面図(縮尺1/50)	27
図9	文京72次(02002調査)SK-1-SP-3-6-7平面図・断面図(縮尺1/40)	28
図10	文京72次(02002調査)SB-10平面図・断面図(縮尺1/40)	29

図 11 文京 72 次 (02002 調査) SB-10 (SP-4・SP-5)、 SP-3、SP-7 出土遺物 (縮尺 1/3)	30	図 32 榑味 19 次 (02103 調査) 1～4 トレンチ配置図 (縮尺 1/250)・遺構断面図 (縮尺 1/50)	96
図 12 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 出土遺物 1 (縮 尺 1/6・1/3)	31	図 33 榑味 19 次 (02103 調査) 1～4 トレンチ土層断 面図 (縮尺 1/150)	97
図 13 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 出土遺物 2 (縮 尺 1/3)	32	図 34 榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ配置図 (縮 尺 1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)	97
図 14 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 上部Ⅲ層出土遺 物 (縮尺 1/3)	33	図 35 榑味 19 次 (02103 調査) 6・7・11・12 トレンチ 配置図 (縮尺 1/200)・土層断面図 (縮尺 1/100,1/50)	98
図 15 文京 72 次 (02002 調査) I 区Ⅲ層出土遺物 (縮 尺 1/3)	34	図 36 榑味 19 次 (02103 調査) 8～10 トレンチ配 置図 (縮尺 1/100・1/50)・土層断面図 (縮尺 1/50)	99
図 16 文京 72 次 (02002 調査) I 区南壁土層中、1-9 区Ⅲ層上部出土遺物 (縮尺 1/3)	36	図 37 榑味 19 次 (02103 調査) 出土遺物 (縮尺 1/3)	100
図 17 文京 72 次 (02002 調査) I 区 SK-1 II 区Ⅲ層 下部出土遺物 (縮尺 1/3)	37	図 38 榑味団地 (02104 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/500) と土層柱状図 (縮尺 1/50)	111
図 18 文京 72 次 (02002 調査) II 区Ⅲ層出土遺物 (縮 尺 1/3)	38	図 39 文京 74 次 (02105 調査) 1～8 トレンチ平 面図 (縮尺 1/100,1/50)・土層断面図 (縮尺 1/50)	113
図 19 文京 72 次 (02002 調査) 文京 2 次、10 次、72 次調査地点における遺構検出状況 (縮尺 1/400)	39	図 40 文京 74 次 (02105 調査) 出土遺物 (縮尺 1/3)	114
図 20 城北団地 (02003 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/500)	59	図 41 城北団地 (02106 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/500) と土層柱状図 (縮尺 1/50)	119
図 21 城北団地 (02003 調査) 土層断面 (縮尺 1/40)	61	図 42 城北団地 (02107 調査) 平面図 (縮尺 1/100) と土層断面図・土層柱状図 (縮尺 1/50)	121
図 22 城北団地 (02004 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/500)	64	図 43 城北団地 (02108 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/500)	124
図 23 榑味団地 (02005 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/500)・平面図 (縮尺 1/200)・土層断面図 (縮 尺 1/40)	66	図 44 城北団地 (02108 調査) 1～3 トレンチ平面図 (縮 尺 1/100) と土層柱状図 (縮尺 1/50)	125
図 24 文京 73 次 (02101 調査) 調査区における区割 (縮 尺 1/400)	69	図 45 榑味 20 次 (02109 調査) 1 区調査地点配置図 (縮 尺 1/400)	128
図 25 文京 73 次 (02101 調査) 西壁・調査区中央部・ 北壁土層断面図 (縮尺 1/80)	71・72	図 46 榑味 20 次 (02109 調査) 1～7 トレンチ配置図・ 土層断面図 (縮尺 1/50)	129
図 26 文京 73 次 (02101 調査) Ⅲ層検出状況と文京 遺跡 74 次調査地点位置 (縮尺 1/200)	73	図 47 榑味 20 次 (02109 調査) 8～11 トレンチ配置図 ・土層断面図 (縮尺 1/50)	130
図 27 文京 73 次 (02101 調査) IV 層中遺構配置図 (縮 尺 1/200)	74	図 48 榑味 20 次 (02109 調査) 25・26 トレンチ配置図 (縮尺 1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)	131
図 28 文京 73 次 (02101 調査) 出土遺物 (縮尺 1/3)	76	図 49 榑味 20 次 (02109 調査) 1 区出土遺物 1 (縮尺 1/3)	132
図 29 文京 73 次 (02101 調査) 縄文時代後晩期の旧地 形と調査地点	77	図 50 榑味 20 次 (02109 調査) 1 区出土遺物 2 (縮尺 1/3)	133
図 30 城北団地 (02102 調査) 02107 調査地点位置 (縮尺 1/1,000)	93	図 51 榑味 20 次 (02109 調査) 2 区出土遺物 1 (縮尺 1/1,000)	95
図 31 榑味 19 次 (02103 調査) 調査地点配置図 (縮尺			

1/3)	135
図 52 榑味 20 次 (02109 調査) 2 区・3 区調査地点配置図 (縮尺 1/800)	135
図 53 榑味 20 次 (02109 調査) 2 区・3 区調査地点配置図 1 (縮尺 1/50・1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)	139・140
図 54 榑味 20 次 (02109 調査) 2 区・3 区調査地点配置図 2 (縮尺 1/50・1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)	141・142

図 55 榑味 20 次 (02109 調査) 13～17・19・20 トレンチ地点配置図・土層断面図 (縮尺 1/50)	143
図 56 榑味 20 次 (02109 調査) 22～24 トレンチ配置図・土層断面図 (縮尺 1/50)	144
図 57 榑味 20 次 (02109 調査) 2 区出土遺物 2 (縮尺 1/3・2/3)	145
図 58 城北団地 (02102 調査・02110 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/1000)・土層柱状図 (縮尺 1/50)	165

写真目次

写真 1 文京遺跡 1 次調査地標柱のリニューアル	9
写真 2 文京遺跡 45 次調査土壌サンプルの移動作業 1	9
写真 3 文京遺跡 45 次調査土壌サンプルの移動作業 2	9
写真 4 文京遺跡 45 次調査土壌サンプルの分析 1	9
写真 5 文京遺跡 45 次調査土壌サンプルの分析 2	10
写真 6 新営の収蔵庫 1	10
写真 7 新営の収蔵庫 2	10
写真 8 新営の収蔵庫 3	10
写真 9 新営収蔵庫収納状況 1	10
写真 10 新営収蔵庫収納状況 2	10
写真 11 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」1	10
写真 12 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」2	10
写真 13 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」3	11
写真 14 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」4	11
写真 15 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」5	11
写真 16 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」6	11
写真 17 文京遺跡特別展を観覧する仁科学長	11
写真 18 文京遺跡特別展を観覧する下條信行名誉教授	11
写真 19 文京遺跡を観覧する学生 1	11

写真 20 文京遺跡を観覧する学生 2	11
写真 21 02001 調査 1 区西端部全景 (北東から)	22
写真 22 02001 調査 1 区西端部北壁土層 (南から)	22
写真 23 02001 調査 1 区西半分全景 (東から)	22
写真 24 02001 調査 1 区西半分地点①土層 (南から)	22
写真 25 02001 調査 1 区全景 (東から)	22
写真 26 02001 調査 1 区地点④土層 (北から)	22
写真 27 02001 調査 2-1 区全景 (北から)	22
写真 28 02001 調査 2-1 区地点①土層 (西から)	22
写真 29 02001 調査 2-2 区全景 (南西から)	23
写真 30 02001 調査 2-2 区東壁土層 (西から)	23
写真 31 02001 調査 2-3 区全景 (南西から)	23
写真 32 02001 調査 2-3 区東壁土層 (南西から)	23
写真 33 02001 調査 2-4 区全景 (南西から)	23
写真 34 02001 調査 2-4 区東壁土層 (西から)	23
写真 35 02001 調査 2-5 区全景 (西から)	23
写真 36 02001 調査 2-4 東部・2-5 区全景 (南西から)	23
写真 37 02001 調査 2-4 区地点③土層 (南から)	24
写真 38 02001 調査 2-5 区全景 (西から)	24
写真 39 02001 調査 2-5 区北壁土層 (南西から)	24
写真 40 02001 調査 2-5 区地点⑤土層 (南から)	24
写真 41 02001 調査 2-5 区地点⑥土層 (南から)	24
写真 42 02001 調査 2-5 区地点⑦土層 (南から)	24
写真 43 02001 調査 2-5・6・7 区全景 (西から)	24
写真 44 02001 調査 2-6 区全景 (西から)	24
写真 45 02001 調査 2-6 区全景 (南西から)	25

写真 46	02001 調査	2-6 区東壁土層 (西から) ……	25	写真 73	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (東から) ……	51
写真 47	02001 調査	2-7 区全景 (南西から) ……	25	写真 74	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (北東から) ……	51
写真 48	02001 調査	2-7 区東端部 (南西から) ……	25	写真 75	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺構検出状況 (東から) ……	52
写真 49	02001 調査	2-7 区地点 9 土層 (南から) ……	25	写真 76	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 完掘状況 (南東から) ……	52
写真 50	02001 調査	3 区全景 (西から) ……	25	写真 77	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 完掘状況 (北から) ……	53
写真 51	02001 調査	3 区地点①全景 (東から) ……	25	写真 78	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 完掘状況 (北東から) ……	53
写真 52	02001 調査	3 区地点②全景 (東から) ……	25	写真 79	文京 72 次 (02002 調査) SP-3 土層 (北から) ……	54
写真 53	02001 調査	3 区地点③全景 (西から) ……	26	写真 80	文京 72 次 (02002 調査) SP-3 完掘状況 (北から) ……	54
写真 54	02001 調査	3 区地点④全景 (西から) ……	26	写真 81	文京 72 次 (02002 調査) SP-5 完掘状況 (西から) ……	54
写真 55	02001 調査	4-1 区土層 (南西から) ……	26	写真 82	文京 72 次 (02002 調査) SP-7 土層 (北から) ……	54
写真 56	02001 調査	4-2 区土層 (南西から) ……	26	写真 83	文京 72 次 (02002 調査) SP-6 完掘状況 (南西から) ……	54
写真 57	文京 72 次 (02002 調査)	I 区表土層除去状況 (南から) ……	43	写真 84	文京 72 次 (02002 調査) SP-6 完掘状況 (西から) ……	54
写真 58	文京 72 次 (02002 調査)	I 区遺構検出状況 (北から) ……	43	写真 85	文京 72 次 (02002 調査) SP-9 完掘状況 (北西から) ……	54
写真 59	文京 72 次 (02002 調査)	I 区表土層除去状況 (東から) ……	44	写真 86	文京 72 次 (02002 調査) SP-9 完掘状況 (北東から) ……	54
写真 60	文京 72 次 (02002 調査)	I 区遺構検出状況 (東から) ……	44	写真 87	文京 72 次 (02002 調査) I 区南壁土層中遺物出土状況 (北から) ……	55
写真 61	文京 72 次 (02002 調査)	I 区表土層除去状況 (西から) ……	45	写真 88	文京 72 次 (02002 調査) 臨地講義の様子 ……	55
写真 62	文京 72 次 (02002 調査)	I 区遺構検出状況 (西から) ……	45	写真 89	文京 72 次 (02002 調査) I 区深掘り状況 (東から) ……	55
写真 63	文京 72 次 (02002 調査)	I 区南壁土層 (北から) ……	46	写真 90	文京 72 次 (02002 調査) I 区深掘り状況 (東から) ……	55
写真 64	文京 72 次 (02002 調査)	I 区東壁土層 (西から) ……	46	写真 91	文京 72 次 (02002 調査) II 区南部完掘状況 (東から) ……	55
写真 65	文京 72 次 (02002 調査)	I 区遺構完掘出状況 (東から) ……	47	写真 92	文京 72 次 (02002 調査) II 区南部完掘状況 (南から) ……	55
写真 66	文京 72 次 (02002 調査)	I 区遺構完掘出状況 (西から) ……	47	写真 93	文京 72 次 (02002 調査) II 区南壁土層 (北から) ……	55
写真 67	文京 72 次 (02002 調査)	I 区遺構完掘出状況 (北から) ……	48	写真 94	文京 72 次 (02002 調査) II 区北部完掘状況 (東から) ……	55
写真 68	文京 72 次 (02002 調査)	I 区遺構完掘出状況 (南から) ……	48			
写真 69	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (南東から) ……		49			
写真 70	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (東から) ……		49			
写真 71	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (西から) ……		50			
写真 72	文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (北東から) ……		50			

写真 95	文京 72 次 (02002 調査) 出土遺物 1	56	写真 131	02005 調査 3 トレンチ西壁土層 (東から)	68
写真 96	文京 72 次 (02002 調査) 出土遺物 2	57	写真 132	文京 73 次 (02101 調査) 出土遺物	78
写真 97	文京 72 次 (02002 調査) 出土遺物 3	58	写真 133	文京 73 次 (02101 調査) III 層検出状況 (北から)	79
写真 98	02003 調査 1 区全景 (西から)	60	写真 134	文京 73 次 (02101 調査) III 層検出状況 (北西から)	79
写真 99	02003 調査 1 区西端 (南から)	60	写真 135	文京 73 次 (02101 調査) III 層完掘状況 (北から)	80
写真 100	02003 調査 1 区西端 (北から)	60	写真 136	文京 73 次 (02101 調査) III 層完掘状況 (南から)	80
写真 101	02003 調査 1 区中央 (西から)	60	写真 137	文京 73 次 (02101 調査) 完掘状況 (北から)	81
写真 102	02003 調査 1 区中央 (南から)	60	写真 138	文京 73 次 (02101 調査) 完掘状況 (南から)	81
写真 103	02003 調査 2 区北端部 (南から)	61	写真 139	文京 73 次 (02101 調査) III 層検出状況 (北西から)	82
写真 104	02003 調査 2 区全景 (北から)	61	写真 140	文京 73 次 (02101 調査) BW17 区 III 層検出状況 (西から)	82
写真 105	02003 調査 2 区全景 (北西から)	61	写真 141	文京 73 次 (02101 調査) BW18・19 区 III 層検出状況 (西から)	83
写真 106	02003 調査 2 区 B 断面 (北西から)	62	写真 142	文京 73 次 (02101 調査) BV・BW19・20 区 III 層検出状況 (西から)	83
写真 107	02003 調査 2 区 B 断面 (西から)	62	写真 143	文京 73 次 (02101 調査) BV・BW21 区 III 層検出状況 (西から)	84
写真 108	02003 調査 2 区 C 断面 (北から)	62	写真 144	文京 73 次 (02101 調査) BV・BW22 区 III 層検出状況 (西から)	84
写真 109	02003 調査 2 区南端分 (北西から)	62	写真 145	文京 73 次 (02101 調査) BW17 区 III 層完掘状況 (西から)	85
写真 110	02003 調査 2 区南端部 (南西から)	62	写真 146	文京 73 次 (02101 調査) BW18・19 区 III 層完掘状況 (西から)	85
写真 111	02003 調査 2 区 D 断面 (北から)	62	写真 147	文京 73 次 (02101 調査) BV・BW19・20 区 III 層完掘状況 (西から)	86
写真 112	02003 調査 3 区全景 (西から)	62	写真 148	文京 73 次 (02101 調査) BV・BW21 区 III 層完掘状況 (西から)	86
写真 113	02003 調査 3 区全景 (南西から)	62	写真 149	文京 73 次 (02101 調査) BV・BW22 区 III 層完掘状況 (西から)	87
写真 114	02003 調査 3 区全景 (南東から)	63	写真 150	文京 73 次 (02101 調査) BW17 区完掘状況 (南東から)	87
写真 115	02003 調査 3 区中央北壁土層 (南から)	63	写真 151	文京 73 次 (02101 調査) BW17 区完掘状況 (西から)	88
写真 116	02003 調査 4 区全景 (南東から)	63	写真 152	文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層北端部 (西から)	88
写真 117	02003 調査 4 区南壁土層 (北から)	63			
写真 118	02004 調査 調査区全景 (西から)	64			
写真 119	02004 調査 調査区全景 (東から)	64			
写真 120	02004 調査 調査区西端部南壁土層 (北から)	64			
写真 121	02004 調査 調査区東端部南壁土層 (北から)	64			
写真 122	02005 調査 1 トレンチ全景 (西から)	67			
写真 123	02005 調査 1 トレンチ全景 (東から)	67			
写真 124	02005 調査 1 トレンチ西側全景 (南東から)	67			
写真 125	02005 調査 1 トレンチ西側土層断面 (南から)	67			
写真 126	02005 調査 2 トレンチ西端土層 (東から)	67			
写真 127	02005 調査 2 トレンチ東端土層 (北から)	67			
写真 128	02005 調査 2 トレンチ全景 (西から)	68			
写真 129	02005 調査 2 トレンチ全景 (東から)	68			
写真 130	02005 調査 3 トレンチ全景 (北から)	68			

写真 153	文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層 BV・BW22 区 (西から) ……89	写真 177	榑味 19 次 (02103 調査) 3 トレンチ西壁土層 (南東から) ……102
写真 154	文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層 BV・BW18 から 20 区 (北西から) ……89	写真 178	榑味 19 次 (02103 調査) 4 トレンチ全景 (南から) ……102
写真 155	文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層 BW17 区 (西から) ……90	写真 179	榑味 19 次 (02103 調査) 4 トレンチ西壁土層 (南東から) ……102
写真 156	文京 73 次 (02101 調査) 既設管路撤去状況調査区南西部 (南東から) ……90	写真 180	榑味 19 次 (02103 調査) 4 トレンチ北端部全景 (南から) ……102
写真 157	文京 73 次 (02101 調査) 既設管路撤去状況 (北西から) ……90	写真 181	榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ西端部全景 (北から) ……102
写真 158	文京 73 次 (02101 調査) 臨地講義の様子 1 ……90	写真 182	榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ西端部全景 (東から) ……102
写真 159	文京 73 次 (02101 調査) 臨地講義の様子 2 ……90	写真 183	榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ全景 (東から) ……102
写真 160	文京 73 次 (02101 調査) 北壁土層 (南から) ……91	写真 184	榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ東端部全景 (南から) ……102
写真 161	文京 73 次 (02101 調査) 西壁土層 (南東から) ……91	写真 185	榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ全景 (南西から) ……103
写真 162	文京 73 次 (02101 調査) 西壁土層 (北東から) ……91	写真 186	榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ全景 (南東から) ……103
写真 163	02102 調査 1 トレンチ掘削状況 ……92	写真 187	榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ東部全景 (西から) ……104
写真 164	02102 調査 1 トレンチ遠景 (北から) ……92	写真 188	榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ東部 (北西から) ……104
写真 165	02102 調査 2 トレンチ掘削状況 ……92	写真 189	榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ中央部全景 (北西から) ……104
写真 166	02102 調査 2 トレンチ遠景 (南西から) ……92	写真 190	榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ北西部全景 (南から) ……104
写真 167	榑味 19 次 (02103 調査) 1 トレンチ調査区全景 (西から) ……100	写真 191	榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ中央部全景 (東から) ……104
写真 168	榑味 19 次 (02103 調査) 1 トレンチ調査区全景 (東から) ……100	写真 192	榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ中央部土層断面 (南から) ……104
写真 169	榑味 19 次 (02103 調査) 1 トレンチ調査区全景 (南西から) ……100	写真 193	榑味 19 次 (02103 調査) 7 トレンチ全景 (東から) ……105
写真 170	榑味 19 次 (02103 調査) 1 トレンチ東端部 (西から) ……100	写真 194	榑味 19 次 (02103 調査) 8 トレンチ全景 (南から) ……105
写真 171	榑味 19 次 (02103 調査) SP-1 土層断面 (東から) ……101	写真 195	榑味 19 次 (02103 調査) 7 トレンチ南壁土層断面 (北から) ……105
写真 172	榑味 19 次 (02103 調査) SP-1 完掘状況 (東から) ……101	写真 196	榑味 19 次 (02103 調査) 8 トレンチ西壁土層断面 (東から) ……105
写真 173	榑味 19 次 (02103 調査) 2 トレンチ全景 (北から) ……101	写真 197	榑味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ全景 (東から) ……105
写真 174	榑味 19 次 (02103 調査) 2・3 トレンチ全景 (北から) ……101		
写真 175	榑味 19 次 (02103 調査) 2 トレンチ南端部全景 (東から) ……101		
写真 176	榑味 19 次 (02103 調査) 2 トレンチ西壁土層 (北東から) ……101		

写真 198	樺味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ全景 (西から)	106	除去状況 (南東から)	115
写真 199	樺味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ SP-2・SP-3 検出状況 (北から)	106	写真 222	文京 74 次 (02105 調査) 1 トレンチ表土層除去状況 (北東から)
写真 200	樺味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ SP-2・SP-3 完掘状況 (北から)	106	写真 223	文京 74 次 (02105 調査) 1 トレンチ完掘状況 (北から)
写真 201	樺味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ SP-3 土層断面 (南から)	106	写真 224	文京 74 次 (02105 調査) 1 トレンチ完掘状況 (東から)
写真 202	樺味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ SP-2 土層断面 (南から)	106	写真 225	文京 74 次 (02105 調査) 1-1 トレンチ完掘状況 (北から)
写真 203	樺味 19 次 (02103 調査) 10 トレンチ全景 (南から)	106	写真 226	文京 74 次 (02105 調査) 2 トレンチ全景 (南西から)
写真 204	樺味 19 次 (02103 調査) 10 トレンチ全景 (東から)	106	写真 227	文京 74 次 (02105 調査) 2 トレンチ土層 (西から)
写真 205	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ全景 (南から)	107	写真 228	文京 74 次 (02105 調査) 3 トレンチ土層 (東から)
写真 206	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ全景 (北から)	107	写真 229	文京 74 次 (02105 調査) 3 トレンチ全景 (東から)
写真 207	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ SX-5 検出状況 (北から)	107	写真 230	文京 74 次 (02105 調査) 3 トレンチ全景 (南から)
写真 208	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ SX-5 完掘状況 (北から)	107	写真 231	文京 74 次 (02105 調査) 4 トレンチ北壁土層 (南から)
写真 209	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ SX-5 土層断面 (南東から)	108	写真 232	文京 74 次 (02105 調査) 4 トレンチ完掘状況 (南から)
写真 210	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ SX-5 土層断面 (東から)	108	写真 233	文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ III 層検出状況 (南から)
写真 211	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ SX-5 土層断面 (北東から)	108	写真 234	文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ全景 (南西から)
写真 212	樺味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ SX-4 完掘状況 (東から)	108	写真 235	文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ完掘状況 (南から)
写真 213	樺味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ全景 (北から)	108	写真 236	文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ東壁土層 (西から)
写真 214	樺味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ全景 (南から)	108	写真 237	文京 74 次 (02105 調査) 6 トレンチ土層 (南東から)
写真 215	樺味 19 次 (02103 調査) 出土遺物	109	写真 238	文京 74 次 (02105 調査) 6 トレンチ土層 (東から)
写真 216	樺味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ北半部全景 (南西から)	110	写真 239	文京 74 次 (02105 調査) 6 トレンチ完掘状況 (南から)
写真 217	樺味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ南東部全景 (南西から)	110	写真 240	文京 74 次 (02105 調査) 7 トレンチ完掘状況 (南から)
写真 218	02104 調査 調査区全景 (北から)	111	写真 241	文京 74 次 (02105 調査) 7 トレンチ遠景 (南西から)
写真 219	02104 調査 南壁土層 (北から)	111	写真 242	文京 74 次 (02105 調査) 8 トレンチ完掘状況 (東から)
写真 220	文京 74 次 (02105 調査) 出土遺物	115		
写真 221	文京 74 次 (02105 調査) 1 トレンチ表土層			

写真 243	20106 調査	調査区全景 (南西から) ……	119	写真 273	樽味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ SC-2 検出状況 (東から) ……	147
写真 244	20106 調査	南端部西壁土層 (東から) ……	119	写真 273	樽味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ SC-2 検出状況 (東から) ……	147
写真 245	20106 調査	中央部の状況 (南西から) ……	120	写真 274	樽味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ SC-2 検出状況 (北から) ……	147
写真 246	20106 調査	中央部の土層 (南東から) ……	120	写真 275	樽味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ SC-2 遺物出土状況 (北から) ……	147
写真 247	20106 調査	北端部の状況 (南西から) ……	120	写真 276	樽味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ SC-2 完掘状況 (北から) ……	147
写真 248	20106 調査	北端部の土層 (南西から) ……	120	写真 277	樽味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ SC-2 東部遺物出土状況 (西から) ……	148
写真 249	02107 調査	1-1 区完掘状況 (西から) ……	122	写真 278	樽味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ SC-2 完掘状況 (東から) ……	148
写真 250	02107 調査	1-1 区西端南壁土層 (北から) ……………	122	写真 279	樽味 20 次 (02109 調査) 4 トレンチ全景 (南 から) ……	148
写真 251	02107 調査	1-1 区全景 (南西から) ……	122	写真 280	樽味 20 次 (02109 調査) 5 トレンチ全景 (南 から) ……	148
写真 252	02107 調査	1-1 区中央部南壁土層 (北から) ……………	123	写真 281	樽味 20 次 (02109 調査) 6 トレンチ全景 (南 から) ……	148
写真 253	02107 調査	1-2 区完掘状況 (西から) ……	123	写真 282	樽味 20 次 (02109 調査) 7 トレンチ全景 (東 から) ……	148
写真 254	02107 調査	1-3 区完掘状況 (北から) ……	123	写真 283	樽味 20 次 (02109 調査) 8 トレンチ全景 (南 から) ……	148
写真 255	02107 調査	2-1 区西部完掘状況 (南から) ……………	123	写真 284	樽味 20 次 (02109 調査) 9 トレンチ全景 (東 から) ……	148
写真 256	02107 調査	2-1 区東端部完掘状況 (北西か ら) ……	123	写真 285	樽味 20 次 (02109 調査) 10 トレンチ全景 (南 東から) ……	149
写真 257	02107 調査	2-2 区西壁土層 (東から) ……	123	写真 286	樽味 20 次 (02109 調査) 11 トレンチ全景 (東 から) ……	149
写真 258	02107 調査	2 区全景 (西から) ……	123	写真 287	樽味 20 次 (02109 調査) 11 トレンチ全景 (北 から) ……	149
写真 259	02108 調査	1 トレンチ全景 (南から) ……	126	写真 288	樽味 20 次 (02109 調査) 25 トレンチ 北西 隅土層断面 (東から) ……	149
写真 260	02108 調査	1 トレンチ全景 (北から) ……	126	写真 289	樽味 20 次 (02109 調査) 25 トレンチ北東隅 土層断面 (西から) ……	149
写真 261	02108 調査	1 トレンチ南壁土層 (北から) ……………	126	写真 290	樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ西部土 層断面 (東から) ……	149
写真 262	02108 調査	1 トレンチ北壁土層 (南から) ……………	126	写真 291	樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ南部土 層断面 (北から) ……	149
写真 263	02108 調査	2 トレンチ全景 (西から) ……	126	写真 292	樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ全景 (東 から) ……	149
写真 264	02108 調査	2 トレンチ西端部北壁土層 (南 から) ……	126	写真 293	樽味 20 次 (02109 調査) 25 トレンチ全景 (北 から) ……	149
写真 265	02108 調査	3 トレンチ全景 (南から) ……	126			
写真 266	02108 調査	3 トレンチ全景 (北から) ……	126			
写真 267	樽味 20 次 (02109 調査)	1 区全景 (東から) ……………	146			
写真 268	樽味 20 次 (02109 調査)	1 区東部全景 (西 から) ……	146			
写真 269	樽味 20 次 (02109 調査)	1 トレンチ全景 (東 から) ……	147			
写真 270	樽味 20 次 (02109 調査)	2 トレンチ SC-1 検 出状況 (北から) ……	147			
写真 271	樽味 20 次 (02109 調査)	2 トレンチ SC-1 検 出状況 (東から) ……	147			
写真 272	樽味 20 次 (02109 調査)	2 トレンチ SC-1 完 掘状況 (南から) ……	147			

写真 294	東から) 150 樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ全景 (北から) 150	写真 315	樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ SP-4 完掘状況 (北から) 153
写真 295	樽味 20 次 (02109 調査) 2 区全景 (東から) 151	写真 316	樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ完掘 状況 (北から) 154
写真 296	樽味 20 次 (02109 調査) 13 トレンチ全景 (南 から) 151	写真 317	樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ東壁 土層断面 (西から) 154
写真 297	樽味 20 次 (02109 調査) 13 トレンチ西壁土 層断面 (東から) 151	写真 318	樽味 20 次 (02109 調査) 23 トレンチと 24 トレンチ遠景 (西から) 154
写真 298	樽味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ SX-8・ 9 検出状況 (東から) 151	写真 319	樽味 20 次 (02109 調査) 23 トレンチ全景 (南から) 154
写真 299	樽味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ SX-8・ 9 検出状況 (南から) 151	写真 320	樽味 20 次 (02109 調査) 24 トレンチ全景 (南から) 154
写真 300	樽味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ完掘状 況 (東から) 152	写真 321	樽味 20 次 (02109 調査) 24 トレンチ東壁 土層断面 (西から) 154
写真 301	樽味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ完掘状 況 (北から) 152	写真 322	樽味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ全景 (東から) 154
写真 302	樽味 20 次 (02109 調査) 15 トレンチ全景 (東 から) 152	写真 323	樽味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ全景 (西から) 154
写真 303	樽味 20 次 (02109 調査) 15 トレンチ全景 (北 から) 152	写真 324	樽味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ西側 土層 (西から) 155
写真 304	樽味 20 次 (02109 調査) 16 トレンチ全景 (西 から) 152	写真 325	樽味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ東側 土層 (東から) 155
写真 305	樽味 20 次 (02109 調査) 17 トレンチ全景 (南 から) 152	写真 326	樽味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ南側 土層 (南から) 155
写真 306	樽味 20 次 (02109 調査) 18 トレンチ全景 (東 から) 152	写真 327	樽味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ北側 土層 (北から) 155
写真 307	樽味 20 次 (02109 調査) 18 トレンチ北壁 土層断面 (南から) 152	写真 328	樽味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ全景 (西から) 155
写真 308	樽味 20 次 (02109 調査) 19 トレンチ全景 (南から) 153	写真 329	樽味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ全景 (東から) 155
写真 309	樽味 20 次 (02109 調査) 20 トレンチ全景 (西から) 153	写真 330	樽味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ完掘 状況 (東から) 156
写真 310	樽味 20 次 (02109 調査) 21 トレンチ全景 (東から) 153	写真 331	樽味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ完掘 状況 (西から) 156
写真 311	樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ全景 (北から) 153	写真 332	樽味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ全景 (西から) 156
写真 312	樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ SP-3 土層断面 (北から) 153	写真 333	樽味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ完掘 状況 (西から) 156
写真 313	樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ SP-3 完掘状況 (北から) 153	写真 334	樽味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ SK-7 検出状況 (東から) 157
写真 314	樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ SP-4 土層断面 (北から) 153	写真 335	樽味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ SK-7 検出状況 (南から) 157
		写真 336	樽味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ SK-7

写真 337	遺物出土状況（西から）…………… 157 樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ SK-7 遺物出土状況（南から）…………… 157	写真 346	北壁土層断面（南から）…………… 159 樽味 20 次（02109 調査）30 トレンチ全景 （西から）…………… 160
写真 338	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ SK-7 北壁土層断面（南西から）…………… 157	写真 347	樽味 20 次（02109 調査）30 トレンチ全景 （東から）…………… 160
写真 339	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ SP-10 完掘状況（南から）…………… 157	写真 348	樽味 20 次（02109 調査）31 トレンチ全景 （南から）…………… 160
写真 340	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ SP-11 土層断面（南から）…………… 157	写真 349	樽味 20 次（02109 調査）31 トレンチ全景 （南東から）…………… 161
写真 341	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ SP-11 完掘状況（南から）…………… 157	写真 350	樽味 20 次（02109 調査）32 トレンチ西端 部完掘状況（南から）…………… 161
写真 342	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ SR-6 検出状況（西から）…………… 158	写真 351	樽味 20 次（02109 調査）32 トレンチ全景 （西から）…………… 161
写真 343	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ SR-6 検出状況（東から）…………… 158	写真 352	樽味 20 次（02109 調査）出土遺物…………… 162
写真 344	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ東部 全景（南西から）…………… 159	写真 353	02110 調査 トレンチ全景（北東から）…………… 164
写真 345	樽味 20 次（02109 調査）29 トレンチ東部	写真 354	02110 調査 完掘状況（東から）…………… 164

表 目 次

表 1	2020・2021 年度の埋蔵文化財小委員会 …… 6	表 10	文京遺跡 72 次（02002 調査）出土土器観察表 …………… 41・42
表 2	2020・2021 年度 埋蔵文化財調査室の体制 …… 6	表 11	文京 73 次（02101 調査）出土遺物観察表 …… 78
表 3	2020 年度発掘調査一覧 …… 6	表 12	樽味 19 次（02103 調査）出土遺物観察表 …………… 109
表 4	2020 年度発掘調査一覧 …… 6	表 13	文京 74 次（02105 調査）出土遺物観察表 …………… 118
表 5	2021 年度調査室・調査室資料利用一覧 …… 6	表 14	樽味 20 次（02109 調査）出土遺物観察表 …………… 163
表 6	2021 年度調査室・調査室資料利用一覧 …… 6	表 15	樽味 20 次（02109 調査）出土土器観察表 …………… 163
表 7	2020・2021 年度の埋蔵文化財調査依頼・照会 一覧…………… 7		
表 8	2020・2021 年度の埋蔵文化財調査依頼・照会 一覧…………… 7		
表 9	文京遺跡 72 次（02002 調査）出土土器観察表 …………… 40		

資 料 目 次

資料 1	愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会 議埋蔵文化財小委員会内規…………… 2	資料 3	愛媛大学構内の埋蔵文化財発掘調査における 安全管理事項…………… 4・5
資料 2	愛媛大学埋蔵文化財調査室規程…………… 3		

I 埋蔵文化財小委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1 埋蔵文化財小委員会

埋蔵文化財調査室は、「愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会内規」(資料1)で設置された埋蔵文化財小委員会の下、「愛媛大学埋蔵文化財調査室規程」(資料2)に基づき、発掘調査実施計画の立案およびその実施、出土資料の整理・保管、報告書作成と調査成果の公開・利活用、本学における教育・研究の支援業務を行っている。また発掘調査時の労働災害を防ぐため、「愛媛大学構内の埋蔵文化財発掘調査における安全管理事項」を設けている(資料3)。※資料1～3は令和4年3月現在である。

なお、埋蔵文化財小委員会は、意思決定の迅速化及び事務の効率化を図るため、2022年7月1日より埋蔵文化財調査室運営委員会を設置し、運営している。2020年度と2021年度の埋蔵文化財小委員会(以下、小委員会とする)の体制は表1の通りである。

(1) 2020年度埋蔵文化財小委員会

2020年度の小委員会は、2020年7月9日にWeb会議で開催した。

小委員会では、議題1. 令和元年度事業報告、議題2. 平成元年度決算、議題3. 令和2年度事業計画案、議題4. 令和2年度予算案について審議された。また報告1. 埋蔵文化財小委員会委員について、報告した。

議題1-2に関して、審議の結果、異議なく了承された。

議題3に関して、令和2年度事業計画案に基づいて、「1. 発掘調査」、「2. 整理作業」、「3. 調査報告書・年報の刊行」、「4. 利活用に係る業務」について説明した。特に「4. 利活用に係る業務」では、平成31(2019)年4月に改正された文化財保護法によって未指定を含めた文化財をまわぐりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取組んでいくことが必要と明示されたことを受け、前にも増して大学研究機関にも文化財の計画的保存と利活用が求められるようになり、埋蔵文化財調査室での利活用に関する取り組みの重要性を説明した。以上の4事項について、種々審議の結果、異議なく了承された。

議題4について、令和2年度予算案に基づく詳細な説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

以上の審議内容は、学術研究会議に付議することになった。

報告1に関して、宇野委員長から令和2年度の埋蔵文化財小委員会委員の紹介(表1)について報告があった。

(2) 2021年度埋蔵文化財小委員会

2021年度の小委員会は、2021年7月19日にWeb会議で開催した。

小委員会では、議題1. 令和2年度事業報告、議題2. 令和2年度決算、議題3. 令和3年度事業計画案、議題4. 令和3年度予算案について審議された。また報告1. 埋蔵文化財小委員会委員について報告した。その他として埋蔵文化財小委員会名称及び内規改正について説明した。

議題1-2に関して、審議の結果、異議なく了承された。

議題3に関して、令和3年度事業計画案に基づいて、「1. 発掘調査」、「2. 整理作業」、「3. 調査報告書・年報の刊行」、「4. 利活用に係る業務」について説明した。

特に「4. 利活用に係る業務」では、最新の調査成果を踏まえ、愛媛大学ミュージアムで特別展を催すことを説明した。また発掘調査におけるペーパーレス化、3D測量の導入と3Dモデルの活用することで発掘調査データのデジタル化とDXに取り組むことを説明した。

かねてより課題であった作業スペースの狭隘解消と出土文化財の適切な収蔵管理のため、東長戸宿倉保管遺物の移転と合わせて埋蔵文化財保管倉庫を新営することを説明した。

以上について、種々審議の結果、異議なく了承された。

議題4について、令和3年度予算案に基づく詳細な説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

以上の審議内容は、学術研究会議に報告することになった。

報告1に関して、満田委員長から令和3年度の埋蔵文化財小委員会委員(表1)について報告があった。またその他として満田委員長から意思決定の迅速化及び事務の効率化を図るため、埋蔵文化財小委員会名称及び内規改正の検討を行う必要があることが説かれ、今後検討していくことになった。

資料 1 愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会内規

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議規程第7条第1項の規定に基づき、愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議に置く愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会（以下「小委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 小委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) 調査室の予算及び決算に関すること。
- (3) 愛媛大学の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (4) 愛媛大学の埋蔵文化財の保護に係る重要事項に関すること。
- (5) その他調査室の運営に関すること。

(組織)

第3条 小委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学先端研究・学術推進機構長（以下「機構長」という。）
- (2) 調査室長
- (3) 調査室副室長
- (4) 調査室の専任教員
- (5) 関連学部等の専任教員 若干人
- (6) 研究支援部長及び施設基盤部長
- (7) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、当該教員の所属する当該学部等の長の推薦に基づき、機構長が委嘱する。

3 第1項第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 小委員会に委員長を置き、機構長をもって充てる。

2 委員長は、小委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 小委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 小委員会に関する事務は、研究支援部研究支援課及び施設基盤部施設企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、小委員会の運営に関し必要な事項は、小委員会が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月10日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

この内規は、令和2年2月12日から施行する。

資料2 愛媛大学埋蔵文化財調査室規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 調査室は、国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究を行うとともに、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究における学術的・社会的義務を果たすことを目的とする。

(業務)

第3条 調査室は、本学の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
- (2) 遺物の整理及び保管に関すること。
- (3) 報告書の作成に関すること。
- (4) 出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。
- (5) 本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。
- (6) その他埋蔵文化財の調査研究に必要な事項

(組織)

第4条 調査室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 専任教員
- (3) 兼任教員
- (4) その他必要な職員（以下「調査室職員」という。）

2 調査室に、前項のほか、副室長を置くことができる。

(学術研究会議)

第5条 調査室の業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）において審議する。

(室長)

第6条 室長及び副室長は、本学の専任の教員のうちから、学術研究会議が推薦し、学長が選考する。

2 室長及び副室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、室長又は副室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、副室長の任期は、室長の任期の末日を超えることができない。

(専任教員)

第7条 専任教員は、学術研究会議が推薦し、国立大学法人愛媛大学人事委員会の議を経て、学長が選考する。

(兼任教員)

第8条 兼任教員は、本学の専任教員のうちから、室長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第9条 室長は、調査室の業務を掌理する。

- 2 副室長は、室長の職務を補佐し、室長が不在又は事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 専任教員は、室長の職務を助け、調査室の業務を遂行する。
- 4 兼任教員は、調査室の専任教員とともに調査室の業務を遂行する。
- 5 調査室職員は、調査室の業務に従事する。

(専門員)

第10条 調査室に、必要に応じて、埋蔵文化財の調査研究に関し、それぞれの専門分野から特長な知識及び技術について協力及び助言を得るため、専門員を置くことができる。

2 専門員に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 調査室に関する事務は、施設整備部施設企画課及び研究支援部研究支援課において処理する。

(補則)

第12条 この規程に定めるもののほか、調査室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程（平成16年規則第19号）は、廃止する。
- 3 国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、令和2年2月12日から施行する。

資料3 愛媛大学構内の埋蔵文化財発掘調査における安全管理事項

埋蔵文化財調査室長
施設整備部長

I. 目的

この安全管理事項は、愛媛大学構内で実施する埋蔵文化財発掘調査において、安全管理のために講ずべき必要な措置を定める。

II. 安全管理者（調査員、監督職員、現場代理人）が発掘現場で注意すべき事項

調査に関わる調査員、監督職員、現場代理人（以下「安全管理者」という）は、調査に関して、施工方法及び作業手順等について、安全な作業の遂行を損なうおそれのないように配慮しなければならない。

安全管理者は、それぞれの作業において、次の事項を周知徹底させなければならない。

1. 服装・装備・用具等

- 1) 服装は、安全で機能的で動きやすいものとする。
また、靴は作業に応じ長靴、安全靴、運動靴等安全に配慮した靴を履くこと。
- 2) 作業員は、ヘルメットを着用する。
- 3) グライNDERを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
- 4) スコップ・草取りなどの用具は、危険がないように使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。

2. 掘削

1) 法面の角度

労働安全衛生規則第356条に準じて、発掘調査現場の状況を勘案し、安全を確保する。

2) 法面の保護

法面はシート等で覆うなど、崩落防止のために必要な保護措置をとる。

また、湧水や長期間の開削により法面が崩落するおそれもあるので、亀裂の有無や崩落の危険性がないか、安全管理者が常に状態の把握に努めること。

3) 深い調査区（深さ1.5 m以上の調査区）

遺構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。

場合によっては、掘削範囲を広くカットして対応する。

なお、作業現場内への安全に昇降するための、階段等を設置する。また、調査区内の段差には、適切な資材で階段等を設置すること。

3. 高所（高さ2m以上の場所）での作業

- 1) 作業中には、安全帯を使用する。
- 2) ローリングタワーなど架台を組んだ場合は、最上段に安全手すりを設け安全を確保する。
- 3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。

4. 発掘用機械類の操作

（ベルトコンベア・ポンプ等）

- 1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工事用電力の保安責任者が安全確認を行う。
- 2) ベルトコンベア・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。
- 3) ベルトコンベアは、丈夫な架台に固定した状態で使用するとともに、接触あるいは巻き込みなどによる事故のないよう十分に留意すること。また、ベルトコンベアを重ねたつなぎ目部分を固定し、なるべく土が落ちないように措置をする。
- 4) ベルトコンベアの直下での作業・通行は行わない。
- 5) ベルトコンベアの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保した上で移動させる。

（重機関係）

- 1) 重機の免許所有者以外は運転しない。
- 2) 運転者は、周囲の安全に注意する。
- 3) 稼働中は、重機の旋回半径内に立ち入らない。

5. 健康管理

- 1) 作業員には毎日、自己の健康状態を把握するため、「チェックシート等」を用いて体調をチェックして現場代理人へ提出させる。
- 2) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

II. その他

受注者は、次の事項を留意しなければならない。

1. 受注者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康管理に努めること。
2. 発掘調査作業区の上空及び隣接する部分では、工事等を行わないこと。
3. 現場への第三者の立ち入りを防止するため、フェンス等で囲い注意を喚起する標識を設置すること。
4. 毎週1回以上、発掘現場内の安全管理巡視を行い、監督職員に報告すること。（巡視簿を別途作成）
5. 緊急時の連絡体制を整備すること。
6. 熱中症予防対策を講ずること。

附則

- 1 この安全管理事項は、令和元年12月11日から施行する。

2 2020年度・2021年度の埋蔵文化財調査室の事業

(1) 調査と体制

2020年度・2021年度の埋蔵文化財調査室の体制は表2の通りである。

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における掘削を伴う諸工事に際して、埋蔵文化財への影響を周辺に

おける既往の調査などから判断し、それに応じた対応を行っている。2004年度、国立大学法人愛媛大学発足以降、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議を重ね、2007年度から周知の埋蔵文化財包蔵地において、文化財保護法第93条に基づき、規模の大小に関わらず、工事着手の60日前までに土木工事を

表1 2020・2021年度の埋蔵文化財小委員会

先臨研究・学術推進機構学術研究推進課埋蔵文化財小委員会			
氏名	所属・役職	備考	
委員長 宇野 英典	理事（学術・環境）（～2021年3月31日）	第1号委員	
委員 瀧田 典明	理事（学術・経営情報）（2021年4月1日～）	第1号委員	
委員 松本 昌彦	埋蔵文化財調査室長（～2021年3月31日）	第2号委員	
委員 柴田 昌亮	埋蔵文化財調査室員（2021年4月1日～）	第2号委員	
委員 柴田 昌亮	埋蔵文化財調査室員（～2021年3月31日）	第3号委員	
委員 三吉 秀亮	埋蔵文化財調査室員（～2021年3月31日）	第4号委員	
委員 三吉 秀亮	埋蔵文化財調査室員（2021年4月1日～）	第4号委員	
委員 村上 恭浩	アジア古代産業考古学研究室センター教授	第5号委員	
委員 太田 亨	教育学部准教授	第5号委員	
委員 長谷川 和彦	研究支援部長	第6号委員	
委員 高野 宏	施設基盤部長（～2021年3月31日）	第6号委員	
委員 田中 宏	施設基盤部長（2021年4月1日～）	第6号委員	

表2 2020・2021年度 埋蔵文化財調査室の体制

先臨研究・学術推進機構学術研究推進課埋蔵文化財調査室			
氏名	所属		
室長（～2021年3月31日）	松本 昌彦	漢文学部助教授	
室員（2021年4月1日～）	柴田 昌亮	埋蔵文化財調査室教授	
副室長（～2021年3月31日）	柴田 昌亮	埋蔵文化財調査室教授	
責任教員	三吉 秀亮	埋蔵文化財調査室講師・兼教授	
兼任教員	吉田 広	ミュージアム室教授・兼教授	
技術補佐員	赤木 裕	研究支援部長	
研究補助員	加島 なおみ	研究支援部長	
研究補助員（2021年4月1日～）	大西 希子	研究支援部長	
技術補佐員（～2021年3月31日）	大西 希子	研究支援部長	
技術補佐員	瀧口 憲	研究支援部長	
技術補佐員（2022年2月1日～）	吉田 倫美	研究支援部長	

表3 2020年度発掘調査一覧

調査番号	団地	通称	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物（コナリ）
02002	城北	文京72次	（城北団地）基幹・環境整備（排水設備改修）工事	本格調査 （小規模調査）	三吉	2020年12月21日 ～2021年1月12日	20.3㎡	3

表4 2020年度立会調査一覧

調査番号	団地	通称	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物（コナリ）
02001	持田	持田	（持田団地）附属小学校校舎改修その他工事	立会調査	三吉	2020年8月3日～25日 2021年8月9日	188㎡	1
02003	城北	文京	（城北団地）学内LAN設備工事	立会調査	三吉	2021年1月6日 ～2021年2月9日	133㎡	0
02004	城北	文京	（城北団地）教育学部2号館（旧館）改修その他工事	立会調査	三吉	2021年1月12日	9㎡	0
02005	樺味	樺味	（樺味団地）学内LAN設備工事	立会調査	三吉	2021年2月18日 ～2021年2月22日	10㎡	0

表5 2021年度発掘調査一覧

調査番号	団地	通称	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物（コナリ）
02101	城北	文京73次	（城北団地）統合事務室改修その他工事	本格調査 （大規模調査）	三吉	2021年7月1日 ～2021年8月3日	365㎡	1
02103	樺味	樺味19次	（城北団地）基幹・環境整備（排水設備改修）工事 （樺味地区）	本格調査 （小規模調査）	三吉	2021年6月23日 ～2021年12月7日	147.2㎡	1
02105	城北	文京74次	（城北団地）レジオナルコムズ（旧称）新館その他工事	本格調査 （小規模調査）	三吉	2021年10月11日 ～2021年10月15日	30.8㎡	1
02109	樺味	樺味20次	（樺味団地）展示部会館厨房等改修その他工事	本格調査 （小規模調査）	三吉	2022年1月11日 ～2022年1月27日	106㎡	2

表6 2021年度立会調査一覧

調査番号	団地	通称	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物（コナリ）
02102	城北	文京・樺味	（城北・樺味地区）埋設電線管線に伴う掘削工事	立会調査	三吉	2021年6月1日 ～2021年6月7日	1㎡	0
02104	樺味	樺味	（樺味地区）基幹・環境整備（さく井設備）工事	立会調査	三吉	2021年9月30日	1㎡	0
02106	城北	文京	（城北団地）学内LANケーブル（旧館）設備工事	立会調査	三吉	2021年10月18日	6㎡	0
02107	城北	文京	（城北団地）基幹・環境整備（排水設備改修）工事 （文京野々島地区）	立会調査	三吉	2021年11月2日	22㎡	1
02108	城北	文京	（城北団地）長通線養護人等改修機械設備工事	立会調査	三吉	2021年11月18日 ～2021年11月19日	20㎡	0
02110	樺味	樺味	（樺味地区）基幹・環境整備（排水設備改修）工事 （樺味地区）	立会調査	三吉	2021年10月2日	3.6㎡	0

提出している。この土木工事局に対する通知に基づき、発掘調査・工事立会・慎重工事を行っている。また、周辺の埋蔵文化財包蔵地とされていない団地でも、遺跡が存在しないというわけではなく、松山市教育委員会から愛媛大学による主体的な工事立会や確認調査の実施が求められている。

2020年度における埋蔵文化財に対する影響への確認と調査依頼は10件であった（表3・4・7）。これに対して、試掘調査や周辺における既往の調査成果から埋蔵文化財への影響を判断し、土木工事局等の所要の

手続きを経た上で、1件（城北団地1件）について発掘調査を行った（表3）。その他に、工事立会4件を実施した（表4）。

2021年度における埋蔵文化財に対する影響への確認と調査依頼は14件であった（表5～7）。これに対して、試掘調査や周辺における既往の調査成果から埋蔵文化財への影響を判断し、土木工事局等の所要の手続きを経た上で、4件（城北団地2件、樺味団地2件）について発掘調査を行った（表5）。その他に、工事立会6件を実施した（表6）。

表7 2020・2021年度の慎重工事対応一覧

日付	発 給	工 事 名	意 見 書・回 答 文 書	調 査
2020年6月25日	施設整備部長	(城北団地) 教育第2号館(旧)改修工事	2020年7月2日 既設掘り返し部分の再掘削であり、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事
2020年7月31日	施設整備部長	(城北団地) 工部局旧栄徳広場改修工事	2020年8月4日 旧栄徳広場以下は掘削しないことから、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事
2020年8月6日	施設整備部長	(持田団地) 附属小学校本館等改修・機械設備工事	2020年8月17日 一部埋蔵文化財に影響があると判断したが、松山市教委と協議の結果、埋蔵文化財に影響が及ばないようにすることを確認した	慎重工事
2020年11月24日	施設整備部長	(持田団地) 附属小学校校舎等改修電気・機械設備・その他工事	2020年11月25日 既設掘り返し部分の再掘削であり、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事
2021年1月21日	施設整備部長	(城北団地) 地盤調査に伴う掘削工事	2021年1月26日 掘削深度から、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事
2021年5月25日	工学部理工学研究室	(城北団地) 埋設電線実装に伴う掘削工事	2021年5月26日 既設掘り返し部分の再掘削であり、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事
2021年6月1日	施設整備部長	(城北団地) 共通議事棟A改修工事・機械設備工事	2021年6月2日 既設掘り返し部分の再掘削であり、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事
2021年9月9日	施設整備部長	(城北団地) 児童データ活用環境保全型運動施設修繕工事	2021年9月10日 既設掘り返し部分の再掘削であり、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事
2021年10月12日	施設整備部長	(樺味団地) 農学部会館附属改修その他電気設備工事	2021年10月15日 既設掘り返し部分の再掘削であり、埋蔵文化財に影響が及ばないと判断	慎重工事

表8 2020・2021年度調査室・調査室資料利用一覧

日付	利用 者	利 用 資 料	目 的	利 用 内 容
1 2020/4/4	徳島文理大学	刊行報告書	研究	報告書希望
2 2020/7/15	愛媛県埋蔵文化財センター職員	文京遺跡12・14次調査出土遺物 石器	研究	熟覧・実測・写真撮影
3 2020/7/15	愛媛大学法文学部学生	刊行報告書	研究	借用・データ提供
4 2020/7/20	西条市教育委員会職員	文京遺跡12次調査出土遺物 土器	研究	熟覧
5 2020/7/20	西条市教育委員会職員	刊行報告書	研究	報告書希望
6 2020/9/15	愛媛県埋蔵文化財センター職員	刊行報告書	研究	報告書希望
7 2020/12/3	東条郡内学生	論文・報告書複写	研究	複写・送付
8 2020/12/10	愛媛大学法文学部学生	刊行報告書	研究	借用
9 2020/12/14	愛媛大学法文学部学生	測量原図	研究	熟覧
10 2020/12/21	愛媛大学社会共創学部教員	文京遺跡72次調査地(臨地講義)	教育	見学
11 2021/1/29	大洲市教育委員会職員	刊行報告書	研究	報告書希望
12 2021/1/29	大洲市教育委員会職員	文京遺跡10・12次調査出土遺物 石器	研究	熟覧・写真撮影
13 2021/2/3	愛媛大学埋蔵文化財調査室教員	所蔵遺物	教育	借用
14 2021/2/25	一般社会人	日招八幡大神社	その他	専門知識の提供
15 2021/3/15	愛媛県埋蔵文化財センター職員	刊行報告書	研究	報告書希望
16 2021/3/15	愛媛県埋蔵文化財センター職員	刊行報告書	研究	報告書希望
17 2021/4/9	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡10次調査出土遺物3コンテナ分	教育	借用
18 2021/7/8	愛媛大学社会共創学部教員・学生	文京遺跡73次調査地(臨地講義)	教育	見学
19 2021/7/8	愛媛大学法文学部教員・学生	文京遺跡73次調査地(臨地講義)	教育	見学
20 2021/7/30	愛媛県埋蔵文化財センター職員	文京遺跡10・14・16次調査出土遺物 石器	研究	熟覧・実測・写真撮影
21 2021/8/10	一般社会人	日招八幡大神社 社神治癒安全に関する打ち合わせ	技術提供	専門知識の提供
22 2021/12/17	静岡大学人文社会学部教員	文京遺跡45次調査切り取り資料	研究	見学
23 2021/12/23	愛媛大学法文学部教員・学生	文京遺跡45次調査切り取り資料	教育	見学
24 2021/12/23	西条市教育委員会職員	遺物撮影機器の技術的検討	技術指導	専門知識の提供
25 2022/1/14	愛媛大学アジア古代史・考古学センター職員	書籍	研究	借用
26 2022/2/3	愛媛県歴史文化博物館学芸員	文京遺跡16次調査全景写真	展示	データ提供
27 2022/2/7	愛媛大学法文学部学生	書籍	研究	熟覧
28 2022/2/28	愛媛大学法文学部教員	書籍	研究	借用

(2) 整理作業

2020年度の整理作業は、年報ならびに報告書刊行に向けて、文京遺跡15・17・34・36・71次調査、樺味遺跡18次調査、持田遺跡14次調査、御幸遺跡1次調査の遺物実測・写真撮影作業、2019年度に調査を実施した文京遺跡71次調査、樺味遺跡18次調査、持田遺跡14次調査、立会調査で出土した遺物の注記・復

元作業・遺物台帳作成作業、実測・写真撮影作業、遺構実測図のデジタルトレース作業・写真の整理作業を行った。

2021年度の整理作業は、年報ならびに報告書刊行に向けて、文京遺跡15・17・34・36・71・72次調査、御幸遺跡1次調査の遺物実測・写真撮影作業、2020年度に調査を実施した文京遺跡72次調査、立会調査で出

土した遺物の注記・復元作業・遺物台帳作成作業、実測・写真撮影作業、遺構実測図のデジタルトレース作業・写真の整理作業を行った。

また、文京遺跡45次調査について、縄文時代後期のササキト石器の実測・トレース作業を実施した。また土壌切り取り資料の分析を行った。

(3) 調査報告書・年報の作成作業

① 2020 年度

2019 年度に調査した立会調査の報告、樺味 18 次調査（（樺味）外灯設備改修工事）・持田 14 次調査（（持田）基幹・環境整備（排水設備等改修）工事）の正式報告をまとめた『埋蔵文化財調査室年報—2019 年度—樺味遺跡 18 次調査・持田遺跡 14 次調査正式報告』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告書 X X X IV）を 2021 年 2 月に刊行した。

年報の刊行後、全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館等へ発送した。

② 2021 年度

2020 年度に調査を実施した遺跡の正式報告および概要報告・調査などの報告をまとめた 2020 年度埋蔵文化財調査室年報は、2021 年度埋蔵文化財調査室年報と合冊して 2022 年度に刊行することにした。

(4) 調査成果の公開・利活用

埋蔵文化財調査室では、これまで実施してきた構内遺跡出土の遺物や調査に関するデータなどを保管している。これらの調査室保管資料に関して、学内外から公開や利用の要望が寄せられてきた。調査室では、調査成果の一部を愛媛大学ミュージアムにおいて常設展示し、広報パンフレットの作成・配布や Web を利用した情報発信、公開講座の企画・実施、愛媛大学ミュージアムを利用した常設展・特別展などを通じて積極的に広報活動を進めている。

① 文京遺跡 1 次調査地の標柱リニューアル

2020 年度、工学部 2 号館に敷設されていた文京遺跡 1 次調査地であることを示す標柱の老朽化に伴い、リニューアルした（写真 1）。

② 保管資料の活用状況

コロナ禍で様々な制限があり、例年に比べると少ないものの以下の利用があった。

2020 年度の埋蔵文化財調査室保管資料等の利用申請件数は 16 件であった（表 8）。内訳は学内 5 件（刊行報告書借用 2 件、発掘調査見学 1 件、所蔵遺物借用 1 件、測量原図熱覧 1 件）、学外 11 件（刊行物寄贈依頼 6 件、出土遺物熱覧 3 件、資料複写 1 件、専門知識の提供 1 件）である。

2021 年度の埋蔵文化財調査室保管資料等の利用申請件数は 12 件であった（表 8）。内訳は学内 7 件（教材用資料利用依頼 1 件、発掘調査見学 2 件、土壌分析見学 1 件、書籍借用 2 件、書籍熱覧 1 件）、学外 5 件（出土遺物熱覧 1 件、土壌分析見学 1 件、写真データの提供 1 件、専門知識の提供 2 件）である。

この他に法文学研究科埋蔵文化財論課題研究における大学院教育の教材としても利用されている。

文京遺跡 45 次調査の土層断面を大型土壌試料として切り取っていた土壁（1m × 3m）2 個は、縄文時代の耕作痕跡を明らかにするため、土壌分析を行った（写真 2～5）。分析は愛媛大学ミュージアム中庭で行い、その作業を見学可能にしたが、コロナ禍で見学者を限定せざるを得なかったのが残念である。作業の様子は動画にして、後述する特別展で公開した。

かねてより課題であった作業スペースの狭隘解消と出土文化財の適切な収蔵管理のため、東長戸倉倉庫保管遺物の移転と合わせて埋蔵文化財保管倉庫を樋又団地の埋蔵文化財調査室・職員会館北側に新築した。これにより収蔵コンテナ 657 箱を保管し、教育・研究に幅広く活用できるようになった（写真 6～10）。

③ 愛媛大学ミュージアム展示品関連事業

2009 年 11 月に開館した愛媛大学ミュージアム「人間の営み」ゾーンにおいて、文京遺跡を中心とした構内遺跡出土資料の常設展示を行っている。

④ 広報パンフレットの配布

広報パンフレット『発掘愛媛大学』を作成しており、年度当初には、新入学生ならびに新規採用職員を対象として約 2,400 部を配布するとともに、希望者には随時配布している。

⑤ Web を利用した広報活動

埋蔵文化財調査室では、2004 年度にホームページを開設し、発掘調査や情報発信を行っている。発信内容を随時更新している。

（埋蔵文化財調査室ホームページアドレス <http://maibun.adm.ehime-u.ac.jp/> を参照）

⑥調査成果特別展「文京遺跡の解明Ⅰ キャンパスに
眠る弥生の大集落」の開催

文京遺跡に関する調査成果特別展「文京遺跡の解明Ⅰ キャンパスに眠る弥生の大集落」を愛媛大学ミュージアムにて2022年2月14日より4月28日まで開催した（写真11～20）。

全国の考古学者が注目する文京遺跡は、主に愛媛大学埋蔵文化財調査室によって現在まで74次にわたる発掘調査を実施している。

その結果、文京遺跡では、弥生時代中期後半（紀元前1世紀）から後期初頭（紀元1世紀）の約150年間に、累計で200棟を超える堅穴建物が建てられ、多くの人々が集い、瀬戸内海沿岸地域を代表する大規模な弥生集落が営まれていたことがわかっている。こうした調査成果を踏まえ、愛媛大学では重要な遺構や遺物が残存する区域を後世へ伝えるべき貴重な文化財として、遺跡の保護・活用区域「グリーンゾーン」と呼称し、遺跡が破壊されないように保存している。

最近では文京遺跡弥生集落の中心域の一面を調査した12・14・16次調査の発掘調査報告書が2013年から2020年にかけて刊行したことで、大規模集落の実態が明らかにすることができるようになった。

そこで調査成果特別展では、最新研究成果の一部である文京遺跡弥生集落の成り立ちや集落構造を示し、出土した弥生土器から見る生産や交流、その背景にある心象風景をわかりやすく展示した。

コロナ禍で入館人数が限られるなか、弥生土器廃棄遺構の展示では堆積された弥生土器を展示し、観覧者の目を驚かせ、好評を得た。またミュージアムと協力して展示解説をYouTubeで配信、観覧できない多くの学生や一般市民に情報を発信した。

（柴田）



写真1 文京遺跡1次調査地標柱のリニューアル



写真2 文京遺跡45次調査土壌サンプルの移動作業1



写真3 文京遺跡45次調査土壌サンプルの移動作業2



写真4 文京遺跡45次調査土壌サンプルの分析1



写真5 文京遺跡45次調査土壌サンプルの分析2



写真6 新営の収蔵庫1



写真7 新営の収蔵庫2



写真8 新営の収蔵庫3



写真9 新営収蔵庫収納状況1



写真10 新営収蔵庫収納状況2



写真11 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」1



写真12 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」2



写真 13 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」3



写真 14 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」4



写真 15 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」5



写真 16 文京遺跡特別展「キャンパスに眠る弥生の大集落」6



写真 17 文京遺跡特別展を観覧する仁科学長



写真 18 文京遺跡特別展を観覧する下條信行名誉教授



写真 19 文京遺跡を観覧する学生 1



写真 20 文京遺跡を観覧する学生 2

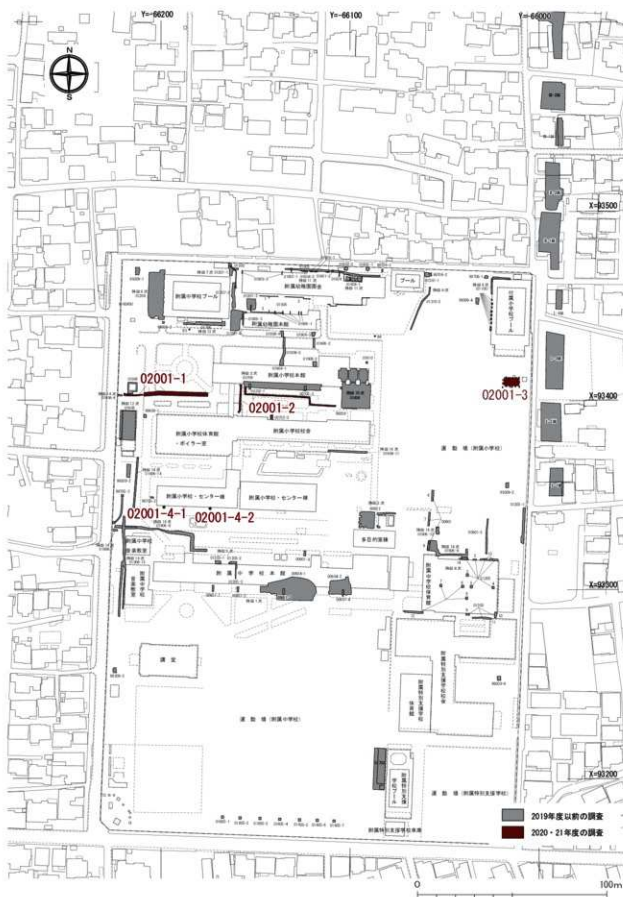


図2 持田団地調査地点位置図(縮尺1/2,000)

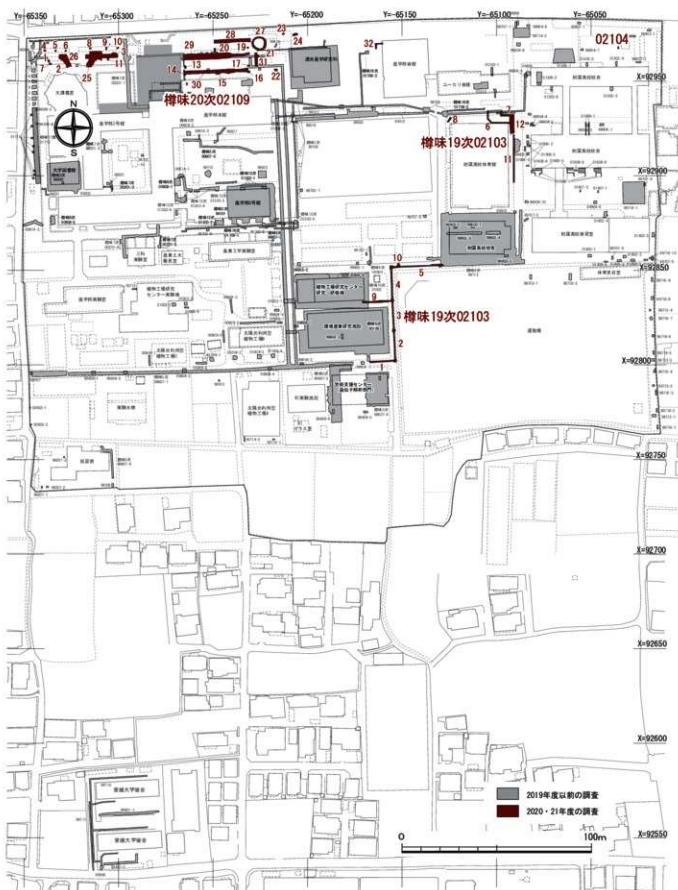


図3 梅味団地調査地点位置図(縮尺1/2,000)

II 2020年度の発掘調査

02001（持田団地）附属小学校校舎等改修その他工事に伴う立会調査

調査地点	松山市持田町1丁目860番の一部 持田団地内	8月5日 2-3区の精査、測量。
調査面積	188㎡	8月6日 2-4・5区の精査、測量。2-5区の北壁土層Ⅱ層中から土師器片が出土。
調査期間	2020年8月3日～2020年8月25日、 2021年8月9日	8月7日 2-5区の精査、測量。
調査種別	立会調査	8月11日 2-5区東端、2-6区、2-7区の精査、測量。砂礫層中から瓦片が出土。
調査担当	三吉秀光	8月24日 3区の表土剥ぎ。
依頼文書	施設基盤部長発事務連絡 (令和2年4月20日付)	8月25日 3区の測量。いずれも表土層内におさまっていることを確認。
		2021年 8月9日 4区の工事立会を実施。

1. 調査に至る経緯

2020年4月、施設基盤部から持田団地内において附属小学校校舎改修工事、電気設備工事、機械設備工事計画が提示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和2年5月14日付で愛媛県教育委員会に提出した。令和2年5月27日付で愛媛県教育委員会より指示があり、「工事立会を受ける必要のある範囲」「慎重に工事を実施する必要がある範囲」が示された。これらの指示と学内における環境整備を行った上で、8月から団地北西部、附属小学校本館棟西側周辺の1区、同北西部本館棟南側中庭周辺の2区、持田団地北東部、附属小学校プール南側の井水ポンプ室設置工事地点を3区として立会調査を実施することとした。また附属小学校南西部、センター棟南側で計画された配管工事（4区）は、年度を越えた2021年8月に実施した。

2. 調査の経過

2020年

8月3日

1区西側重機で掘り下げ。近現代の水田・畠であるⅡ層を検出。1区測量。

8月4日

1区測量追加。コンクリートが存在し、撤去作業。
2-1区南端部は掘り返されていることを確認。柱状図を作成。2-2区は壁面清掃中にⅡ-4層中で土師器片が1点出土。

3. 調査の記録

1区

団地北西部、附属小学校本館棟西側周辺に位置する（図4・5、写真21～26）。東西44.2m、幅15～2mの調査区で、現地表下66.5cmまで掘り下げを行った。調査区西端部では現地表下24cmでⅡ層が出土した。調査区西部から中央部にかけては、Ⅱ層が削平されⅠ層が続いていることを確認した。調査区東部では現地表下44cm、57cmで団地造成以前の水田層であるⅡ層が出土した。検出したⅡ層は、層中に見られる遺物から団地造成直前の水田層であり、工事による埋蔵文化財への影響はないと判断した。

2区

工事との関係から2-1～2-7の7調査区に分けて調査を行った（図5、写真27～49）。

2-1～2-3区は中庭西端に設けた南北約15m、幅約1mの調査区である。2-1区（地点①土層）では、現地表下37cmまでⅠ層が続き、直下でⅡ層が出土した。近現代の水田層である灰オリーブシルトである

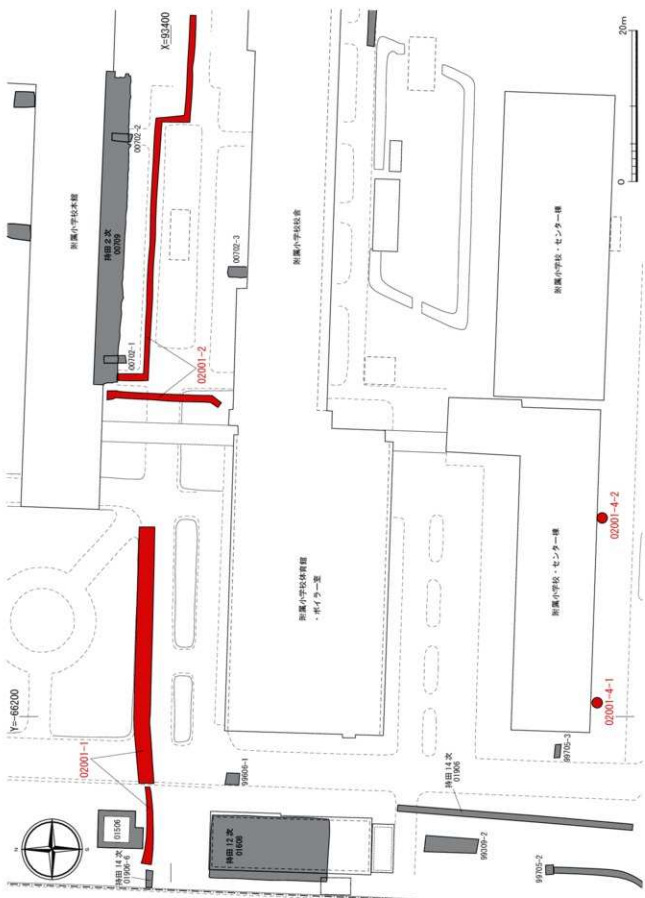


図4 持田団地(02001調査)調査地点位置(縮尺1/500)

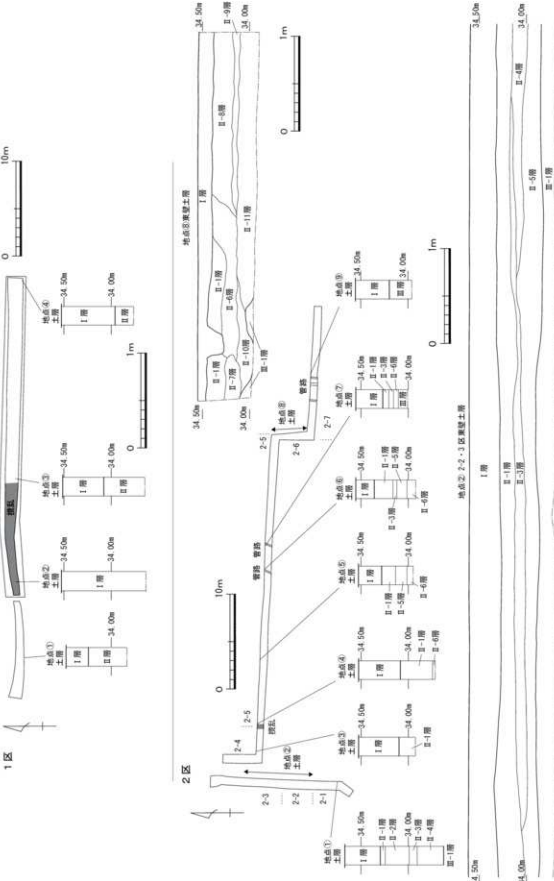


図5 持田団地(02001調査)1・2区平面図(縮尺1/400)、土層断面図(縮尺1/40)

Ⅱ-1・Ⅱ-2層が現地地表下68cmまでつづき、その直下には棕色シルト層からなる床土層Ⅱ-3層が堆積する。その下には灰色シルトⅡ-5層が現地地表下105cmまで続き、直下で礫層を検出した。

2-2・3区では、現地地表下30cmまでⅠ層が続き、Ⅱ-1層を検出した。Ⅱ-1層下には床土層であるⅡ-3層が堆積し、その直下には径5mm前後の砂礫が混じる灰オリブ砂礫層（Ⅱ-4層）、径2～3cmの円礫が少量混じる灰色シルト（Ⅱ-5層）が現地地表下70cmまで続き、直下で径8cm以上の砂礫からなるⅢ層が出土した。Ⅱ-3層中から土師器皿が出土した。口径7.3cm、器高1.1cmを測る。内外面ともに回転横ナデ調整が施され、底部には回転糸切り痕が残る（図6-1）。Ⅱ-5層中から土師器の杯・皿の破片が2点出土した。2-3トレンチの北端部はⅠ層が続いていた。

2-4・5・6・7区では東西約56m、幅約0.7mの調査区であり、西から東に向かって4回に分けて調査を行った。6地点で柱状図を作成、1地点で南北土層図を作成した。出土遺物には古代～中世の瓦片などが見られた。

2-4区は西端にあたる調査区である。地点③土層では、現地地表下43cmまでⅠ層が続き、直下でⅡ層が出土した。続けて60cmまで掘り下げを行い、Ⅱ層が続いていることを確認した。

2-5区は東西約30mの調査区で、地点④～地点⑦で土層図を作成した。Ⅱ-1層、Ⅱ-3層、Ⅱ-5層、Ⅱ-6層（灰色粗砂～細砂）を検出した。東端に位置する地点⑦点では、礫からなるⅢ層が出土した。Ⅱ-1層中から土師器口縁部片1点、坏底部1点、土師器小片1点、土師器1点が出土した。その内、内黒土器の口縁部片を図化した（図6-2）。Ⅱ-5層、Ⅱ-6層から土師器鍋片が各1点出土した。

2-6区の南北トレンチでは、現地地表下10cmまで表土層であるⅠ層が続き、直下でⅡ層が出土した。Ⅱ層はⅡ-1層、Ⅱ-6層、Ⅱ-7層（灰褐色ごく細砂～細砂）、Ⅱ-8層（径5mm未満の砂礫が混じる灰色シルト）、Ⅱ-9層（灰色細砂～粗砂）、Ⅱ-10層（灰色ごく細かい砂・細砂・粗砂の互層堆積）を確認した。さらに現地地表下50cmで礫層（Ⅲ層）が出土した。2-5区の東部から2-6区のⅡ-11層から平瓦片や土師器片6点が出土し、そのうち、格子印痕の残る平瓦片（図6-3）と土師器3点を図化した（図6-4～6）。4は口径13cm、器高3.1

cmを測る土師器杯である。5と6は碗底部片である。いずれも表面は磨減している。

2-7区は東端部に位置する。現地地表下35cmまでⅠ層が続き、直下で砂礫からなるⅢ層が出土した（地点⑧土層）。Ⅲ層中から中世の土師器銅片などが8点出土した。図化できるものはなかった。

3区

井水ポンプ室設置工事地点である（図7、写真50～54）。工事地点の地表面は東西で比高差が約30cmあり、現地地表下30cm（西側で34.90m、東側で35.00m）まで室外機基礎工事を行った上で、その周りを囲むようにネットフェンス基礎工事部分70cm（西側35.26m）まで、ネットフェンス支柱基礎工事部分55cm（西側で34.84m、東側で35.00m）まで掘り下げた。中央部に位置する電気配線工事部分も現地地表下66.5cm（標高34.83m）までの掘り下げであったが、Ⅰ層内におさまっていることを確認した。

4区

附属小学校南西部、センター棟南側における配管工事地点である（図4、写真55・56）。掘削深度65cmの計画で、工事立会の指示を受けていた。実際の工事では、掘削深度30cmに変更となり、工事立会を実施した。西をⅣ-1、東をⅣ-2調査区とし、旧地面より上部までの掘削にとどまっていることを確認した（写真56）。

4. まとめ

本調査の結果、1区では工事に伴う掘削が近世の水田層、3区、4区では工事に伴う掘削が旧地造成土であるⅠ層内におさまっていることを確認した。2区では、近世以前の水田層であるⅡ-1・Ⅱ-2層を確認すると同時に、それ以前の堆積層であるⅡ-3～Ⅱ-11層の調査を進めた結果、古代～中世の土器・瓦が出土した。これまでの調査成果によれば、団地北西部では14世紀後半～15世紀以降に水田・畠などの耕地化が進むことが知られている。Ⅱ-3～Ⅱ-11層から出土した遺物には近世以降の遺物が見られないことを考え合わせると、本調査で検出したⅡ-1・Ⅱ-2層の水田・畠跡は15世紀前後に遡る可能性もある。持田遺跡周辺における土地利用史を考える上でも重要な課題でもあることから、今後とも団地北部における耕地化の開始時期の検証が必要である。（三吉）

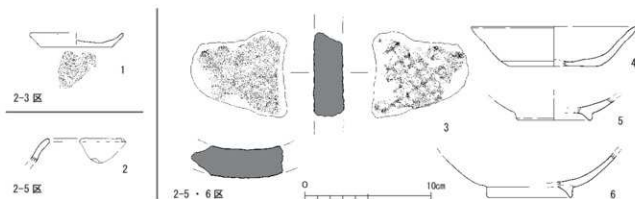


図6 持田団地(02001調査)出土遺物実測図(縮尺1/3)

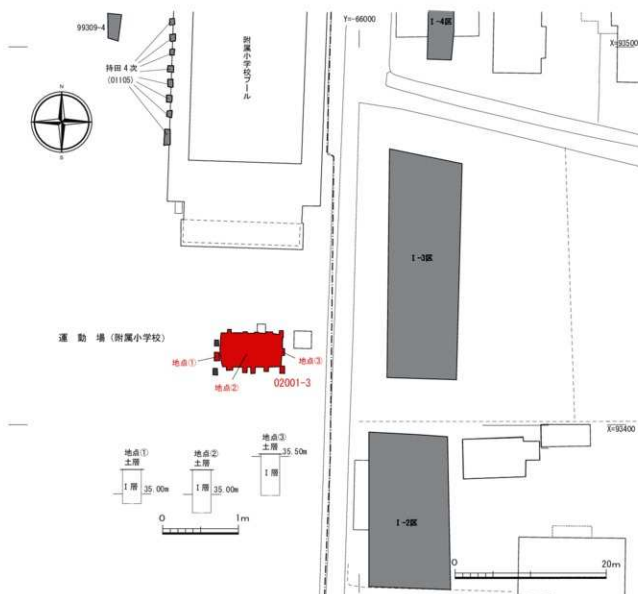


図7 持田団地(02001調査)3区平面図(縮尺1/500)、土層柱状図(縮尺1/50)



写真 21 02001 調査 1 区西端部全景 (北東から)



写真 22 02001 調査 1 区西端部北壁土層 (南から)



写真 23 02001 調査 1 区西半分全景 (東から)



写真 24 02001 調査 1 区西半分地点①土層 (南から)



写真 25 02001 調査 1 区全景 (東から)



写真 26 02001 調査 1 区地点④土層 (北から)



写真 27 02001 調査 2-1 区全景 (北から)



写真 28 02001 調査 2-1 区地点①土層 (西から)



写真 29 02001 調査 2-2 区全景 (南西から)



写真 30 02001 調査 2-2 区東壁土層 (西から)



写真 31 02001 調査 2-3 区全景 (南西から)



写真 32 02001 調査 2-3 区東壁土層 (南西から)



写真 33 02001 調査 2-4 区全景 (南西から)



写真 34 02001 調査 2-4 区東壁土層 (西から)



写真 35 02001 調査 2-5 区全景 (西から)



写真 36 02001 調査 2-4 東部・2-5 区全景
(南西から)



写真 37 02001 調査 2-4 区地点③土層 (南から)



写真 38 02001 調査 2-5 区全景 (西から)



写真 39 02001 調査 2-5 区北壁土層 (南西から)



写真 40 02001 調査 2-5 区地点⑤土層 (南から)



写真 41 02001 調査 2-5 区地点⑥土層 (南から)



写真 42 02001 調査 2-5 区地点⑦土層 (南から)



写真 43 02001 調査 2-5・6・7 区全景 (西から)



写真 44 02001 調査 2-6 区全景 (西から)



写真 45 02001 調査 2-6 区全景 (南西から)



写真 46 02001 調査 2-6 区東壁土層 (西から)



写真 47 02001 調査 2-7 区全景 (南西から)



写真 48 02001 調査 2-7 区東端部 (南西から)



写真 49 02001 調査 2-7 区地点 9 土層 (南から)



写真 50 02001 調査 3 区全景 (西から)



写真 51 02001 調査 3 区地点①全景 (東から)



写真 52 02001 調査 3 区地点①全景 (東から)



写真 53 02001 調査 3 区地点③全景 (西から)



写真 54 02001 調査 3 区地点③全景 (西から)



写真 55 02001 調査 4-1 区土層 (南西から)



写真 56 02001 調査 4-2 区土層 (南西から)

02002 (城北団地) 基幹・環境整備 (排水設備改修) 工事に伴う発掘調査 (文京 72 次調査)

調査地点 松山市文京町 3 番
城北団地内
調査面積 20.3㎡
調査期間 2020 年 12 月 21 日～2021 年 1 月 12 日
調査種別 本格調査
調査担当 三吉秀充
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(令和 2 年 8 月 4 日付)

1. 調査に至る経緯

2020 年 8 月、施設基盤部から城北団地内において基幹・環境整備 (排水設備改修) 工事計画が提示された。工事の内容は、工学部 3 号館南西部、総合研究棟 2 南西部、総合研究棟北西部の 3 箇所にて新規に検水槽ならびに排水槽・排水管を設置するというものである。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵

文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和 2 年 8 月 24 日付けで愛媛県教育委員会に提出した。9 月 9 日付けで、検水槽ならびに排水槽部分については「発掘調査を必要とする範囲」、排水管設置部分は「工事立会を受ける必要のある範囲」との指示があった。これを受けて 9 月 29 日付けで埋蔵文化財発掘調査届出書を愛媛県教育委員会に提出し、10 月 7 日付けで受理したとの通知があった。その後、施設基盤部内で工事計画のみ直しがあり、工学部 3 号館南西部周辺の工事のみを実施することとなった。

学内における発掘調査に伴う環境整備の調整を行った結果、2020 年 12 月 21 日から検水槽部分をⅠ区、排水槽部分をⅡ区として発掘調査することとなった。なお工事立会の指示範囲であるⅡ区にとりつく配管工事部分は、2020 年 12 月 22 日に造成土であるⅠ層におさまっていることを確認した。

なお本報告は、文京道跡 72 次調査の正式報告である。

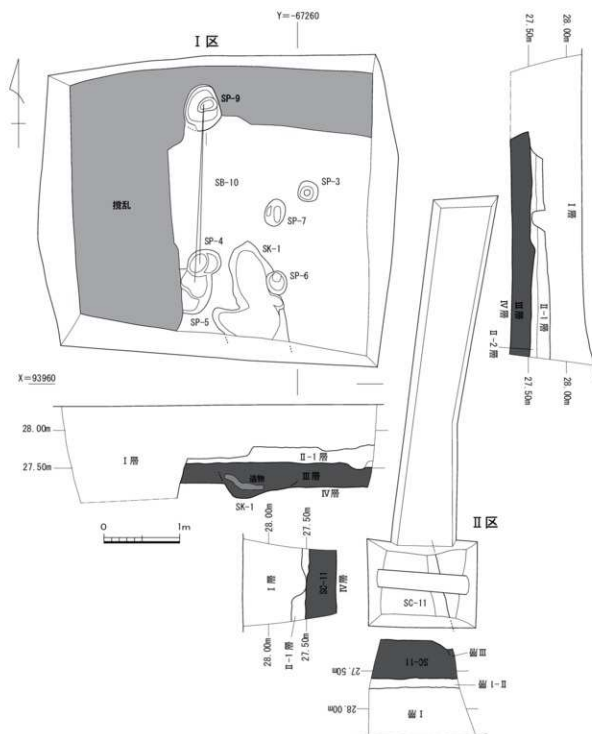


図8 文京72次(02002調査)平面図・土層断面図(縮尺1/50)

2. 調査の経過

2020年

12月21日 調査開始。機材の移動と同時にI区の表土層を除去しⅢ層検出。1m区割りでⅢ層を掘り下げる。南側で土器だまり検出。

12月22日 I区のⅢ層掘り下げ、Ⅳ層を検出。Ⅳ層

上で精査。Ⅱ区と東側管路部分を重機で表土層掘き。Ⅱ区ではⅢ層を検出。全景写真の撮影。遺物出土状況図の作成。座標点の移動ならびに調査区の測量。社会共創学部学生を対象とした臨地講義。

12月23日 I区土器だまりの遺物取り上げ。Ⅱ区でⅢ層の掘り下げ開始。

12月24日 II区はⅢ層の掘り下げ。I区は遺構調査と図面作成。午前中の途中から雨天により作業中止。
12月25日 I区とII区の遺構発掘。写真撮影、実測図の作成を行う。I区では最終段階に南壁に入り込んでいる遺物に関して、工事による破壊も考えられることから可能な限り取り上げた。

2021年

1月12日 I区を深掘りし、Ⅳ層の堆積状況を確認した後、遺構・遺物が含まれないことを確認して調査を終了。

3. 整理作業と調査記録類・出土遺物の保管

発掘調査の終了後、2020年度・2021年度に調査写真の整理、出土遺物の洗浄・注記作業、遺物の分類・復元作業、遺物の実測・浄書・写真撮影、遺構実測図の整理・浄書を実施した上で、2021年度に正式報告書を作成した。

発掘調査では、城北団地内に設置している日本測地系平面直角座標第Ⅳ系基準点から座標点を移動して調査区の平面・土層断面図を20分の1の縮尺で作成した。また必要に応じてデジタルカメラによるカラー写真撮影を行っている。

調査で出土した遺構には、連番の遺構番号を付し、遺構番号に冠して掘立柱建物:SB、堅穴建物:SC、土坑:SK、柱穴・小穴:SP、その他: SXの記号で遺構の種別を表している。

出土遺物には、R-1～239の遺物登録番号を付与した。遺物には、調査番号、遺物登録番号を注記し、遺物台帳を作成した。本報告に掲載した遺物は、遺物観察表に遺物登録番号・コンテナ番号の項を設けて表記し、本報告から遺物の検索ができるようにしている。

4. 調査の記録

(1) 調査地点の位置

調査地点は、1982年に松山市教育委員会によって発掘調査が行われた文京遺跡2次調査(工学部3号館)の南側に位置する。同2次調査では、弥生時代中期後葉から後期初頭に位置づけられる堅穴建物跡9棟、掘立柱建物跡6棟が確認されており、文京遺跡の集落域を構成すると同時に倉庫域として利用された可能性が指摘されている(愛媛大学埋蔵文化財調査室1998「文京遺跡シンポジウム資料集—弥生大集落の解明—」)。

調査では、文京遺跡で設定している基本層序Ⅰ～Ⅳ層を確認した。

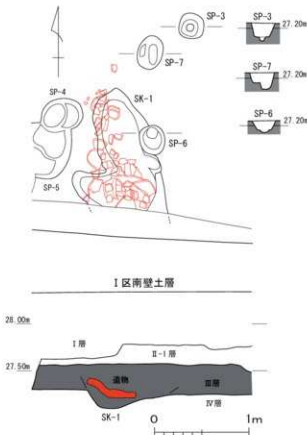


図9 文京72次(02002調査)SK-1・SP-3・6・7平面図・断面図(縮尺1/40)

- I層: 表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。
- II層: 造成以前の灰色系の古代～近代の水田層。
- III層: 黒色～黒褐色系の土層。弥生時代～古墳時代遺構・遺物を含んでいる。
- IV層: 黄褐色系の砂質～シルト層で、縄文時代前期～晩期の遺構・遺物を含んでいる。
- IV層の下部には、最終氷期の最盛期に、城北地区から堀江低地に向けて流れていた石手川水系堆積物である花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層が堆積しているが、今回の調査では確認されていない。

(2) 調査の報告

今回の調査では、堅穴建物1棟(SC-11)、掘立柱建物1棟(SB-10)、土坑1基(SK-1)、小穴6基(SP-3・4・5・6・7・9)を検出した。以下、I区、II区の順に報告を行う。

① I区の調査

南北4m、東西4.7mの長方形の調査区である。重

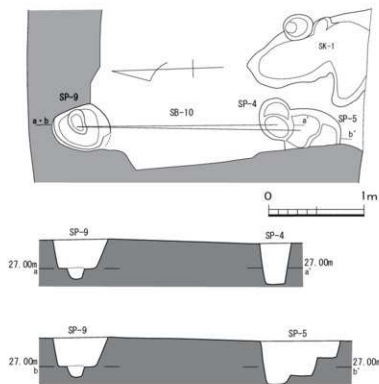


図10 文京72次(02002調査)SB-10平面図・断面図(縮尺1/40)

機を用いて造成土である1層を掘り下げ、現地地表下64cmでⅢ層を検出した。調査区内西側は電気ケーブル設置時に破壊されていた。南東部を起点に1m区割りを設定し、南から1区、その西が2区、さらに西が3区とし、1区の北を4区とし、東から西へ4区、5区、6区とした。さらに4区の北を7区とし、東から西へ7区、8区、9区とし、区割りごとにⅢ層を掘り下げた。検出面から深さ10cmまでをⅢ層最上部、その下5cmをⅢ層上部、以下Ⅲ層として人工層位で取り上げた。Ⅲ層では2区や5区を中心に多くの遺物が出土した。Ⅳ層近くでは遺物がほとんど出土していない。

Ⅳ層上面で精査を行い、掘立柱建物1棟(SB-10)、土壇1基(SK-1)、小穴6基(SP-3・4・5・6・7・9)を検出した。

②掘立柱建物

SB-10:SP-4・5とSP-9からなる掘立柱建物である。SP-4・5が切り合い関係にあることから、一度建て替えられたと考えられる。SP-4とSP-9の柱間は2.1m、SP-5のSP-9柱間は2.4mを測る。

SP-4:SP-5を切っている。SB-10を構成する柱穴である。径35～45cmの長楕円形の掘り形をもつ。検

出面からの深さは44cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルトと浅黄色砂質土との互層堆積で、しまりがある。

SP-4埋土中から弥生土器壺・甕の小片が8点出土した。その内1点を図化した(図11)。1は弥生土器の壺あるいは甕の頸部片である。頸部の付け根に布目の圧痕跡が残る突帯を施す。石器は2点図化した。2は梨形の砂岩製の敲石である。周縁部に敲打痕跡の可能性がある凹凸がわずかに残る。3は砂岩製の敲石で、周縁部には敲打痕跡が残る。

SP-5:SP-4に切られている。SB-10を構成する柱穴である。西半分は攪乱によって欠損していた。残存する形状から長楕円形を呈する直径60cm以上の掘り形と考えられる。南側にテラスをもち、検出面からの深さは最深部で36cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルトと浅黄色砂質土の互層堆積で、しまりがある。

SP-5埋土中から弥生土器壺・甕の小片が出土した。その内、1点を図化した(図11)。4は、弥生土器甕の口縁部破片で、口縁部が内湾する。石器は2点出土した。5は花崗岩製の砥石で、表面は平滑で擦過痕がみられる。6の表面は自然面と異なって全体に平滑であることから砂岩製の敲石の可能性を考えた。

SP-9:SB-10を構成する柱穴である。径47～58cmの掘り形をもつ。検出面からの深さは42cmを測り、掘り形中央からやや東寄りの底面で径16～28cmの長楕円形の小穴を検出した。形状から柱の抜き取り痕跡と考えられる。埋土は灰褐色砂質シルトである。埋土中から弥生土器の小片が4点出土したが、図化できるものはなかった。

以上、SB-11を構成する柱穴の特徴ならびに埋土中から出土した遺物を見ると、弥生時代中期末～後期初頭までの遺物に限られる。SB-10は弥生時代中期末～後期初頭の時期に比定できる。

③土壇

SK-1:Ⅲ層掘り下げの過程で、2区と5区を中心に弥生土器片や石器がまとまって出土したことから、土器だまりSX-1とした。同時に土器だまり周辺の精査を行い、遺構に伴う掘り込みなどの検出を試みた。確認できなかった。その後、Ⅲ層を掘り下げ、Ⅳ層上面で南北検出長約130cm、東西約100cmの掘り込みを検出した。掘り込みが確認できたことを受けて、

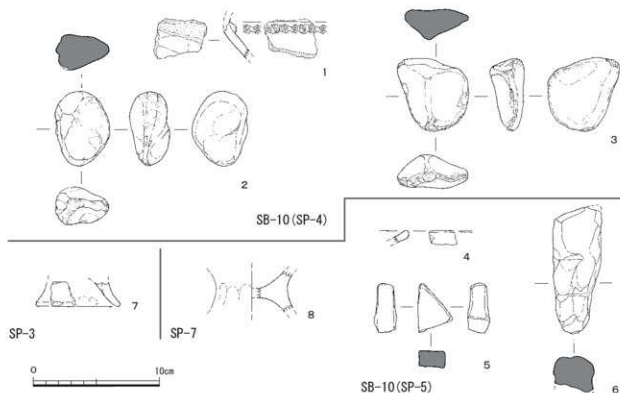


図11 文京72次(02002調査)SB-10(SP-4・SP-5)、SP-3、SP-7出土遺物(縮尺1/3)

SX-1からSK-1へと変更した。SK-1はSP-6との切り合い関係がある。

出土した遺物と弥生土器の壺・甕、多量の石器が混じっている。弥生土器は複合口縁壺の破片が折りかさなるように出土しており、土器だまりで破片になったのではなく、割れた破片が廃棄されたものである。また土器だまり中にみられる甕の外面には炭化物、内面にはコゲが付着したものもあり、煮炊きに使用された後に廃棄されたものである。

埋土は灰褐色細砂～微細砂である。SK-1の一部はI区南壁土層中に入り込んでおり、工事の影響を考慮して、調査の最終段階に可能な限り遺物の取り上げを行った。そこでは完形品に近い状況の土器、上半部を欠損した壺(図12-2、写真87)と小型の土器(図13-14)が並んで出土した。図12-2の広口壺の内部には割れた上半部の土器片が折り重なるように入れられていた。図13-14の小型甕には埋土と混じった状態で土器片が出土し、折り重なるような状況ではなかった。

実測できたのは弥生土器20点、石器11点である。

図12-1～7は壺である。

図12-1は複合口縁壺である。厚手のつくりの大型品である。肩部から口頸部が緩やかに反転して外反し、

上半がさらに大きくひろく。口頸部先端から内側に内傾する粘土板を接合して複合口縁とする。複合口縁部の上半には7条の地描直線文をめぐらし、その下方に円形の刺突文を施す。頸部付け根には、貼り付け突帯を2条施し、各突帯の上部にならびに頸部の付け根に刺突列点文を3段施す。胴部は上半部のみで下半部はみられない。胴部の中位には穿孔がみられる。

図12-2は広口壺である。球形の胴部から筒状のびる頸部がラッパ状に外反し、端部を上方に短く屈曲させる。頸部の付け根にはノ字状の刺突文を施す。底部はわずかに凸レンズ状を呈する。

同図3は口縁部がラッパ状に開き、上端部を上方につまみだす壺の口縁部片である。同図4は壺の口縁部片である。口縁下端部を横ナデ調整で小さく引き出す。同図5は壺の頸部の破片であり、外面には突帯が3条施される。内外面ともに赤褐色を呈し、搬入品の可能性が高い。同図6・7は壺の底部破片である。

図12-8・9、図13-10～17は甕である。

図12-8・9、図13-10～16は、く字形に外反する口縁部をもつ。外面には刷毛目調整、内面にはケズリ調整を施す。底部はあげ底である。

図12-8は甕である。口縁部はく字形を呈し、胴部

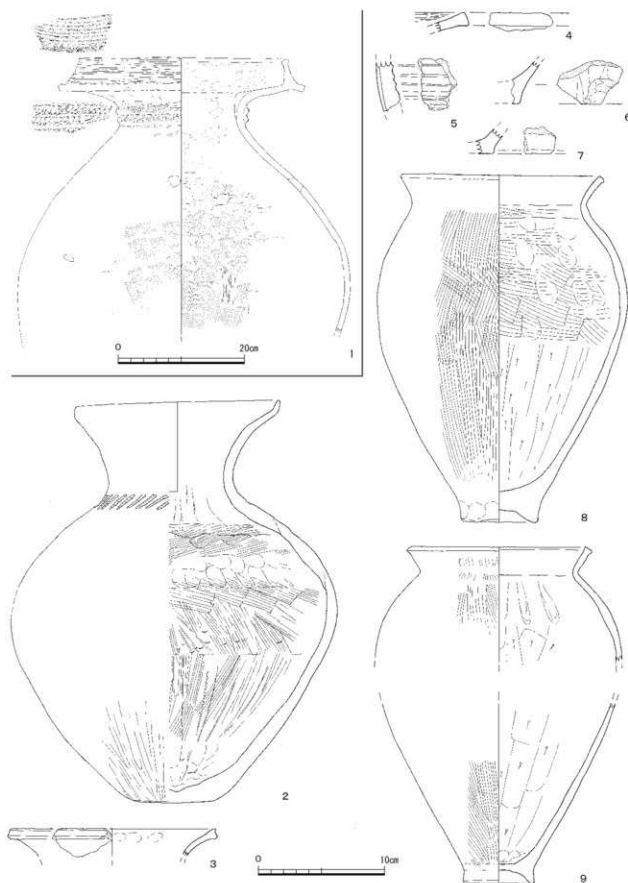


図12 文京72次(02002調査)SK-1出土遺物1(縮尺1/6)・(縮尺1/3)

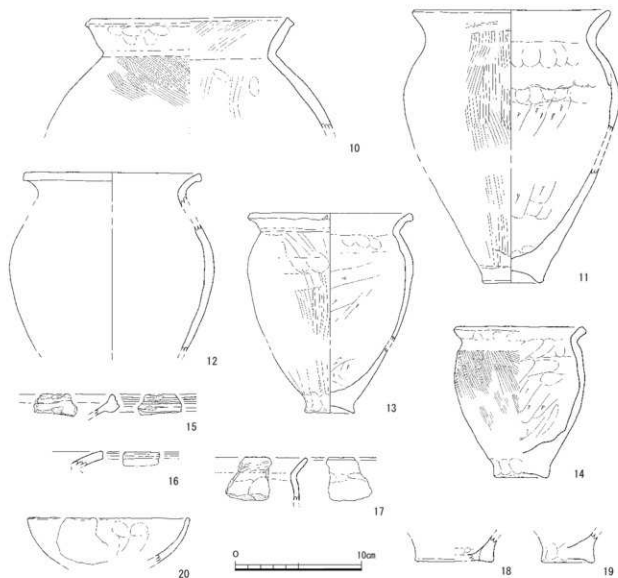


図13 文京72次(02002調査)SK-1出土遺物2(縮尺1/3)

中位よりやや上位に最大径がある。底部は低い高台状を呈する。外面胴部中位には煤が付着、内面胴部下位にはコゲが付着するなど使用痕跡が明瞭に残る。図12-9は口縁部はく字形を呈し、口縁下端部をつまみだす。肩部はやや張り出す。底部は上げ底を呈する。

図13-11～13の口縁部は大きく外反し、肩部が張る。図13-10は古墳時代中期の土師器で時期が新しい。11・13は上げ底である。14は定形に近い甕である。口縁部は短く外反する。底部はわずかに上げ底状を呈する。15は甕の口縁部破片である。口縁端部を拡張し凹線が2条施される。16は甕の端部に1条の沈線が走る。17はく字形の甕の口縁部片である。18・19は甕の底部破片である。上げ底を呈する。

図13-20は直口の鉢で内外面にナデ調整を施す。

石器は図16-1～10、図17-1～13である。

図16-1は砂岩の小礫で前面が平滑で、側縁には一部凹凸がみられることから磨石・敲石と考えられる。2は平面が三角形を呈する堆積岩製の石器である。側縁部に平滑な面をもつことから、扁平部を指で挟み、磨石と考えられる。3は泥岩製の砥石である。表面には擦過痕が残る。4は砂岩の小礫で、小壺(図13-14)の中から出土しており石器の可能性が高い。表面は平滑であり磨石として使用されたと考えられる。5は砂岩製の小円礫である。平滑な面があり、磨石と考えられる。6は泥岩の小礫で擦過痕がみられる。7は扁平な花崗岩礫で、側縁には平滑な面と敲石痕跡が確認で

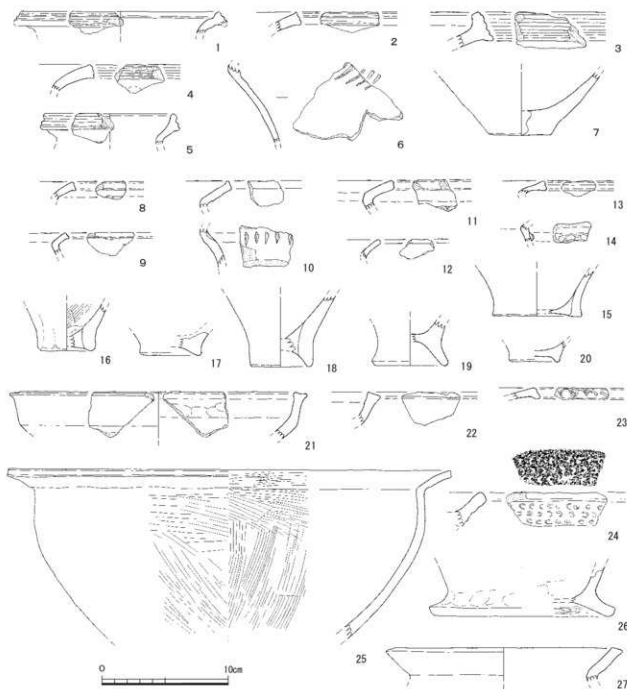


図14 文京72次(02002調査)SK-1上部Ⅲ層出土遺物(縮尺1/3)

きる。敲石・磨石と考えられる。8・9は砂岩製の敲石で、上下の端部には敲打痕が残る。10は扁平な花崗岩礫で、下端面には小さな凹凸、側縁部には挟り状の凹みが確認されることから、敲石と考えられる。

図17-1・2は砂岩製の磨石である。3・4は花崗岩の小礫で表面は平滑であり、磨石として使用と考えられる。5は泥岩製の小礫で、全体に表面は平滑で、下端部には細かい剝離面を確認できる。磨石・敲石と考

えられる。6は砂岩礫で端部や側縁部には敲打痕が残り、敲石と考えられる。7は閃緑花崗岩の内礫である。全体に平滑で、上下の側縁部には敲打状の凹凸がみられることから磨石・敲石と考えられる。8は花崗岩製の磨石である。上面ならびに底面の表面は平滑で磨面として使用されたと考えられる。9は閃緑花崗岩礫で全面が平滑で、下端部には小さな凹凸がみられることから敲石の可能性も考えられる。10は砂岩の棒状礫

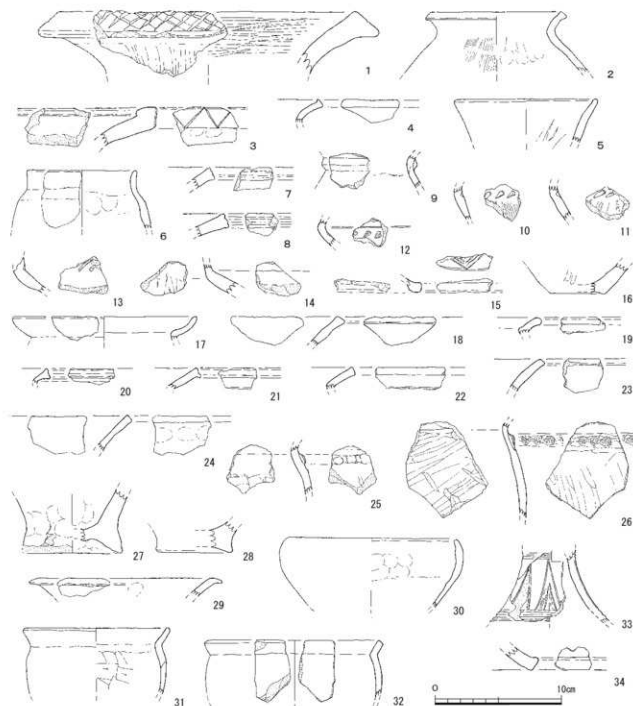


図15 文京72次(O2002調査)I区Ⅲ層出土遺物(縮尺1/3)

で、全体に平滑である。使用痕かどうかの判断は難しいが、凹凸がみられることから磨石・敲石の可能性が考えられる。11は花崗岩礫で、全体に表面が平滑で磨石・敲石と考えられる。12は花崗岩礫で平滑な面をもつことから磨石・敲石と考えられる。13は花崗岩製の円礫で、全面は平滑であり磨石・敲石と考えられる。

以上が図化したSK-1出土遺物である。新しい遺物が混じるものの概ね弥生時代後期前半に位置づけられる。

SK-1はⅢ層中から掘り込まれており、SK-1上部にあたるⅢ層(2区・5区)から出土した遺物には、本来SK-1に伴うと考えられるものもある。Ⅲ層(2区・5区)として取り上げた遺物の中で、図化できたのは26点である。

図14-1～7は壺である。図14-1は壺の口縁部片である。口縁部を拡張し、凹線文を2条施す。2は壺の口縁部片である。口縁部を凹線文を2条施す。3は壺の口縁部片である。上下に拡張し、凹線文を4条施す。4は大きくラッパ状に開く壺の口縁部の破片である。5は壺の口頭部片である。口縁部は上方に拡張し、端部に凹線文を2条施す。6は壺の肩部片である。頭部の付け根には刺突文が施される。7は壺の底部片である。

図14-8～20は壺である。8は壺の口縁部破片である。短く外反する壺の口縁部の破片である。9は壺の口縁部片である。口縁部を下につまみ出す。く字形の口縁部で、刺突列点文が施される。10は肩部に刺突列点文がある。11は短く屈曲する壺の口縁部片である。12はく字形に屈曲する壺の口縁部の破片である。13はく字形を呈する壺の口縁部片である。14は壺の肩部片で指頭による刻み目の施された突帯が1条施される。15はあげ底状の壺底部片である。16は壺の口縁部破片である。わずかにあげ底を呈する。外面ナデ調整、内面刷毛目調整を施す。17、18は壺の高台状の上げ底である。19は壺のハ字形に開く脚台状の上げ底底部破片である。20はあげ底を呈する壺の口縁部片である。

図14-23・24は器台と考えられる。図14-23は器台の口縁部片と考えられる。口縁部は下方に拡張し、端部には波状文を施す。後期中葉まで下る可能性がある。24は器台の口縁部片で、外面には半截竹管文を3段にわたって施す。

図14-21・22・25・26は高杯・鉢である。21・22は高杯の坏口縁部の破片である。25は大形の鉢である。内外面ともに刷毛目調整を施す。器高に比べて身が浅めのく字形の口縁部がつく。26の台付き鉢の破片である。外面には指頭痕が残る、内面には刷毛目調整痕が残る。

その他に、10と27は全体に器壁が厚く、やや内弯する口縁部をもつことから古墳時代中期の土師器の口縁部片と考えた。

以上のように土師器を除くと弥生時代後期前半をくだるものは確認できない。これはSK-1と同様の傾向である。

④小穴

SP-3：直径26～27cmの円形の掘り形をもつ。検

出面からの深さは19cmである。掘り形中央部に径8cmの小穴があり、柱痕跡と考えられる。埋土から弥生土器の破片が1点出土した(図11-7)。7は上げ底状を呈する弥生土器の底部破片である。

SP-6：SX-1と切り合い関係にある。径26～30cmの長楕円形の掘り形をもつ。検出面からの深さは13cmを測る。掘り形内やや北側に径10cmの小穴を検出しており、柱痕跡と考えられる。埋土中から弥生土器の小片・細片が7点出土したが、図化できるものはなかった。

SP-7：径26～36cmの長楕円形の掘り形をもつ。検出面からの深さは17cmである。埋土から6点出土した。その内の1点を図化した(図11-8)。8は弥生土器の壺の上げ底の底部破片である。

⑤その他の瓦層の出土遺物

図15-1は壺の口縁部片である。口縁部は下方に拡張し斜格子文を施す。2は口頭部が外反する壺の口縁部から肩部の破片。外面には刷毛目調整が施される。3は広口壺の口縁部破片で、口縁部上面に粘土を貼り付け肥厚させ、肥厚させた端面に山形文を施す。東北部九州の豊後周辺の土器のみられる特徴を示す。4は壺の口縁部片である。口縁部は上方につまみ出す。5は直口する壺の口縁部片である。6は口縁部が短く直立する無頸壺である。7は壺の口縁部片である。口縁部には凹線文が2条めぐる。8は壺の口縁部片である。口縁部には凹線文が2条めぐる。9は壺の頭部から肩部片である。頭部の付け根には断面三角形の突帯が1条めぐる。10・11は壺の肩部片である。外面には刺突列点文を施す。12は壺の頭部片である。頭部の付け根には沈線が1条走り、刺突列点文が1条走る。13は壺の肩部片である。頭部の付け根には、刺突列点文が1条走る。14は壺の肩部の破片である。頭部の付け根には突帯が施されていたが、剥がれている。15は壺が器台の口縁部細片である。16は壺の底部破片である。わずかに上げ底状を呈する。

17は内湾する壺の口縁部片である。18は壺の口縁部破片である。19はく字形に屈曲する壺の口縁部片である。20は壺の口縁部の破片である。口縁部を上方につまみあげる。21は壺の口縁部片である。端部を上方につまみ上げる。22は壺の口縁部の破片である。く字形を呈する。23は壺の口縁部片である。その他に、24は壺の口縁部の破片である。25は壺の肩

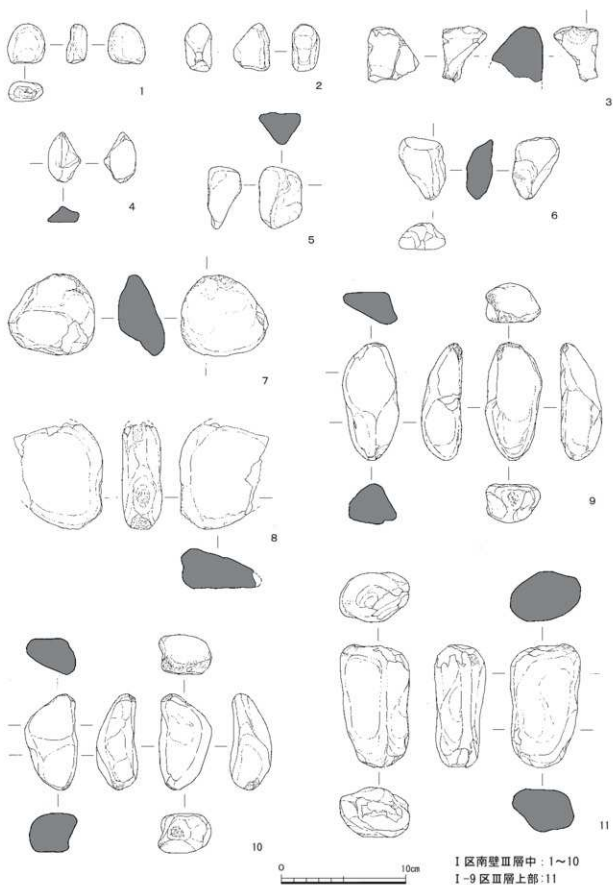


图16 文京72次(O2002調査) I 区南壁Ⅲ层中、I-9区Ⅲ层上部出土遺物 (縮尺1/3)

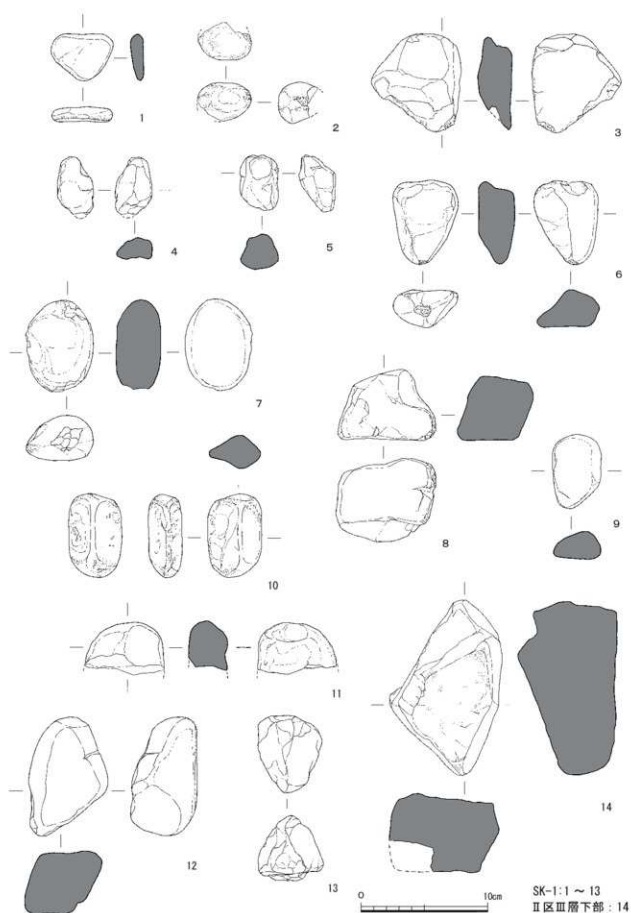


図17 文京72次(02002調査) I区SK-1、II区III層下部出土遺物 (縮尺1/3)

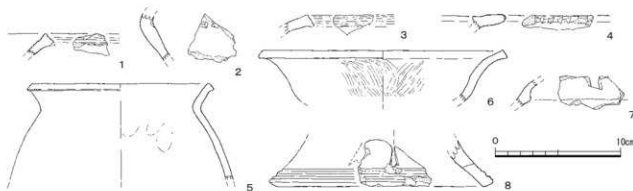


図18 文京72次(02002調査)Ⅱ区Ⅲ層出土遺物(縮尺1/3)

部破片である。屈曲部の付け根には指頭による刻み目が施された突帯が1条施される。26は甕の肩部破片である。屈曲部の付け根には布目圧痕跡が施された突帯が巡る。27は甕の底部の破片である。上げ底を呈する。28は上げ底の甕の底部破片である。29は器台である。ラッパ形にひろがる受け部破片で、受け部を下方に折り曲げる。30は、口縁部がく字形を呈する鉢である。外面はナデ調整、内面にはケズリ調整を施す。31は椀形の鉢である。口縁部は内湾する。内面には指頭圧痕が残る。32は、口縁部がく字形を呈する鉢である。33は高杯の脚部の破片である。上下に沈線を施し、沈線の間に8方向に矢羽根透かしを施す。34は高杯の脚端部破片である。脚端部を上方につまみ上げる。Ⅲ層上部から出土した図16-11を図化している。11は棒状の花崗岩礫である。表面は平滑で、下端部には敲打痕が残ることから敲石として使用されたと考えられる。その他に安山岩の小剥片や緑色片岩の小片や砂岩片などが少量出土している。

(2) Ⅱ区の調査

I区の南東部に位置し、南北1m、東西1.4mの長方形の調査区と配管設置工事部分にあたる南北に4.6m、幅70cmの調査区とからなる。竪穴建物1棟(SC-11)を検出した。

配管設置工事部分は、重機を用いて現地地表65cmまで掘り下げ、団地造成土であるI層が続いていることを確認した。

長方形の調査区では、重機を用いて現地地表64cmまで掘り下げ、Ⅲ層を検出した。そこから人力に切り替えてⅢ層を掘り下げ、現地地表115cmまで掘り下げた時点で南北方向にのびるSC-11の掘り形を検出した。

① 竪穴建物 SC-11

南北方向にのびる掘り形から竪穴建物の一部と判断した。調査区が狭いため、方形あるいは円形の平面プランなのかは不明である。遺構検出面から底面までの深さは約11cmである。埋土は灰褐色シルトである。土層断面を精査した結果、SC-11の立ち上がりはⅢ層中までのびることから、Ⅲ層として取り上げた遺物もSC-11の埋土中に含まれると判断した。埋土から弥生土器の甕・鉢の細片・小片が大量に出土した。図化できたのは8点である(図18-1～8)。

図18-1・2は甕である。1は甕の口縁部破片で、上下に拡張された端部に凹線が3条施される。2の頸部の付け根には刺突列点文をめぐらす。

3～5は甕である。3はく字形に屈曲する甕の口縁部破片である。口縁端部には凹線が2条施される。4は甕の口縁部破片である。口縁部が水平に長くのび、口縁端部には刻み目が施される。5はく字形に外反する口縁部をもち、丸みをおびた胴部をもつ。

6は鉢である。口縁部は大きく外反し、外面は刷毛目調整、内面はミガキ調整を施す。弥生時代終末前後に位置づけられる。

7、8は高杯である。7は弥生時代後期中葉に位置づけられる高杯の屈曲する部破片と考えた。8は高杯の脚端部の破片で、矢羽根状透かしを施し、外面には3条の凹線文がめぐらされる。

石器はⅡ区Ⅲ層下部から出土した図17-14を実測している。表面は平滑でわずかに凹凸がみられることから砂岩製の台石の可能性を考えた。

以上のように図18-6は弥生時代終末まで下るが、それをのぞくと後期中葉以前のものに限られる。いずれも埋土上部からの出土であり、竪穴建物の比定時期を判断することは難しい。このことからSC-11は弥

生時代終末以前に埋没したと判断し、弥生時代終末以前の堅穴建物と位置づけておく。

5. まとめ

文京遺跡は、法文学部本館周辺（3次・7次調査）の中核域、その西に広がる密集型居住域（12次・14次・16次）、そしてその南側に位置する工学部3号館周辺（2次）は貯蔵域として機能していたと考えられてきた（愛媛大学埋蔵文化財調査室1998『文京遺跡シンポジウム—弥生大集落の解明—』）。

本調査区は、工学部3号館の南に位置し、調査では、弥生時代中期末～後期初頭の掘立柱建物1棟、弥生時代後前半の土溝1基、弥生時代終末以前の堅穴建物1棟を検出した。ここでは、弥生時代中期末以降の調査成果についてまとめを行いたい。

（1）掘立柱建物について

今回検出した掘立柱建物SB-10は、西側に桁行をとる掘立柱建物で、梁行柱間2.1m、2.4mを測る。北側に隣接する2次調査地では、掘立柱建物が6棟出土した。その内、SB-15が1×2間である他は、いずれも1×1間の建物である。2次調査のSB-10が北東方向、2次調査のSB-15が北西方向に桁行を持ち、その他4棟は東西方向に桁行をもつ。梁行では柱間2m～2.5mを測る。桁行柱間は4.5～3.74mと2mを測る。

さて、これらの掘立柱建物は2次調査区の中央部に集中して出土した。掘立柱建物の桁行は同じ方向を指向し、出土した遺物も弥生時代中期末から後期初頭であることから、同時期に建てられた倉庫の可能性が高く、2次調査区の北半部周辺は倉庫域であった可能性が指摘された。そして2次調査区の南部では掘立柱建物はみられなかったことから、2次調査区中央部付近が、倉庫域の南限と考えられてきた。

今回の調査では、桁行方向を同じくする同時期の掘立柱建物を検出できた。このことから倉庫域がこれまで想定されていた範囲よりも南側に広がっている可能性も考えられる。

（2）土器廃棄遺構SK-1について

土器廃棄遺構SK-1は、出土した遺物から弥生時代後期中葉に位置付けられる。土器焼成時に破損したと考えられる土器片が含まれないこと、大型の複合口縁窓の胴部に意図的に穿孔した痕跡が複数確認できること、裏の外面にスス・火熱痕跡、内面にコゲの痕跡を確認できることから使用したものを廃棄したものである。IV層上面で南北長出長約130cm、東西約100cmの規模を測る。南側は調査区外へと続いており、南北方向には続くことは確実である。西に隣接する文京遺跡10次調査では、弥生時代後期初頭に位置付けられる土坑SK15や土坑SK11が出土しており、参考になる。

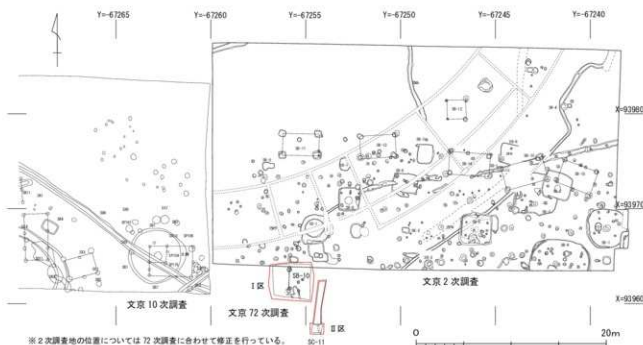


図19 文京72次（02002調査）文京2次調査・10次調査・72次調査地点における遺構検出状況（縮尺1/400）

SK15は長軸長約2.3 m、短軸長0.9 m、深さ0.55 m、SK11は長軸長約2.5 m、短軸長0.7 m、深さ0.45 mを測る。出土遺物などから時期は古く位置付けられるが、これらを参考にすると、本調査で検出したSK-1も南へ1 m前後続いていたことを想定できる。

廃棄された遺物の中でも注目されるのが、大型の複合口縁甕である。胴部には焼成後に穿孔した痕跡が複数みられる。文京遺跡10次調査で検出した円形周溝状遺構SX14から出土した複合口縁甕の胴部にも同様の穿孔が施されており、使用あるいは使用後に穿孔が施されたと考えられる。また、胴部下半から底部片を欠損している。このことから別の場所で破損し、それらをSK-1に廃棄したと考えられる。

さらに注目しておきたいのは、一辺3cm、5cm、10cm前後の片手で持つことのできる小型の磨石や叩き石などである。いずれも文京遺跡周辺で入手可能な花崗岩の円礫などで、大きな加工を施さず、礫石の一部を磨石や叩き石として使用されたものである。これまであまり注目されてこなかったが、文京遺跡12次調査などで詳細な報告が行われ、集落内で広く使用されたことが明らかになった（愛媛大学埋蔵文化財調査室2019「文京遺跡Ⅶ-1」）。ただ、これらの石器は自然

礫に近いことから、年代的な位置づけが困難であった。本調査で検出したSK-1は、土状況から一括遺物に近い性格を認めることができ、これらの石器も弥生時代後期中葉の年代的な位置づけが可能であろう。

（3）弥生時代終末から古墳時代

弥生時代後期中葉以降では、Ⅱ区で弥生時代終末前後の堅穴建物1棟が出土した。弥生時代終末前後の遺構は、文京遺跡1次調査や99709調査8トレンチで確認されているもの、資料の少なかった時期である。いずれの調査地点も、文京遺跡内でも南部に位置しており、弥生時代終末前後の集落は、文京遺跡南部に展開した可能性が考えられる。

古墳時代以降の遺物をみると、SK-1から古墳時代中期の土師器甕が出土している。東に隣接する13次調査、西に隣接する10次調査、少し北に離れるが14次調査南部では古墳時代中期の遺物や遺構が確認されている。古墳時代中期なるとこれらの地点で集落が営まれた姿を想定することができる。

（三吉）

表9 文京遺跡72次（02002調査）出土石器観察表

図号	発見位置	発見深度	出土状況	種類	形状	大きさ・重量	材質	遺物登録番号	図号	遺物登録番号	図号	図号
図11	2	3P	4	1次	踏平	石	板石	長さ6cm、幅6cm、厚さ3cm、重量90.8g	砂岩	0-396	0-396	011
図11	3	3P	4	1次	踏平	石	板石	長さ5.7cm、幅5.6cm、厚さ2.7cm、重量86.5g	砂岩	0-397	0-396	011
図11	5	3P	5	1次	踏平	石	板石	長さ13cm、幅12.2cm、厚さ1.8cm、重量194g	花崗岩	0-399	0-397	011
図11	6	3P	5	1次	踏平	石	板石	長さ10cm、幅10cm、厚さ2.8cm、重量143.6g	砂岩	0-398	0-397	011
図16	1	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	長さ22cm、幅20cm、厚さ1.6cm、重量204g	砂岩	0-404	0-407	004
図16	2	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ2.6cm、幅2.2cm、厚さ2.5cm、重量29.6g	砂岩	0-403	0-407	004
図16	2	SK	1	1次	弥生土層中	石	板石	長さ4.4cm、幅4.4cm、厚さ3.5cm、重量35.3g	砂岩	0-405	0-407	004
図16	4	SK	1	1次	弥生土層中（4層の中）	石	板石	長さ4cm、幅2.5cm、厚さ14.2cm、重量14.2g	砂岩	0-440	0-428	004
図16	5	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ5cm、幅3.4cm、厚さ2.5cm、重量44.9g	砂岩	0-402	0-407	004
図16	6	SK	1	1次	弥生土層中	石	板石	長さ5cm、幅3.3cm、厚さ2.2cm、重量44.1g	砂岩	0-404	0-407	004
図16	7	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	長さ6.5cm、幅7cm、厚さ3.3cm、重量198.5g	花崗岩	0-407	0-427	045
図16	8	SK	1	1次	弥生土層中	石	板石	両面長さ8.5cm、幅8.5cm、厚さ3.1cm、重量258.6g	花崗岩	0-408	0-427	045
図16	9	SK	1	1次	弥生土層中	石	板石	長さ7.7cm、幅4.2cm、厚さ1.1cm、重量12.9g	砂岩	0-409	0-427	045
図16	10	SK	1	1次	弥生土層中	石	板石	長さ9.4cm、幅4.5cm、厚さ1.7cm、重量117.4g	砂岩	0-406	0-427	045
図16	11	SK	1	1次	弥生土層中	石	板石	長さ9.8cm、幅5.5cm、厚さ4cm、重量134.2g	花崗岩	0-400	0-427	045
図17	1	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ4.8cm、幅3.6cm、厚さ1.1cm、重量26.6g	砂岩	0-422	0-427	045
図17	2	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ4.2cm、幅3cm、重量26.3g	砂岩	0-418	0-427	045
図17	3	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ4.5cm、幅2.9cm、厚さ1.7cm、重量28.4g	花崗岩	0-419	0-427	045
図17	4	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ4.4cm、幅3cm、厚さ2.6cm、重量41.6g	花崗岩	0-412	0-411	047
図17	5	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	長さ7.7cm、幅7cm、厚さ2.5cm、重量160.5g	砂岩	0-417	0-419	046
図17	6	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ6.6cm、幅5cm、厚さ2.3cm、重量177g	砂岩	0-418	0-414	046
図17	7	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ7.2cm、幅5.3cm、厚さ3.5cm、重量160.4g	花崗岩	0-420	0-427	046
図17	8	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	長さ7.7cm、幅6.5cm、厚さ5.5cm、重量203.2g	花崗岩	0-411	0-42	046
図17	9	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石	長さ5.8cm、幅3.9cm、厚さ2.1cm、重量48.3g	花崗岩	0-414	0-414	046
図17	10	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	長さ6.6cm、幅4.2cm、厚さ2.6cm、重量48.2g	砂岩	0-413	0-414	046
図17	11	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	両面長さ4.1cm、幅4.1cm、厚さ1.1cm、重量93.7g	花崗岩	0-421	0-422	047
図17	12	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	長さ9.2cm、幅6.2cm、厚さ4.9cm、重量35.6g	花崗岩	0-425	0-401	047
図17	13	SK	1	1次	弥生土層中	石	磨石・板石	長さ6cm、幅5cm、厚さ5cm、重量186g	花崗岩	0-423	0-425	047
図17	14	SK	1	1次	弥生土層中	石	板石	長さ13.2cm、幅9.6cm、厚さ2.7cm、重量953.6g	砂岩	0-424	0-426	049

表 10 文京遺跡 72 次 (02002 調査) 出土土器觀察表

[illegible]

[illegible]



写真 57 文京 72 次 (02002 調査) I 区表土層除去状況 (南から)



写真 58 文京 72 次 (02002 調査) I 区遺構検出状況 (北から)



写真 59 文京 72 次 (02002 調査) I 区表土層除去状況 (東から)



写真 60 文京 72 次 (02002 調査) I 区遺構検出状況 (東から)



写真 61 文京 72 次 (02002 調査) I 区表土層除去状況 (西から)



写真 62 文京 72 次 (02002 調査) I 区道構検出状況 (西から)



写真 63 文京 72 次 (02002 調査) I 区南壁土層 (北から)



写真 64 文京 72 次 (02002 調査) I 区東壁土層 (西から)



写真 65 文京 72 次 (02002 調査) I 区遺構完掘出状況 (東から)



写真 66 文京 72 次 (02002 調査) I 区遺構完掘出状況 (西から)



写真 67 文京 72 次 (02002 調査) I 区遺構完掘出状況 (北から)



写真 68 文京 72 次 (02002 調査) I 区遺構完掘出状況 (南から)



写真 69 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (南東から)



写真 70 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (東から)



写真 71 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (西から)



写真 72 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (北東から)



写真 73 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (東から)



写真 74 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺物出土状況 (北東から)

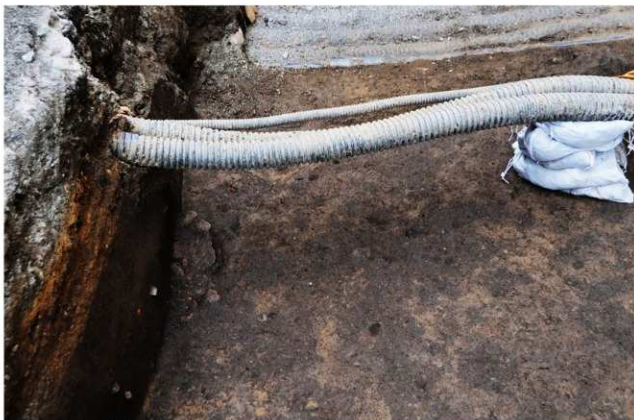


写真 75 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 遺構検出状況 (東から)



写真 76 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 完掘状況 (南東から)

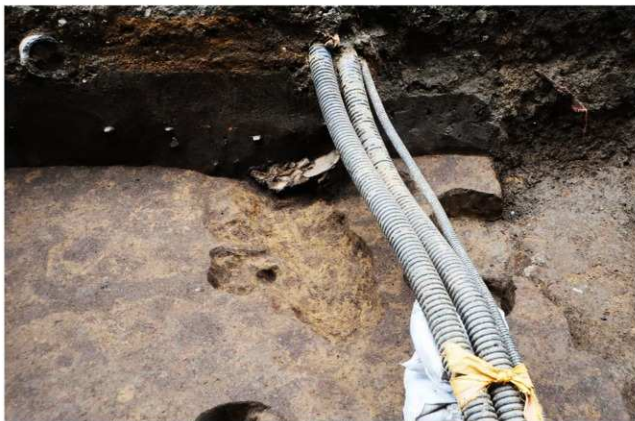


写真 77 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 完掘状況 (北から)



写真 78 文京 72 次 (02002 調査) SK-1 完掘状況 (北東から)



写真 79 文京 72 次 (02002 調査) SP-3 土層 (北から)



写真 80 文京 72 次 (02002 調査) SP-3 完掘状況 (北から)



写真 81 文京 72 次 (02002 調査) SP-5 完掘状況 (西から)



写真 82 文京 72 次 (02002 調査) SP-7 土層 (北から)



写真 83 文京 72 次 (02002 調査) SP-6 完掘状況 (南西から)



写真 84 文京 72 次 (02002 調査) SP-6 完掘状況 (西から)



写真 85 文京 72 次 (02002 調査) SP-9 完掘状況 (北西から)



写真 86 文京 72 次 (02002 調査) SP-9 完掘状況 (北東から)



写真 87 文京 72 次 (02002 調査) I 区南壁土層中
遺物出土状況 (北から)



写真 88 文京 72 次 (02002 調査) 臨地講義の様子



写真 89 文京 72 次 (02002 調査) I 区深掘状況
(東から)



写真 90 文京 72 次 (02002 調査) I 区深掘状況
(東から)



写真 91 文京 72 次 (02002 調査) II 区南部完掘状況
(東から)



写真 92 文京 72 次 (02002 調査) II 区南部完掘状況
(南から)



写真 93 文京 72 次 (02002 調査) II 区南壁土層
(北から)



写真 94 文京 72 次 (02002 調査) II 区北部完掘状況
(東から)



図 12-1



図 12-8



図 12-9

図 13-11

図 13-14

図 12-5

図 14-3

図 14-24

図 14-25

図 15-1

図 15-2

図 15-3

図 15-6

図 15-26

写真 95 文京 72 次 (02002 調査) 出土遺物 1



写真 96 文京 72 次 (02002 調査) 出土遺物 2



写真 97 文京 72 次 (02002 調査) 出土遺物 3

02003 (城北団地) 愛媛大学学内 LAN に伴う立会調査

調査地点 松山市文京町 3 番の一部
城北団地内
調査面積 133㎡
調査期間 2021 年 1 月 6 日～2021 年 2 月 9 日
調査種別 立会調査
調査担当 三吉秀光
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(令和 2 年 10 月 5 日付)

1. 調査に至る経緯

2020 年 10 月、施設基盤部から城北団地ならびに樽味団地内において、光ケーブル更新ならびに新設工事などを内容とした学内 LAN 工事計画が提示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和 2 年 10 月 16 日付けで愛媛県教育委員会に提出した。その後、工事内容に一部変更が生じたため令和 2 年 11 月 25 日付けで、愛媛県教育委員会に周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等の届出書の計画変更に関わる書類の提出を行った。令和 2 年 11 月 26 日付けで愛媛県教育委員会より指示があり、届出範囲の全域について「愛媛大学埋蔵文化財調査室の埋蔵文化財専門職員による工事立会を受けること」との指示があった。

調査区はグリーンプラザ北側地点 (Ⅰ区)、グリーンプラザ東側地点 (Ⅱ区)、グリーンプラザ内地点 (Ⅲ区)、総合情報メディアセンター西側地点 (Ⅳ区) とし、Ⅰ区→Ⅱ区→Ⅲ区→Ⅳ区の順に調査を行った。

2. 調査の記録

Ⅰ区

グリーンプラザ北側、東西に 60 m を越える調査区である (図 20)。現地表下 90cm まで掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した (写真 98～102)。

Ⅱ区

グリーンプラザ東側、南北約 60 m を越える調査区である (図 20・21、写真 103～111)。現地表下 90cm まで掘り下げ、土層断面の精査を行った上で北端部 (Ⅱ区-A)、中央部 (Ⅱ区-B)、南部 (Ⅱ区-C)、南端部 (Ⅱ区-D) の計 4 地点の土層断面図を作成した。北端部 (Ⅱ区-A) では 55cm でⅡ層を検出した。Ⅱ層は 3 層に分層が可能であり、オリーブ灰色シルトのⅡ-1 層、灰色シルトのⅡ-2 層、橙色～灰色を呈する粗砂からなるⅡ-4 層を検出した。Ⅱ-1・2 層は近現代の水田層で、Ⅱ-3 層は近世以前の溝埋土の一部と考えられる。

中央部 (Ⅱ区-B) では現地表下 92cm まで掘り下げを行った。現地表下 55cm までⅠ層が続き直下で、オ

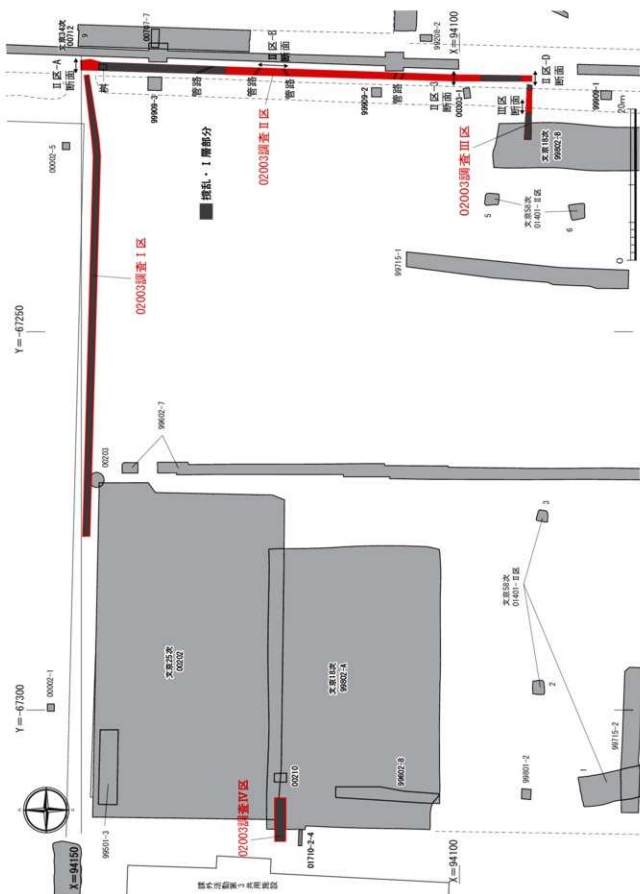


図20 城北団地(02003調査)調査地点位置図(縮尺1/500)

リーブ灰色シルトのⅡ-1層、橙色シルトのⅡ-2層が出土した。その下部では灰褐色シルト（SD-1-2層）や灰色粗砂～細砂（SD-1-1層）からなるSD-1を検出した。SD-1は堆積関係から古代～中世段階の溝の一部と考えられる。

南部（Ⅱ区-C）では現地表下90cmまで掘り下げを行い、近現代の水田層と考えられるⅡ-1・2層を検出した。その直下、現地表下62cmで灰色粗砂～細砂、Ⅱ-4層が出土した。Ⅱ-4層は南端部（Ⅱ区-D）やⅢ区で検出したⅣ層の一部である可能性も残る。

南端部（Ⅱ区-D）では現地表下52cmまで掘り下げを行った。現地表下37cmまで基本層序Ⅰ層が続き直下で黄灰色砂質土、基本層序Ⅳ層を確認した。

Ⅲ区

グリーンプラザ内、Ⅱ区の南端部から西へ7.7mのびる調査区である（図20・21、写真112～115）。西半部の一部は文京遺跡18次調査区内に該当する。調査区中央から東半部では、現地表下90cmまで掘り下げを行った。現地表下70cmまで基本層序Ⅰ層が続き、その直下では径2mm未満の砂粒を多く含む黄灰色砂質

土を確認した。この黄灰色砂質土は文京遺跡18次調査で基本層序Ⅴ層とされたが、Ⅳ層の一部である可能性も考えられる。今回の調査だけでは判断できないことから、今後の調査によって検討する必要がある。

Ⅳ区

総合情報メディアセンター西側地点であり、重機を用いて現地表下70cmまで掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した（図20、写真116・117）。



写真98 02003調査Ⅰ区全景（西から）



写真99 02003調査Ⅰ区西端（南から）



写真100 02003調査Ⅰ区西端（北から）



写真101 02003調査Ⅰ区中央（西から）



写真102 02003調査Ⅰ区中央（南から）



写真103 02003調査Ⅱ区全景（北から）



写真104 02003調査Ⅱ区北端部（南から）



写真105 02003調査Ⅱ区全景（北西から）

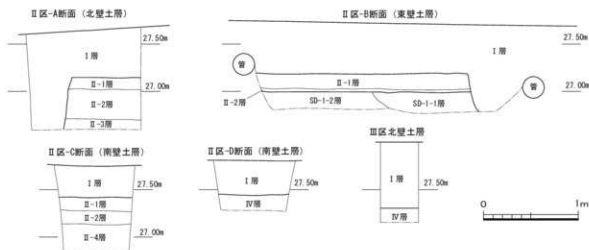


図21 城北団地(02003調査)土層断面(縮尺1/40)

3. まとめ

今回の調査では、城北団地西部に位置するグリーンプラザの周囲（北側・東側・西側）で調査を行うこととなった。北側にあたるⅠ区、西側にあたるⅣ区の調査では、近現代の造成土である基本層序Ⅰ層におさまっていることを確認できた。東側にあたるⅡ・Ⅲ区では、調査区内のほとんどの地点が団地造成以前の近

代の水田層内におさまっていることを確認した。そうした中でも、古代～中世に位置づけられる溝の一部などを確認することができた。周辺における調査では、連関する遺構は確認されておらず、年代を含めた具体的な位置づけは今後の調査成果を待たなければならない。今後も周辺における開発行為の際には、発掘調査などの対応が必要である。

（三吉）



写真 106 02003 調査 II 区 B 断面 (北西から)



写真 107 02003 調査 II 区 B 断面 (西から)



写真 108 02003 調査 II 区 C 断面 (北から)



写真 109 02003 調査 II 区南端分 (北西から)



写真 110 02003 調査 II 区南端部 (南西から)



写真 111 02003 調査 II 区 D 断面 (北から)



写真 112 02003 調査 III 区全景 (西から)



写真 113 02003 調査 III 区全景 (南西から)



写真 114 02003 調査 III区全景 (南東から)



写真 115 02003 調査 III区中央北壁土層 (南から)



写真 116 02003 調査 IV区全景 (南東から)



写真 117 02003 調査 IV区南壁土層 (北から)

02004 (城北団地) 教育学部2号館(Ⅱ期)改修その他工事に伴う立会調査

調査地点 松山市文京町3番
城北団地内
調査面積 9㎡
調査期間 2021年1月12日
調査種別 立会調査
調査担当 三吉秀充
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(令和2年6月25日付)

に、教育学部2号館北側で実施する新規の配管工事部分について工事立会を実施することとした。

2. 調査の記録

工事予定地である教育学部2号館北側において、重機を用いて掘り下げたが、途中スロー基礎部分が現れた。これ以上の掘り下げが困難であることから、調査区を北側にスライドさせた。調査では、重機を用いて現地表下60cm、標高2780mまで掘り下げ、表土層である1層が続いており、埋蔵文化財への影響がないことを確認した(図22、写真118～121)。

3. まとめ

本調査では、工事に伴う掘削が、表土層である1層におさまっていることを確認できた。本調査の南部で実施した00705調査5トレンチでは、現地表下90cm、標高2750mで近世以前の自然流路が確認されており、周辺において深度が高くなる工事を行う際には、今後発掘調査などの対応が必要である。(三吉)

1. 調査に至る経緯

2020年6月、施設基盤部から、城北団地内教育学部2号館(Ⅱ期)改修工事計画が提示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和2年7月7日付けで愛媛県教育委員会に提出した。7月15日付けで、「届出のあった土木工事等については、埋蔵文化財への影響がないよう慎重に工事を実施すること」との指示があった。これを受けて埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で協議した結果、2021年1月12日



写真 118 02004 調査 調査区全景 (西から)



写真 119 02004 調査 調査区全景 (東から)



写真 120 02004 調査 調査区西端部南壁土層
(北から)



写真 121 02004 調査 調査区東端部南壁土層
(北から)

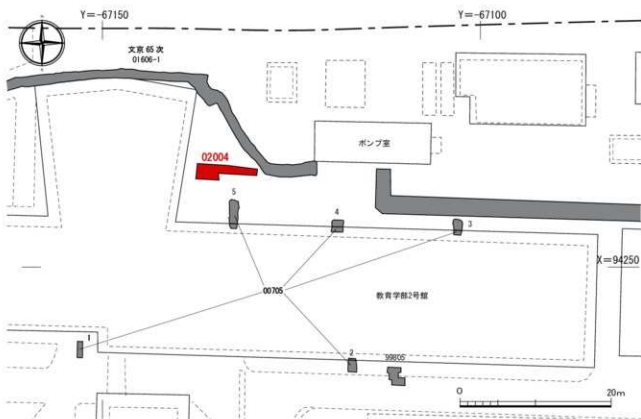


図22 城北団地(02004調査)調査地点位置図(縮尺1/500)

02005（樽味団地）愛媛大学学内LANに伴う立会調査

調査地点 松山市樽味3丁目5番7の一部

樽味団地内

調査面積 10㎡

調査期間 2021年2月18日～2021年2月22日

調査種別 立会調査

調査担当 三吉秀充

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(令和2年10月5日付)

1. 調査に至る経緯

2020年10月、施設基盤部から城北団地ならびに樽味団地内において、光ケーブル更新ならびに新設工事などを内容とした学内LAN工事計画が提示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和2年10月16日付けで愛媛県教育委員会に提出した。これに対して令和2年10月30日付けで愛媛県教育委員会より指示があった。その後、工事内容に一部変更が生じたため令和2年11月25日付けで、愛媛県教育委員会に周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等の届出書の計画変更に関わる書類の提出を行った。令和2年12月3日付けで愛媛県教育委員会より指示があり、届出範囲の全域について「愛媛大学埋蔵文化財調査室の埋蔵文化財専門職員による工事立会を受けること」との指示があった。

これらの指示と学内における環境整備を行った上で、2月中旬より農学部3号館南東部の1トレンチ、ビニールハウス周辺の2トレンチ、附属高校第3棟校舎の南側の3トレンチの立会調査を実施した（図23）。

2. 調査の記録

1 トレンチ

農学部3号館南東部に設けた調査区である（写真122～125）。道路部分にあたる西部では現地表下80～90cmまで掘り下げた。調査区内の大半はすでに既設配管設置時の工事によって掘り返されていたが、北東部の一部でⅡ層、Ⅳ層を検出した。Ⅳ層の上面を精査したが遺構は確認できなかった。東部では現地表下40～70cmまで掘り下げ、造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。

2 トレンチ

畜舎北西部に設けた調査区である（写真126～129）。現地表下40～65cmまで掘り下げ、造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。

3 トレンチ

附属高校第3棟校舎南側に設けた調査区である（写真130・131）。現地表下40cmまで掘り下げ、造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。

3. まとめ

今回の調査では1トレンチ西部でⅡ層、Ⅳ層を確認し、1トレンチ東部、2トレンチ、3トレンチでは、工事による掘削範囲は造成土であるⅠ層内におさまっていることを確認した。1トレンチ西部周辺における既往の調査を見ると、樽味遺跡5次調査（98702調査）Ⅱ区では、中世段階の柱穴が確認されている（愛媛大学埋蔵文化財調査室2003）。今回の調査地点では、遺構・遺物は出土していないが、中世の集落域の南部にあたることから、今後も開発行為の際には発掘調査・立会調査が必要である。（三吉）

参考文献

愛媛大学埋蔵文化財調査室 2003『樽味遺跡Ⅴ』

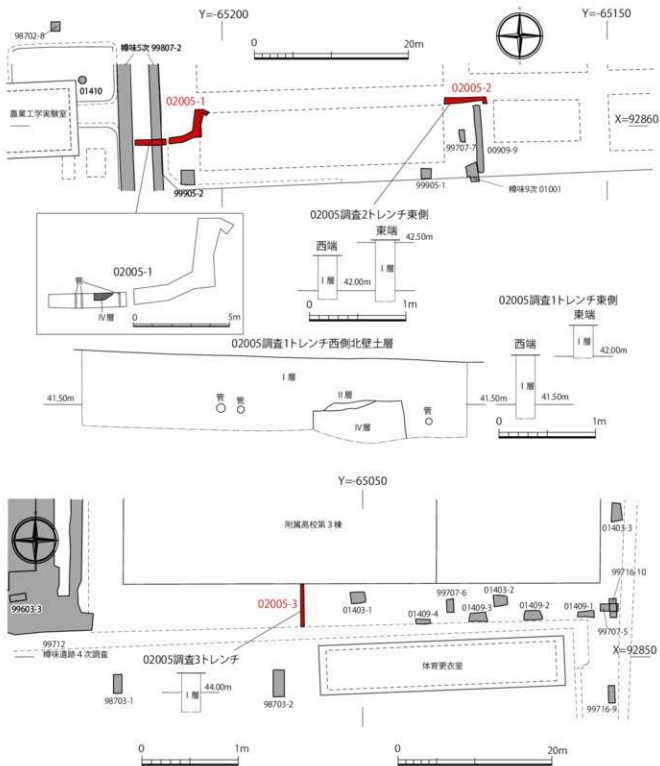


圖23 樽味団地(02005調査)調査地点位置図(縮尺1/500)、平面図(縮尺1/200)、土層断面図(縮尺1/40)



写真 122 02005 調査 1 トレンチ全景 (西から)



写真 123 02005 調査 1 トレンチ全景 (東から)



写真 124 02005 調査 1 トレンチ西側全景 (南東から)



写真 125 02005 調査 1 トレンチ西側土層断面 (南から)



写真 126 02005 調査 2 トレンチ西端土層 (東から)



写真 127 02005 調査 2 トレンチ東端土層 (北から)



写真 128 02005 調査 2 トレンチ全景 (西から)



写真 129 02005 調査 2 トレンチ全景 (東から)



写真 130 02005 調査 3 トレンチ全景 (北から)



写真 131 02005 調査 3 トレンチ西壁土層 (東から)

Ⅲ 2021年度の発掘調査

02101（城北団地）統合車庫取り壊しその他工事に伴う発掘調査
（文京遺跡 73 次調査）

調査地点 松山市文京町3番
城北団地内
調査面積 365㎡
調査期間 2021年7月1日～2021年8月3日
調査種別 本格調査
調査担当 三吉秀光
依頼文書 施設整備部長発事務連絡
（令和3年3月8日付）

1. 調査に至る経緯

2021年3月、施設整備部から城北団地統合車庫を取り壊し、レジオナルコモンズ（仮称）建物の新営工事計画が示された。埋蔵文化財調査室と施設整備部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和3年4月9日付けで愛媛県教育委員会に提出し、令和3年4月30日付けで愛媛県教育委員会より発掘調査の指示があった。令和3年5月20日付けで埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、5月28日付けで愛媛県教育委員会より受理したとの通知があった。

2. 調査と整理の経過

(1) 調査の経過

愛媛大学埋蔵文化財調査室では、1998（平成10）年からX=93900、Y=-66800を基準点0として、東から西へ向かって5mおきにAA・AB・AC……BA・BB・BC……、南から北へ向かって5mおきに1・2・3……とした5m方眼の調査区割り、を城北団地全域に設定している。さらに、必要に応じて、5m方眼を、南東隅から西に1～5、その北側を東から西に6～10と、北西隅の25区画にいたる1m方眼に細分している。この1m方眼を示す場合は「BT-65-1区」などと呼称している。

今回の文京遺跡 73 次調査では、城北団地内に設置されている平面直角座標Ⅳ系基準点を、調査区周辺へ座標点を移動し、調査記録の作成に利用した。

6月上旬から車庫の取り壊し工事が始まり、既設の建物基礎部分などの撤去作業が行われ、6月21日に立会調査を行い、既存の掘り返し範囲内に含まれていることを確認した。

7月1日から重機を用いて調査を開始した。表土層であるⅠ層、近世の水田層であるⅡ層を現地表下40～50cmまで掘り下げ、Ⅲ層を検出した。Ⅲ層は、調査区の西端部分（幅約50cm）と中央部（Y=-67040～-67043ライン）で南北に2.5～4m間隔で、一辺3～4mの正方形の島状に5地点残存していた。この島状の残存地点を、南から順に島状地点1（BW17区）、島状地点2（BW18・19区）、島状地点3（BV・

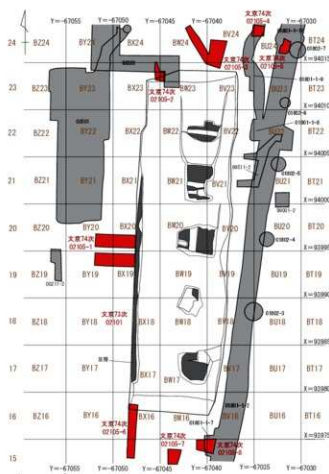


図 24 文京 73 次（02101 調査）調査区における区割と文京 74 次調査地点位置（縮尺 1/400）

BW19・20区)、鳥状地点4(BV・BW21区)、鳥状地点5(BV・BW22区)とした。その他は車庫の基礎工事部分の掘削でIV層中まで掘り返しを受けていた。III層上面検出後、人力による作業に切り替えて精査・掘り下げ調査を進めた。III層のIV層については、新営建物の構造の関係から基礎層(基本層序V層)上面までの掘り下げができないことから、建物工事に伴って破壊を受けるIV層上部層における遺構・遺物の有無を確認することを目的として調査を進めた。IV層掘り下げ過程において、調査区南西部で縄文時代前期末のSX-1を検出した。また調査区西壁に沿って幅約30cmの深掘り調査区、調査区中央Y=-67043前後で南北方向に深掘り調査区を設けて、IV層の堆積状況、遺物の有無を確認した。深掘り調査区では、現地表下150cmまで掘り下げ、遺構や遺物が出土しないことを確認して、8月3日に調査を終了した。

調査では縄文時代～古墳時代の遺物がコンテナ(60cm×44cm×15cm)1箱分出土している。

なお、調査期間中に法文学部、社会共創学部の学生を対象とした臨地講義が行われ、大学教育の場としても利用された。

(2) 整理の経過

整理作業は、調査が終了した2021年8月から出土遺物の洗浄・分類・注記・復元作業、遺構実測図の整理、遺物実測作業、遺物写真撮影の順に報告書刊行に向けた準備作業を行い、本書にて2022年度に正式報告を行った。

(3) 出土遺構・遺物の記録方法

調査で検出した遺構には遺構番号を付している。本調査では、SX-1がある。

出土した遺物には、R-1～の遺物登録番号を与え、同じ登録番号をもつ複数の遺物で実測および写真撮影した遺物には、新たな遺物登録番号を付与した。遺物登録番号、遺構、出土区・層位を整理した遺物台帳を作成し、遺物には、調査略号(BNK73)と遺物登録番号を注記した。

発掘調査時の記録には、遺構・土層の観察所見記録・実測図・写真がある。調査および整理の際には、デジタルカメラによる写真撮影を行っており、遺構・土層の観察所見記録・実測図とともに愛媛大学埋蔵文化財調査室で保管している。

3. 調査で検出した遺構・遺物の記録

(1) 基本層序

文京遺跡が所在する城北団地では、既往の調査成果から遺跡全体にわたる基本層序を、以下のようにI～V層と設定している。

I層：瓦礫を伴った団地造成土部分。

II層：団地造成以前の灰色系の砂礫混じりのシルトの水田層。調査区周辺では近世～近代の水田層が広がる。本調査では、灰色を呈する耕作土であるII-1層と橙色を呈し床土層であるII-2層がある。

III層：弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～暗褐色系の土層。本調査では、褐灰色シルトで、にぶい黄褐色～灰黄褐色シルトの小ブロックが混じる。本調査では、IV層上部が土壌化して暗褐色を呈し、縄文時代晩期末～弥生時代前期初頭の遺物を一部含む。

IV層：縄文時代前期～晩期までの遺構・遺物を包含する黄褐色系シルトおよび砂質シルトである。

IV層は最上部に堆積する明黄褐色シルト～細砂を主体とするIV-1層、その下部に堆積する灰色砂礫が多く混じるIV-2層、明黄褐色細砂～ごく細砂からなるIV-3層を確認している。

IV-3層はラミナがみられ、自然堆積層である。IV-1層はラミナがみられず、一部古土壌化している。縄文時代後期から晩期の遺物が出土している。IV-2層中で縄文時代前期末の土器だまりSX-1を検出している。IV-3層から遺物は出土していない。

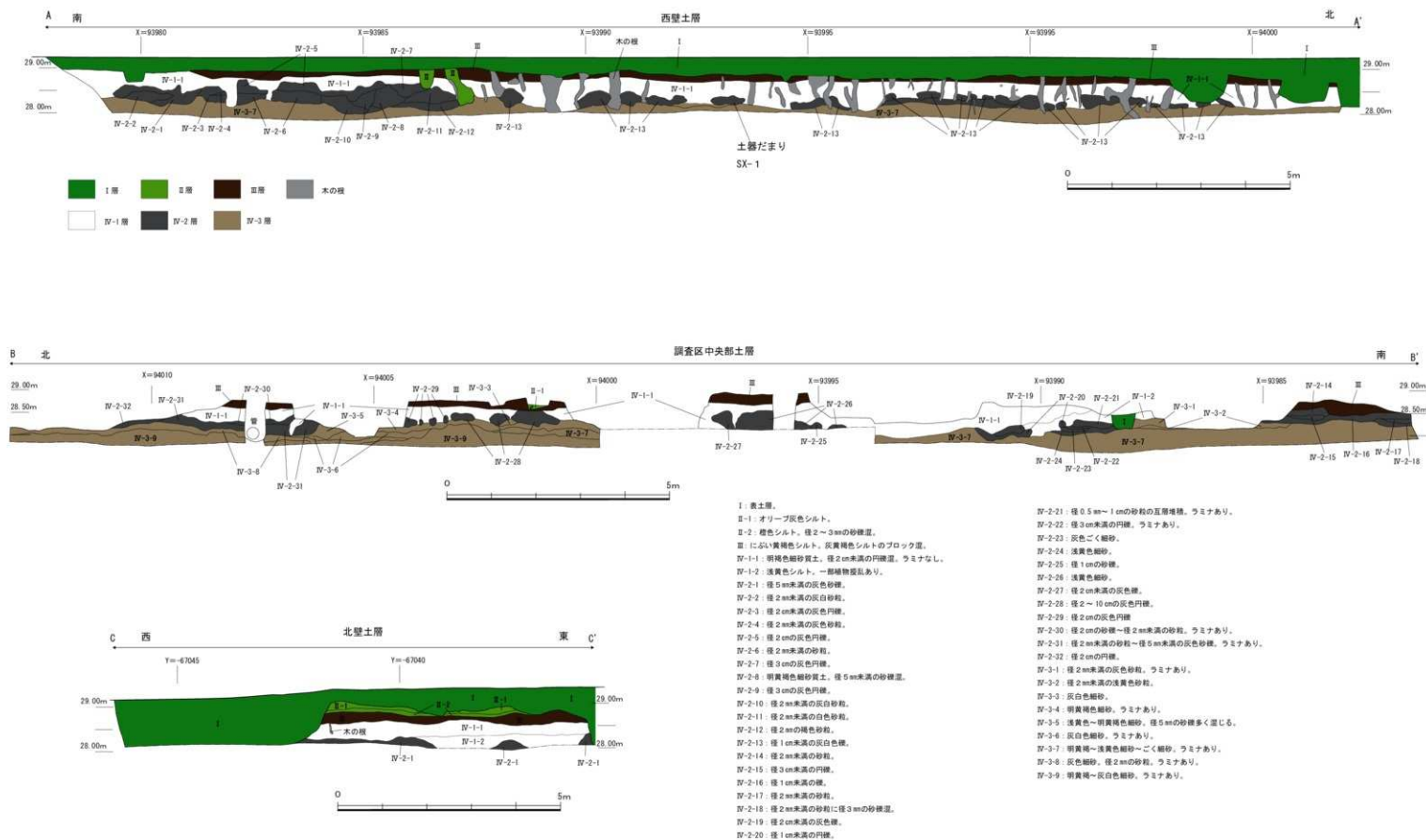
V層：花崗岩の円礫・亜円礫を主体とする砂礫層なしいは礫層、砂層から構成される。

今次調査でも、基本層序I～IV層を確認できた。

(2) 遺構・遺物の記録

① I・II層出土遺物

近現代の団地造成土や攪乱部分であるI層や近世の水田層であるII層中から遺物が出土した。特徴的なものについて図化した(図28-1～9)。1は弥生時代後期の複合口縁壺の口縁部片である。2は弥生土器の壺底部片である。3は大型の弥生土器の壺胴部片である。4は弥生時代中期から後期に位置づけられる壺の口縁部片である。5はく字状を呈する土器の甕口縁部片である。6は弥生時代中期から後期の甕の底部片で上げ底を呈する。7は中世の土器甕皿底部片である。8は近世の砥部焼の碗底部片である。9は近現代の陶



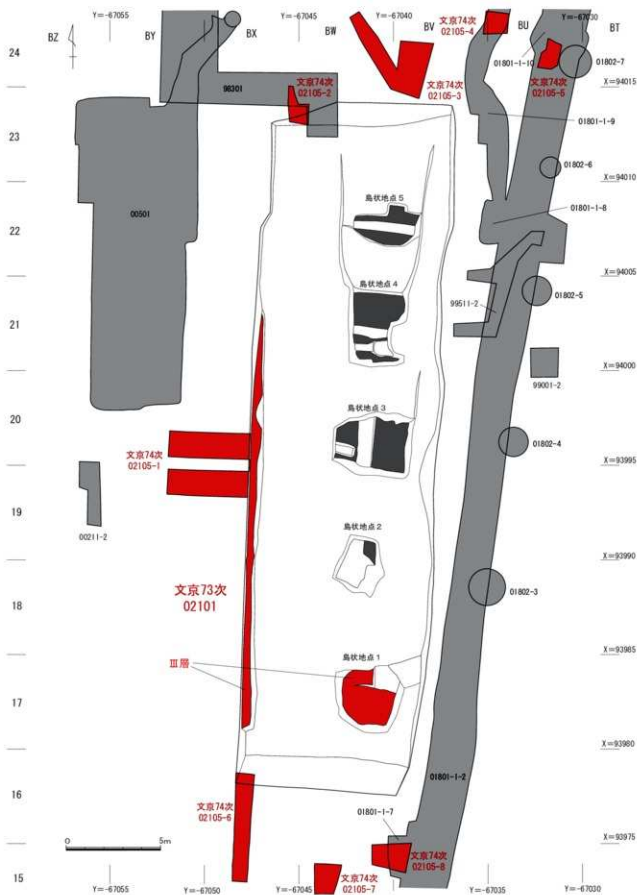


図 26 文京 73 次 (02101 調査) III 層検出状況と文京遺跡 74 次調査地点位置 (縮尺 1/200)

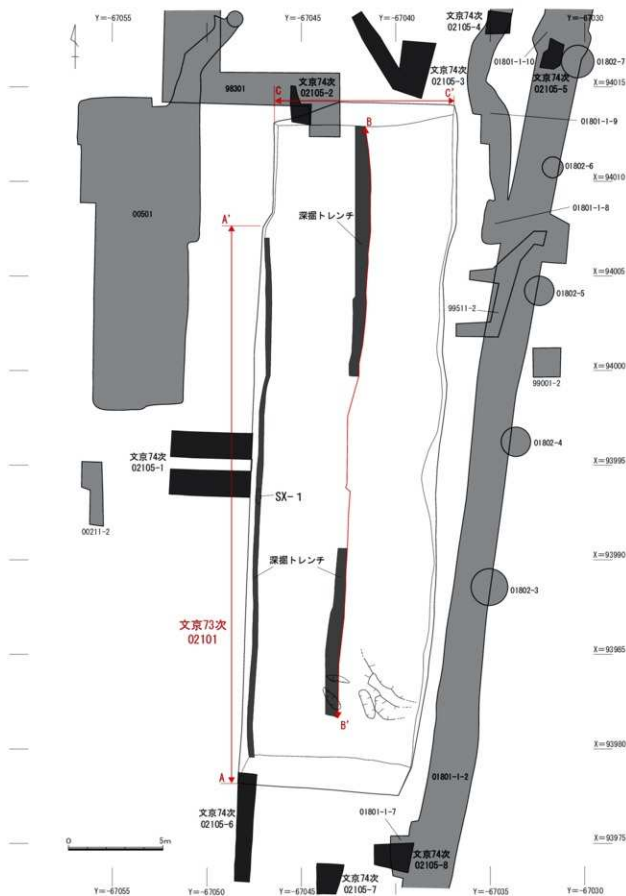


図 27 文京 73 次 (02101 調査) IV 層中遺構配置図 (縮尺 1/200)

器蓋の底部片である。周辺の文京遺跡70次(01801)調査1-8トレンチでは、「高」と記された磁器碗が出土しており、近現代以降の廃棄などが調査区周辺で行われた可能性が考えられる。

②Ⅲ層出土遺物

Ⅲ層は、調査区の西壁沿いに幅約50cmで南北方向に残存している部分と中央部(Y=-67040～-67043ライン)で南北に2.5～4m間隔で、一辺3～4mの正方形の島状に5地点で残存していた。南から順に島状地点1(BW17区)、島状地点2(BW18・19区)、島状地点3(BV・BW19・20区)、島状地点4(BV・BW21区)、島状地点5(BV・BW22区)である(図26)。

Ⅲ層中で検出した遺構はない。Ⅲ層の調査では、縄文時代晩期末から弥生時代の遺物が出土した。図化したのは以下の通りである(図28-10～16)。

10は複合口縁壺の口縁部片である。口縁部外面は磨減しているが、掘削波状文・直線文がわずかに残る。弥生時代後期中葉に位置付けられる。調査区の西壁沿い、調査区中程のBX20区で出土している。11は、縄文時代晩期末から弥生時代前期に位置付けられる刻目帯文土器の壺の口縁部片である。調査区西壁沿いから出土している12は口縁端部を上方向に積み上げる壺の口縁部片である。弥生時代中期末から後期前葉に位置付けられる。13は弥生時代中期から後期の壺の口縁部である。14・15は弥生時代中期から後期の壺の底部片である。14はわずかに上り底を呈し、15は平底である。16は弥生土器高坏の脚部片である。

③Ⅳ層で検出した遺構・遺物

既往の調査成果を参考にとすると、本調査地点は基盤層であるⅤ層が大きく落ち込んで大きな谷部を形成しており(外山2013)、谷部を流れる自然流路の堆積作用によって谷部が埋没したと考えられる。この谷部に堆積したのがⅣ層である。Ⅳ層は最上部に堆積する明黄褐色シルト～細砂を主体とするⅣ-1層、その下部に堆積する灰色砂礫が多く混じるⅣ-2層、明黄褐色細砂～ごく細砂からなるⅣ-3層を確認している。Ⅳ-3層はラミナがみられ、自然堆積層である。

Ⅳ-1層中での調査過程では、図25・27のように北側に向かって落ち込む傾斜変換線を確認できた。谷部を堆積する自然流路の一部と考えられるが、これらに対応する北側の傾斜変換線は確認できなかった。

Ⅳ-1層中から縄文土器深鉢刷部片が散発的に少量出土した。いずれも1辺4cmに満たない小片で、図化できなかった。Ⅳ-1層の土層観察では、ラミナがみられず、古土壌化していることを確認できたことから、Ⅳ-1層出土の縄文土器片は人為的な活動などによって小片化した可能性が高い。

Ⅳ-1層下に堆積しているⅣ-2層中で土器だまりSX-1が出土した。

SX-1

調査区西端部におけるⅣ層の掘り下げ中に、BX19区のⅣ-2層中で、1辺75cmほどの径1cm未満の砂礫ブロック中から縄文時代前期末の土器が出土した。掘り込みなどは確認できていないが、比較的大きな破片が複数出土していることから、廃棄などの単位を示していると判断してSX-1とした。

SX-1では3点の土器片が出土している。接合はしないが、全体の色調や焼成具合、胎土の特徴などが共通することから同一個体の可能性が高い。一個体の土器が投棄され、そのまとまりが谷部を埋める堆積作用によって埋没したと予想される。

17-1・2は縄文土器深鉢の口縁部から胴部上半部片である。胴部は筒状を呈し、上半部から口縁部にかけて外方に大きくひらき、端部近くで口縁部は上方に屈曲する。口縁部外面にはD字形彫形文、胴上半部外面にはRL縄文が施される。口縁部内面には縄文を施した痕跡がわずかに残る。17-2は胴部中程に補修孔がみられる。18は縄文土器深鉢の胴部片である。外面にはRL縄文が施される。17・18は以上の特徴から縄文時代前期末に位置づけられる。

3. まとめ

今回の調査では、縄文時代に堆積する谷部と縄文時代前期末のSX-1を確認することができた。

文京遺跡周辺では、縄文時代前期までに基本層Ⅴ層の堆積作用が終了し、Ⅳ層の堆積作用が始まることが指摘されてきた(平井1989・田崎2019)。本調査で出土した前期末のSX-1は、Ⅳ層の堆積が開始した直後に投棄されたものと考えられる。大量の遺物が伴う状況ではないことから、短期間の生活痕跡を示すものと位置づけることができる。

文京遺跡では、Ⅳ層の検出地点データに基づき、現在の標高や地層の堆積状況などを検討した上で、縄文時代後晩期とされるⅣ層上面高度を50cm間隔で求め

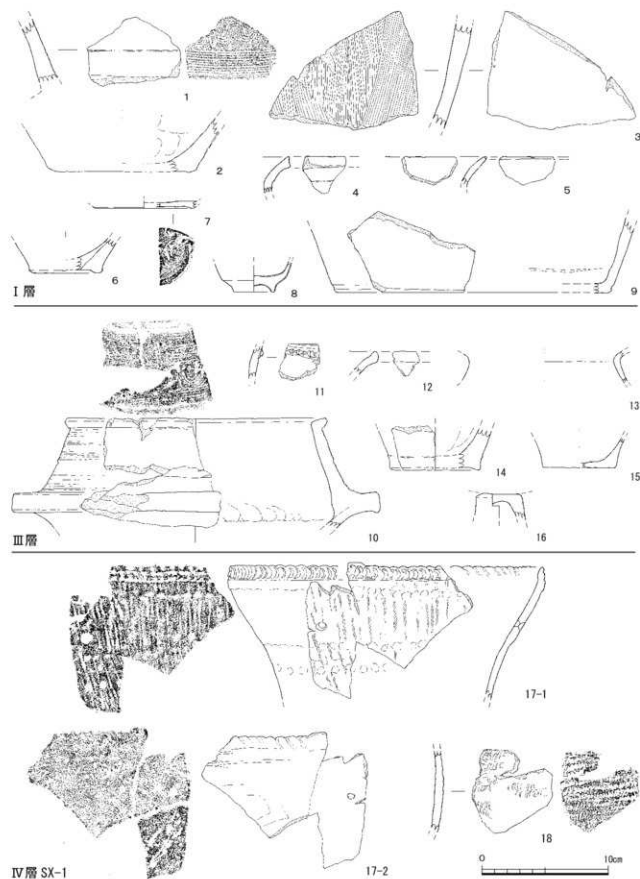


図28 文京73次(02101調査)出土遺物(縮尺1/3)

ることによって、旧地形が復元された（外山 2013）。復元された旧地形は、比較的安定した土地環境になったものの、地表面は起伏に富み、旧河道や谷状地形とそれらの侵食作用を受けずに残された微高地や平坦地と微凹地が複雑に分布していることが明らかになっている。

本調査区南部や文京 27 次調査、文京 74 次 6 トレンチでは標高 28.70～28.90 m でⅣ層が確認された。一方、本調査区北部や文京 74 次調査 2 トレンチでは、標高 28.50 m でⅣ層が出土した。Ⅳ層上面が後世の削平を受けていることを考慮しても、本調査区の南部から北部にかけて谷状の地形を想定することができる。外山 秀一氏によるⅣ層上面の地形復元を参考にすれば、文京道跡 31・44 次調査地点にみられる谷状地形が本調査地点周辺まで続いていたと考えられる。

文京道跡 31・44 次調査では縄文時代後期～晩期の古土壌が出土し、古土壌中からイネのプラント・オブオールが確認された。これらの状況から文京道跡 31・44 次調査地点の東部に農耕地の存在が想定された（田崎ほか 2013）。調査段階から農耕地を想定しながら道構・土層の精査を進めたが、農耕地と直接結びつく痕跡は

確認できなかった。しかしながら、本調査Ⅳ-Ⅰ層は、注目しておく必要がある。土層の堆積状況を観察すると明確なミナが確認できなかった。加えて縄文時代後・晩期の細片が出土した。これらのことから谷部が埋没する過程で、その縁辺部において人為的な活動が行われたことをうかがうことができる。

またⅢ層中から縄文時代晩期末～弥生時代前期初頭の凸帯土器片や複合口縁壺の口縁部片など弥生時代中・後期の遺物が出土した。調査地点周辺は文京道跡の中でも最も標高が高い地点であり、古墳時代以降、周辺が農耕地として利用されることによって大幅な削平が行われたと推定される。Ⅲ層出土遺物は、道構に伴っていないものの、弥生時代における文京道跡集落の広がりを示すものと考えておく必要がある。

謝辞

SX-1 出土資料については、岡山市教育委員会田嶋正憲氏による実見の上で様々なご教示を頂いた。本報告でも田嶋氏の指摘を参考にさせて頂いた。記して感謝申し上げる。（三吉）

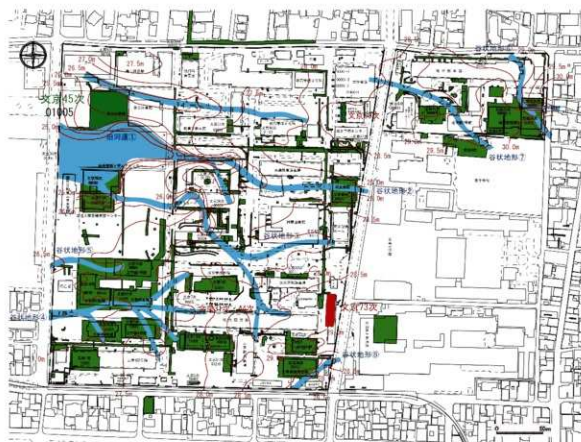


図 29 文京道跡 73 次 (02101 調査) 縄文時代後晩期の旧地形と調査地点 (外山 2013 より作成)

参考文献

田崎博之・外山秀一・宇田津徹朗・松田順一郎・三吉秀光 2013 「縄文時代後期～晩期における稲作農耕空間の探求」『日本考古学協会第79回総会研究発表要旨集』一般社団法人日本考古学協会、32-33pp
 田崎博之 2019 「北部九州～瀬戸内沿岸における縄文時代後期～弥生時代前期の堆積環境と遺跡の展開」『一般社団法人日本考古学協会2019年度岡山大会研究発表資料集』日本考古学協会2019年度岡山大会実行委員会、47-60pp

外山秀一 2013 「文京遺跡における縄文時代後晩期の微地形復原」『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報2011年度』愛媛大学埋蔵文化財調査室 55-58pp

平井幸弘 1989 「第4章 鷹子遺跡および柳味遺跡をとりまく地形環境」『鷹子・柳味遺跡の調査』愛媛大学埋蔵文化財調査室、愛媛大学埋蔵文化財調査報告1、61-75pp



写真132 Q2101(BNK73次)調査出土遺物

表 11 文京遺跡 73 次 (Q2101 調査) 出土遺物観察表

調査年度	遺物No.	調査区	出土遺物層位	種類	図例	遺物の説明		遺物登録番号	図例No.	図例No.	図例No.
						形状・数量等	色調・付着物等				
図 29	1	IV・Q2101	I層	赤土土器	図	片・内面ともにナメ調整。内面に直交文と横直交文を施す。	内面は褐色。内面は赤い赤褐色。	3-209		3-209	1
図 29	2	IV・Q2101	I層	赤土土器	図	外周はナメ調整。内面は直磨り。	内面は赤い褐色。内面は褐色。	3-209		3-209	1
図 29	3		I層	赤土土器	図	外周はナメ調整。内面は直磨り調整を施す。	内面は赤い褐色。内面は赤い赤褐色。	3-205		3-202	1
図 29	4		I層	赤土土器	図	1/4断面は直磨り。外周・内面ともにナメ調整。	内面は褐色。内面は赤い褐色。	3-203		3-202	1
図 29	5		I層	土師器	図	外周・内面ともにナメ調整。	内周・内面ともに明褐色。	3-202		3-202	1
図 29	6		I層	赤土土器	図	外周・内面ともにナメ調整。	外周は褐色。内面は褐色。	3-203		3-202	1
図 29	7		I層	土師器	図	外周断面は直磨り直磨り。内面は直磨り調整を施す。	外・内面ともに直褐色。	3-207		3-207	1
図 29	8		I層	土師器	図	外周・内面ともに直磨り。内面に直磨り調整を施す。	内面は褐色。内面は褐色。	3-206		3-207	1
図 29	9		I層	土師器	図	外周・内面ともに直磨り調整。	内面は褐色。内面は褐色。	3-204		3-202	1
図 29	10	IX調査区	遺跡	赤土土器	図	外周は直磨り調整を施す。内面は直磨り調整を施す。直交文を施す。内面は直磨り調整。直交文を施す。直交文を施す。直交文を施す。	外・内面ともに直褐色。外・内面ともに直褐色。	3-210		3-22	2
図 29	11	IX調査区	遺跡	赤土土器	図	外周・内面ともに直磨り調整。外周に直磨り調整を施す。直交文を施す。直交文を施す。直交文を施す。直交文を施す。	内面は褐色。内面は褐色。	3-212		3-22	2
図 29	12	IV・Q2101	遺跡	赤土土器	図	外周・内面ともに直磨り調整を施す。	内面は褐色。内面は褐色。	3-211		3-23	2
図 29	13	IX調査区	遺跡	赤土土器	図	外周・内面ともに直磨り調整。	外・内面ともに直褐色。	3-211		3-21	2
図 29	14	IV・Q2101	遺跡	赤土土器	図	外周・内面ともに直磨り調整。	内面は褐色。内面は褐色。	3-213		3-22	2
図 29	15	IV・Q2101	遺跡	赤土土器	図	外周・内面ともに直磨り調整。	内面は褐色。内面は褐色。	3-216		3-28	2
図 29	16	IV・Q2101	遺跡	赤土土器	図	外周・内面ともに直磨り調整。	内面は褐色。内面は褐色。	3-215		3-28	2
図 29	17		SX-1	赤土土器	図	外周は直磨り調整を施す。内面は直磨り調整を施す。直交文を施す。直交文を施す。直交文を施す。直交文を施す。	内面は褐色。内面は褐色。	3-217		3-25	3
図 29	18		SX-1	赤土土器	図	外周は直磨り調整を施す。内面は直磨り調整を施す。直交文を施す。直交文を施す。直交文を施す。直交文を施す。	内面は褐色。内面は褐色。	3-218		3-25	3



写真 133 文京 73 次 (02101 調査) Ⅲ層検出状況 (北から)



写真 134 文京 73 次 (02101 調査) Ⅲ層検出状況 (北西から)



写真 135 文京 73 次 (02101 調査) III 層完掘状況 (北から)



写真 136 文京 73 次 (02101 調査) III 層完掘状況 (南から)



写真 137 文京 73 次 (02101 調査) 完掘状況 (北から)



写真 138 文京 73 次 (02101 調査) 完掘状況 (南から)



写真 139 文京 73 次 (02101 調査) III 層検出状況 (北西から)



写真 140 文京 73 次 (02101 調査) BW17 区 III 層検出状況 (西から)



写真 141 文京 73 次 (02101 調査) BW18・19 区Ⅲ層検出状況 (西から)



写真 142 文京 73 次 (02101 調査) BV・BW19・20 区Ⅲ層検出状況 (西から)



写真 143 文京 73 次 (02101 調査) BV・BW21 区Ⅲ層検出状況 (西から)



写真 144 文京 73 次 (02101 調査) BV・BW22 区Ⅲ層検出状況 (西から)



写真 145 文京 73 次 (02101 調査) BW17 区Ⅲ層完掘状況 (西から)



写真 146 文京 73 次 (02101 調査) BW18・19 区Ⅲ層完掘状況 (西から)



写真 147 文京 73 次 (02101 調査) BV・BW19・20 区Ⅲ層完掘状況 (西から)



写真 148 文京 73 次 (02101 調査) BV・BW21 区Ⅲ層完掘状況 (西から)



写真 149 文京 73 次 (02101 調査) BV・BW22 区Ⅲ層完掘状況 (西から)



写真 150 文京 73 次 (02101 調査) BW17 区完掘状況 (南東から)



写真 151 文京 73 次 (02101 調査) BW17 区完掘状況 (西から)



写真 152 文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層北端部 (西から)



写真 153 文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層 BV・BW22 区 (西から)



写真 154 文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層 BV・BW18 から 20 区 (北西から)



写真 155 文京 73 次 (02101 調査) 調査区中央南北土層 BW17 区 (西から)



写真 156 文京 73 次 (02101 調査) 既設管路撤去状況
調査区南西部 (南東から)



写真 157 文京 73 次 (02101 調査) 既設管路撤去状況
(北西から)



写真 158 文京 73 次 (02101 調査) 臨地講義の様子 1



写真 159 文京 73 次 (02101 調査) 臨地講義の様子 2



写真 160 文京 73 次 (02101 調査) 北壁土層 (南から)



写真 161 文京 73 次 (02101 調査) 西壁土層 (南東から)



写真 162 文京 73 次 (02101 調査) 西壁土層 (北東から)

02102（城北団地）埋設電波実験に伴う掘削工事

調査地点 松山市文京町2番の一部、松山市道後橋又
10番13号の一部
城北団地内

調査面積 1㎡

調査期間 2021年6月1日～2021年6月7日

調査種別 立会調査

調査担当 三吉秀充

依頼文書 工学部理工学研究科安原英明研究室発事務
連絡

（令和3年5月25日付）

範囲に含まれる総合研究棟1周辺で工事を実施することとした。

2. 調査の記録

1 トレンチ

道後橋又地区北側、グラウンド内に設けたトレンチである（図1）。現地表（標高29.5m）から90cmまで人力で掘り下げ、団地造成土であるI層が続いていることを確認した。

2 トレンチ

文京町2番地区南東部に設けたトレンチである（図1・30）。文京道跡21次調査（00003調査）の2区にあたる現地表（標高30.75m）から45cmまで人力で掘り下げ、造成土であるI層が続いていることを確認した。

3. まとめ

今回の調査では、道後橋又道跡が展開する道後橋又地区（1 トレンチ）、文京道跡が展開する文京町2番地区（2 トレンチ）において調査を実施することとなった。1 トレンチ周辺では、北東部で00904調査において



写真163 02102 調査1 トレンチ掘削状況



写真164 02102 調査1 トレンチ遠景（北から）



写真165 02102 調査2 トレンチ掘削状況



写真166 02102 調査2 トレンチ遠景（南西から）

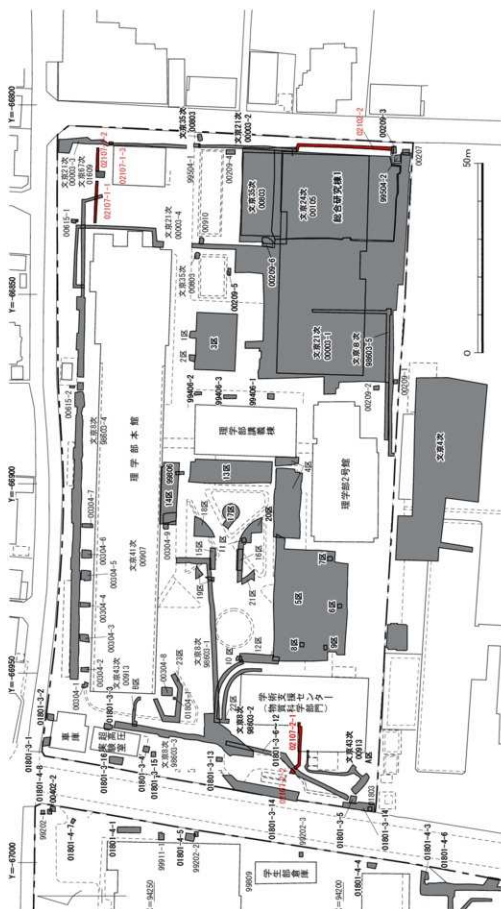


図30 城北団地 (02102調査) 02102調査、02107調査地点位置 (縮尺 1/1,000)

現地地表下90cm以下で、近代以前の自然流路や水田層が確認されている。一方、南部では99502調査1トレンチでは現地地表下1.85mで縄文時代の遺物包含層であるIV層が確認されていることから、今後も道後種又遺跡の地形環境を詳細に把握していく必要がある。

2トレンチは、すでに発掘調査地点内に含まれてい

(三吉)

02103 (榊味団地) 基幹・環境整備 (排水設備等改修) 工事に伴う発掘調査 (榊味遺跡 19次調査)

調査地点 松山市榊味3丁目5番7の一部

榊味団地内

調査面積 147.2㎡

調査期間 2021年8月23日～2021年12月7日

調査種別 本格調査

調査担当 三吉秀光

依頼文書 施設整備部長発事務連絡

(令和3年6月18日付)

に向けた準備作業を行い、本書にて2022年度に正式報告を行った。

(3) 出土遺構・遺物の記録方法

調査で検出した遺構には1～6の遺構番号を付している。遺構番号に加えてSR:自然流路、SP:柱・穴・穴、SX:風倒木の遺構種別を示す略号を遺構番号に冠している。本調査で出土した遺構はSP-1～3、SR-6、SX-4・5である。

出土した遺物には、R-1～の遺物登録番号を与え、同じ登録番号をもつ複数の遺物で実測および写真撮影した遺物には、新たな遺物登録番号を付与した。遺物登録番号、遺構、出土区・層位を整理した遺物台帳を作成し、遺物には、調査略号 (TRM19) と遺物登録番号を注記した。

発掘調査時の記録には、遺構・土層の観察所見記録・実測図・写真がある。調査では、榊味団地構内に設置している日本測地系平面直角座標IV系の3級基準点データに基づいて測量を行っている。調査および整理の際には、デジタルカメラによる写真撮影を行っており、遺構・土層の観察所見記録・実測図とともに愛媛大学埋蔵文化財調査室に保管している。

2. 調査の記録

1 トレンチ～4 トレンチ

環境産業研究施設 (三浦記念館) の南東部および東側に当たる。管路部分と橋部分からなり、幅40～50cmで、1トレンチでは東西方向に、2～4トレンチでは南北方向にのびる。のべ61.5mである。1トレンチ～4トレンチにおいて調査を行った。まず重機を用いてI層、II層を現地地表下30～50cmまで掘り下げIV層を検出した。IV層上面では、天地返しに伴う掘り込みが小溝状に検出された。

この後、人力による掘り下げ作業に切り替え、調査

1. 序説

(1) 調査に至る経緯と調査の概要

2021年6月、施設整備部から榊味団地内の排水設備等の工事計画が示された。埋蔵文化財調査室と施設整備部との間で埋蔵文化財への影響が及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和3年6月28日付けで愛媛県教育委員会に提出した。これに対して令和3年7月13日付けで愛媛県教育委員会より、「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会を受ける必要のある範囲」「慎重に工事を実施する必要がある範囲」の指示があった。

そこで令和3年8月4日付けで発掘調査届出書を提出し、令和3年8月17日付けで愛媛県教育委員会より受理したとの通知があった。

これらの指示と学内における環境整備を行った上で、8月下旬より南部の1トレンチ、2トレンチ、3トレンチの順で調査を行った。12月7日に12トレンチの調査を終了し、榊味遺跡 19次調査を終えた。

(2) 整理の経過

調査では縄文時代～古墳時代の遺物がコンテナ (60cm×44cm×15cm) 1箱分出土している。

整理作業は、調査が終了した2021年12月から出土遺物の洗浄・分類・注記・復元作業、遺構実測図の整理、遺物実測作業、遺物写真撮影の順に報告書刊行に

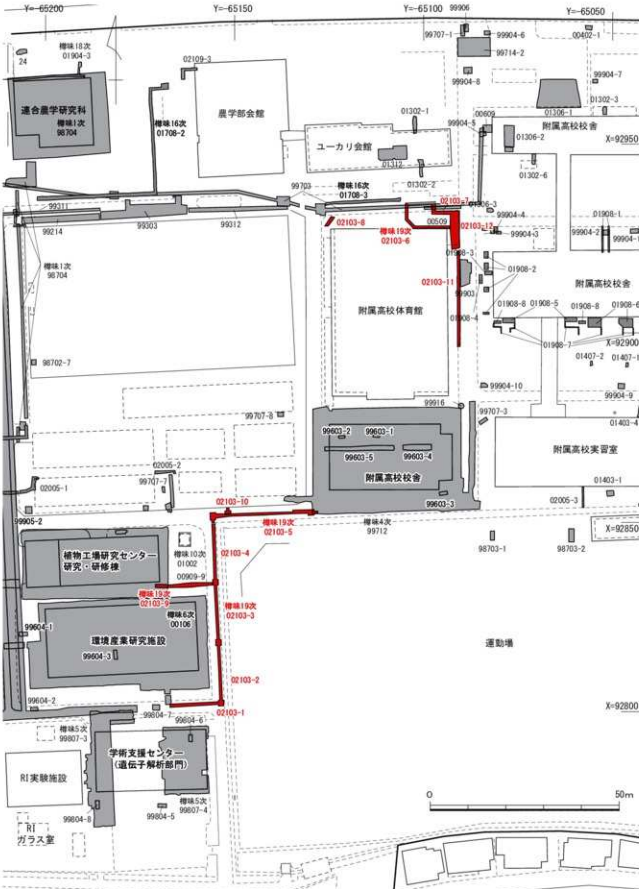


図 31 樽味 19 次 (02103 調査) 調査地点配置図 (縮尺 1/1,000)

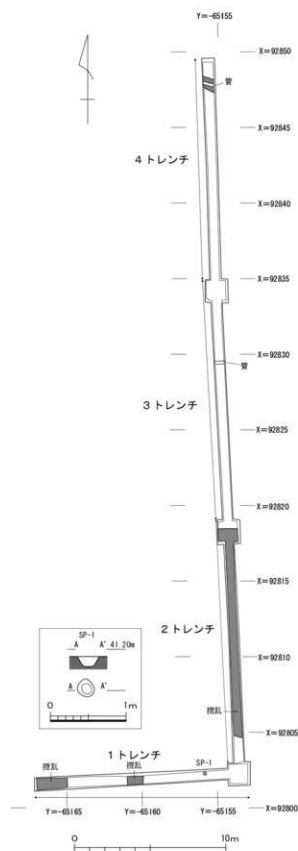


図32 榑味19次（02103調査）1～4トレンチ配置図（縮尺1/250）・遺構断面図（縮尺1/50）

を進めた。IV層上面まで掘り下げると同時に、精査を行い、1区東部のIV層上面でSP-1を検出した。SP-1は直径25cmの円形の掘り形をもち、深さは14cmである。埋土は黒褐色シルトである。北西部に隣接する環境産業研究施設（三浦記念館）新営工事に伴う発掘調査（榑味遺跡6次調査）では、10世紀～11世紀前半の掘立柱建物が出土している。SP-1からは須恵器杯の口縁部片1点（図37-1）、土師器片3点が出土している。土師器は杯・皿の底部を図化している（図37-2）。その他に、古代～中世の坏部片や煮沸具の胴部片がみられる。調査区が狭いため周辺の状況が分からないが、掘立柱建物を構成している柱穴の可能性も考えられる。1トレンチ～4トレンチのI・II層から古代～近代にかけての須恵器・土師器片、陶磁器片や瓦片が出土した。

5 トレンチ

4次調査地点である附属高校4棟の南西部に位置する。東西約28.5m、幅0.7mの範囲が立会調査区である。その東西両端が調査を必要とする1.5～2m×2mの発掘調査である。東端部は榑味遺跡4次調査地点に接する。西端部周辺では、現地地表下40cmで基本層序II層、65cmでIV層を検出した。その他の地点では現地地表下50～85cm、I層直下でIV層が出土した。西端部周辺を除く地点では現地地表下40～50cm前後のI層中で人頭大の円礫・角礫が東西に石列となって出土した。調査区南部に調査区に平行して農業用水路が通っており、それらに伴ったものである可能性が考えられる。IV層上面で精査を行ったが、遺構等は確認できなかった。周辺の状況からIV層検出面のレベルが低いことから、大幅な削平が行われていると考えられる。I層中から近現代の陶磁器に混じて古代～中世の須恵器・土師器片などが10点弱出土しており、その内、古代～中世に位置付けられる土師器杯の口縁部片2点を図化している（図37-3・4）。遺構は確認されていないが、同時期の遺構が周辺に展開していたと推定される。

6 トレンチ

附属高校体育館北側に設けたトレンチである。17.1m×0.9mの調査区で、15.8mを測る。東端部および北西部は擾乱を受けていた。北西部は南北幅わずか45cm幅で残されていた。

北西部にあたる土層1地点では、現地地表下25cmまでI層が、その下位に現地地表下60cmまでII層が続き、径1cmの円礫が混じる灰白色砂礫粗砂層に至る。

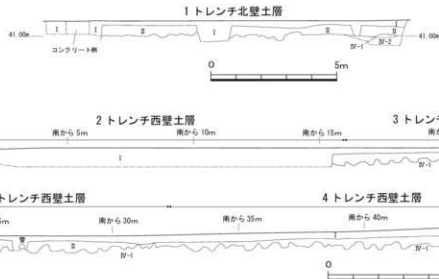


図 33 樺味 19 次 (02103 調査) 1～4 トレンチ土層断面図 (縮尺 1/150)

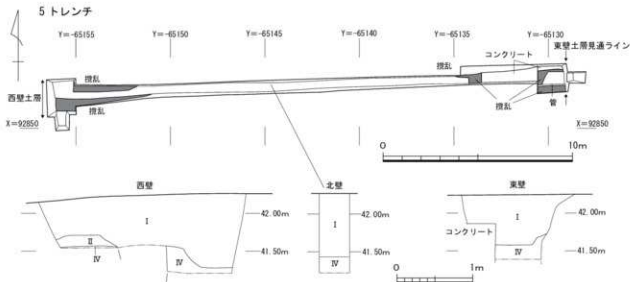


図 34 樽味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ配置図 (縮尺 1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)

トレンチ全体がSR-6の一部と考えられる。

東西方向に伸びる調査区の西端部、土層 2 地点では、道路面から 30cm まで 1 層が続き、その直下で橙色の灰褐色の塊が混じり灰黄褐色シントからなる 8 層層が出土した。II 層下部から土師器片 3 点が出土した。そのうちの 1 点は、中世の土製羽織の舞踏片である（図 37-5）。さらに道路面下 53cm で 5cm の円礫が混じり灰褐色粗砂層を検出した。12 トレンチで検出した SR-6 の一部と考えられる。道路面下 60cm まで掘り進めた調査を終了した。東西方向に伸びる調査区の東側は 1・II 層までにとどまっていることを確認した。

7 トレンチ

体育館北東部、スロープの南側に設けたトレンチである。長さ5.2m、幅0.9mの調査区である。西部は現地表下40cmまでI層が続いていることを確認した。東側では現地表下83cmでSR-6を検出した。SR-6は厚層26cmの堆積で、埋土は灰色砂粒で中砂～細砂である。現地表下1.08cmでSR-6の底面と考えられるIV層を検出した。

8 トレンチ

ユーカリ会館南西部に設けた長さ2.6 m、幅1 mの調査区であり、現地表下約80 cmまで掘り下げ、造成土であるI層が続いていることを確認した。

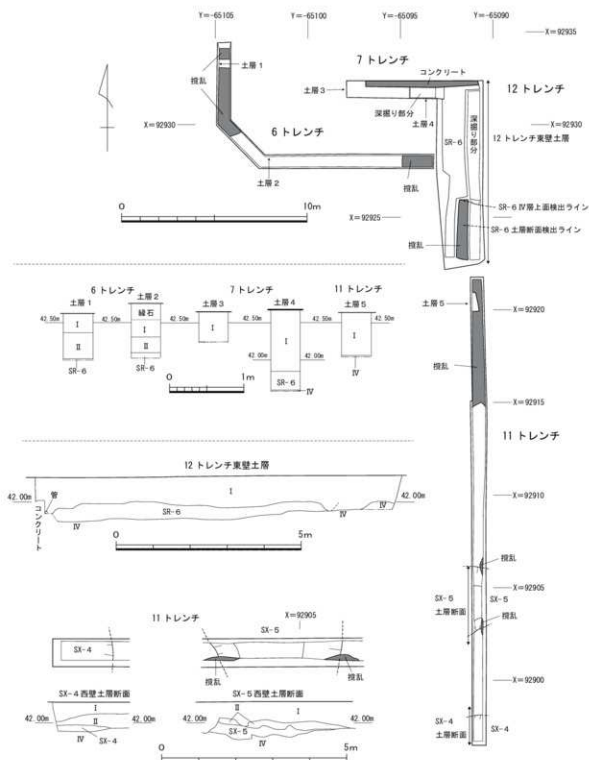


図 35 樽味 19 次 (02103 調査) 6・7・11・12 トレンチ配置図 (縮尺 1/200)・土層断面図 (縮尺 1/100・1/50)

9 トレンチ

植物工場研究センターの東側に設けたトレンチである。東西 15.2 m、幅 0.7 ～ 1.1 m の調査区である。

西端から 4 m までは樽味遺跡 10 次調査内に含まれ、中央部は東西幅 2 ～ 2.7 m の掘乱を受ける。掘乱の西側では現地表下 30 ～ 40 cm で II 層が出土し、50 cm はど

堆積し、直下で IV 層が出土した。IV 層上面で精査を行ったが遺構は確認できなかった。掘乱の東側では、II 層の堆積が薄く、現地表下 70 cm で IV 層を検出した。東側でも東半分では IV 層を掘り込むように II 層と III 層を確認できた。II 層は近現代の畝に伴う畝間あるいは天

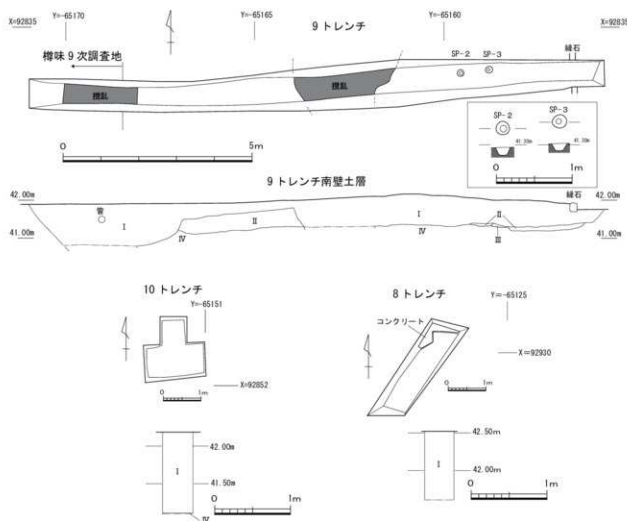


図36 樽味19次（02103調査）8～10トレンチ配置図（縮尺1/100・1/50）・土層断面図（縮尺1/50）

地返し痕と考えられる。Ⅲ層は東西幅30cmほどの堆積である。周辺を精査したが遺構とは判断できなかった。東部のⅣ層上面でSP-2とSP-3を検出した。遺物は出土しなかった。SP-2とSP-3は直径約20cmの円形の掘り形をもち、深さは約20cmを測る。埋土は暗黒色シルトである。SP-2とSP-3との間は75cmである。掘立柱建物構成する柱穴の可能性が高い。

10 トレンチ

5 トレンチ西端部の北に設けたトレンチである。東西1.6m、南北1.7mの凸状を呈する。現地表下106cmまで基本層序Ⅰ層が続く、直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層上面で精査を行ったが遺構等は確認できなかった。

11 トレンチ

附属高校体育館東部に設けた南北25.2m、幅0.8mの調査区で、慎重工事の指示範囲である。トレンチ北端部から南へ7mまでの範囲では大きく攪乱を受けていた。北端部近くで現地表下58cm、Ⅰ層直下でⅣ層

を検出した。トレンチ中央部と南端部付近において、Ⅳ層上面でSX-4とSX-5の2基を検出した。

SX-4はトレンチ南端、現地表下60cmで検出した。南北長1.5mを測り、北端部は確認できたが、南端部は調査区外へと続いており確認できなかった。検出面からの深さは18cmを測る。埋土は灰褐色シルトで明黄褐色の丸あるいはレンズ状のブロックを少量混じる。遺物は出土しなかった。現状では遺構の性格は不明だが、SX-5のような風倒木の可能性を考えておきたい。

SX-5は、トレンチ中央よりやや南側、現地表下50～75cm、Ⅱ層直下で検出した。南北長3.4mを測る。検出した当初平面プランから竪穴建物の可能性を考えたが、精査した結果、底面には凹凸があり、オーバーハングする場所などもみられることから、竪穴建物の可能性は低いと判断した。埋土は最深部で40cmを測り、灰褐色シルトを主体とし、明黄褐色シルトのレンズ状ブロックが混じる。これらの特徴は、周辺の調査

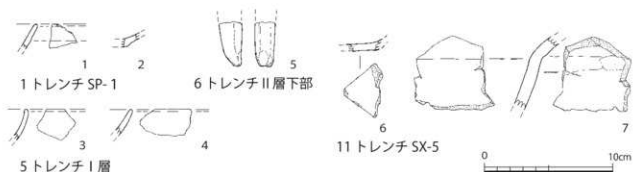


図37 榑味19次 (02103調査)出土遺物(縮尺1/3)



写真167 榑味19次 (02103調査) 1トレンチ調査区全景
(西から)



写真168 榑味19次 (02103調査) 1トレンチ調査区全景
(東から)



写真169 榑味19次 (02103調査) 1トレンチ調査区全景
(南西から)



写真170 榑味19次 (02103調査) 1トレンチ東端部
(西から)



写真171 横穴19次 (02103調査) SP-1土層断面
(東から)



写真172 横穴19次 (02103調査) SP-1完掘状況
(東から)



写真173 横穴19次 (02103調査) 2トレンチ全景
(北から)



写真174 横穴19次 (02103調査) 2・3トレンチ全景
(北から)



写真175 横穴19次 (02103調査) 2トレンチ南端部全景
(東から)



写真176 横穴19次 (02103調査) 2トレンチ西壁土層
(北東から)



写真 177 榑味 19 次 (02103 調査) 3 トレンチ
西壁土層 (南東から)



写真 178 榑味 19 次 (02103 調査) 4 トレンチ全景
(南から)



写真 179 榑味 19 次 (02103 調査) 4 トレンチ
西壁土層 (南東から)



写真 180 榑味 19 次 (02103 調査) 4 トレンチ
北端部全景 (南から)



写真 181 榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ
西端部全景 (北から)



写真 182 榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ
西端部全景 (東から)



写真 183 榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ全景
(東から)



写真 184 榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ
東端部全景 (南から)



写真 185 榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ全景 (南西から)



写真 186 榑味 19 次 (02103 調査) 5 トレンチ全景 (南東から)



写真 187 榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ
東部全景 (西から)



写真 188 榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ
東部 (北西から)



写真 189 榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ
中央部全景 (北西から)



写真 190 榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ
北西部全景 (南から)



写真 191 榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ
北西部全景 (東から)



写真 192 榑味 19 次 (02103 調査) 6 トレンチ
中央部土層断面 (南から)

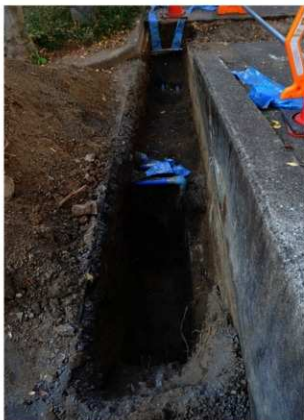


写真193 榑味19次 (02103調査) 7トレンチ全景
(東から)



写真194 榑味19次 (02103調査) 8トレンチ全景
(南から)



写真195 榑味19次 (02103調査) 7トレンチ
南壁土層断面 (北から)



写真196 榑味19次 (02103調査) 8トレンチ
西壁土層断面 (東から)



写真197 榑味19次 (02103調査) 9トレンチ全景
(東から)



写真 198 樽味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ 全景
(西から)



写真 199 樽味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ
SP-2・SP-3 検出状況 (北から)



写真 200 樽味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ
SP-2・SP-3 完掘状況 (北から)



写真 201 樽味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ
SP-3 土層断面 (南から)



写真 202 樽味 19 次 (02103 調査) 9 トレンチ
SP-2 土層断面 (南から)



写真 203 樽味 19 次 (02103 調査) 10 トレンチ 全景
(南から)



写真 204 樽味 19 次 (02103 調査) 10 トレンチ 全景
(東から)

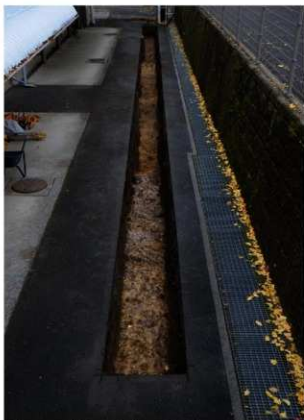


写真 205 榑味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ全景
(南から)

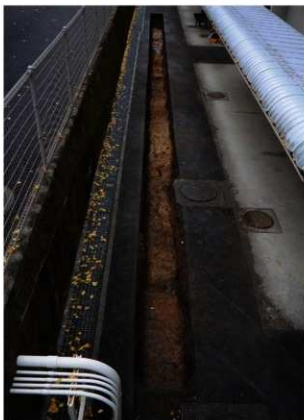


写真 206 榑味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ全景
(北から)



写真 207 榑味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ
SX-5 検出状況 (北から)



写真 208 榑味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ
SX-5 完掘状況 (北から)



写真 209 樽味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ
SX-5 土層断面 (南東から)



写真 210 樽味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ
SX-5 土層断面 (東から)



写真 211 樽味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ
SX-5 土層断面 (北東から)



写真 212 樽味 19 次 (02103 調査) 11 トレンチ
SX-4 完掘状況 (東から)



写真 213 樽味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ全景
(北から)



写真 214 樽味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ全景
(南から)

表 12 榑味 19 次 (02103 調査) 出土遺物観察表

図	遺物名	調査区	出土遺物 層位	種類	形状	遺物の形状	遺物の数量	図録 番号	図 117 番号	実測 長さ
図 37-1	1 トレンチ	SR-1	掘削部	杯	外・内面ともにほぼ直線的な調整。	外・内面ともにほぼ白色。	3-14	1	25-1	1
図 37-2	1 トレンチ	SR-1	土師部	杯	外・内面ともにほぼ直線的な調整。	外・内面ともにほぼ白色。	3-13	1	25-1	1
図 37-3	5 トレンチ	1 層	土師部	杯	外縁は磨滅する。内面はほぼ直線的な調整。	灰白色。	3-11	1	25-5	1
図 37-4	5 トレンチ	1 層	土師部	杯	外・内面ともに磨滅する。	浅黄褐色。	3-12	1	25-5	1
図 37-5	6 トレンチ	土師部	土師部	三足杯	外・内面ともにほぼ直線的な調整。	外・内面ともにほぼ黄褐色。	3-16	1	25-6	1
図 37-6	11 トレンチ	SR-5	土師部	杯	外・内面ともにほぼ直線的な調整。	外・内面ともにほぼ黄褐色。	3-17	1	25-6	1
図 37-7	11 トレンチ	SR-5	土師部	杯	外・内面ともにほぼ直線的な調整。	外・内面ともにほぼ黄褐色。	3-18	1	25-6	1

で確認されている風筒木と推定される遺構と共通していることからその可能性を考えておく。検出時に上面で土師器片 3 点が出土しており、その内 2 点を図化している。図 37-6 は土師器杯の底部片である。全体に磨滅している。図 37-7 は土師器の土銅片である。口縁部が「く」字形に屈曲し、口縁部と胴部との境界には稜がみられる。14 世紀前後に位置付けられる。

12 トレンチ

附属高校体育館北東部に設けたトレンチである。南北約 10 m、東西 2.5 ～ 2.1 m の調査区であり、慎重工事の指示範囲である。現地表下 65 ～ 70 cm まで I 層が続き、直下で自然流路 SR-6 を検出した。調査区南端部から北へ 3 m の地点で東西方向にのびる SR-6 の南端部を検出した。調査区東壁に沿って幅 100 cm で深掘りを行い、検出面から約 50 cm の深さで流路の底面にあたる IV 層を検出した。遺物は出土しなかった。埋土は灰色粗砂混じりの細砂で、ラミナがみられる。調査区東壁土層で精査した結果、SR-6 の埋土は調査区南端部から約 2 m の地点まで確認できるが、南側は攪乱を受けており、南部のあたりがりは確定できなかった。6 トレンチや 7 トレンチでも SR-6 と同一と考えられる流路を確認できており、北西方向に続いていたと推定される。

3. まとめ

本調査では、榑味団地の南東部一帯に調査区を設けたことから、榑味遺跡南東部における遺跡の広がりを明らかにすることができた。1 トレンチで小穴 1 基、9 トレンチでは小穴 2 基、11 トレンチで風筒痕 2 基、6・7・12 トレンチでは自然流路 1 条を確認することができた。以下、周辺における調査状況の中で、本調査成果を位置付けることによってまとめたい。

1 トレンチや 9 トレンチは、10 世紀～11 世紀前半の掘立柱建物が出土した榑味遺跡 6 次調査地点に隣接

しており、周辺にも集落が広がっていることを確認することができた。時期を示す明確な資料が少ないことから、現状では 10 世紀～11 世紀前半前後の集落の一部にあたるかと推定される。

榑味遺跡南東部に位置する 4 次調査地点では自然流路 SR-1 が出土している。8 世紀前半の遺物を含んでおり、11・12 世紀段階までに埋没したと考えられてきた。この SR-1 は南北方向へと流れていることが想定されていたが、榑味遺跡内ではその延長が確認されていなかった。今回 12 トレンチで検出した SR-6 が北側の延長である可能性が高い。流路は西側では確認できないことから、現在、附属高校を南北に走る道路部分の下に流路が展開していると推定される。

近現代になると II 層、畝状の痕、天地返しの特徴を確認できることから畝として利用されていたことがうかがえる。これらの埋土中には土師器・須恵器の破片がみられることから、古代・中世以降の開墾によってこれらの遺構が削平された可能性が考えられる。これらの削平が比較的少なかった 1 トレンチや 9 トレンチでは集落を構成する建物の一部が残されていることを確認できた。

以上のように、榑味遺跡における各時代の様相は具体的になりつつある。今後はこれらの成果を踏まえて、隣接する榑味高木遺跡、榑味四反地遺跡などの榑味遺跡群全体の中での解明が必要となてよう。(三吉)





写真 216 樽味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ北半部全景 (南西から)



写真 217 樽味 19 次 (02103 調査) 12 トレンチ南東部全景 (南西から)

02104 (榑埴団地) 基幹・環境整備 (さく井設備) 工事に伴う立会調査

調査地点 松山市榑埴3丁目5番7の一部

榑埴団地内

調査面積 1㎡

調査期間 2021年9月30日

調査種別 立会調査

調査担当 三吉秀充

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡

(令和3年8月19日付)

3. まとめ

今回の調査では、遺構や弥生時代から中世の遺物を包含する基本層序Ⅲ層は確認されなかったものの遺構の検出面となるⅣ層を確認できた。調査地点の西側に当たる01306調査(榑埴遺跡13次調査)1区では、14～15世紀段階の掘立柱建物が2棟検出されている。調査地点周辺はこれらの集落の一部である可能性が高く、今後も開発行為の際には発掘調査・立会調査が必要である。

(三吉)

1. 調査に至る経緯

2021年8月、施設基盤部から榑埴団地附属高校構内にさく井設備工事計画が示された。周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和3年8月30日付けで愛媛県教育委員会に提出した。これに対して令和3年9月9日付けで愛媛県教育委員会より、「愛媛大学埋蔵文化財調査室の埋蔵文化財専門職員による工事立会を受けること」との指示があった。

2. 調査の記録

工事予定地は附属高校構内北東部、既設井戸の南側にあたる。重機を用いて表土層を掘り下げたところ、既設の井戸に伴う基礎の一部が確認された。さく井が可能な地点を確認した上で、表土層であるⅠ層まで重機を用いて掘り下げ、現地表下48cmでⅡ層を確認した。Ⅱ層以下は、人力で掘り下げを行い、現地表下80cmでⅣ層、Ⅳ層の一部を現地表下96cmまで掘り下げ、埋蔵文化財への影響がないことを確認した上で、調査を終了した。



写真 218 02104 調査 調査区全景 (北から)



写真 219 02104 調査 南壁土層 (北から)

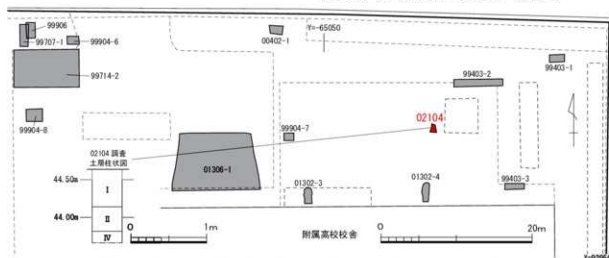


図 38 榑埴団地 (02104 調査) 調査地点位置図 (縮尺 1/500) と土層柱状図 (縮尺 1/50)

02105（城北団地）レジオナルコモンズ（仮称）新営その他工事

（文京遺跡 74 次調査）

調査地点 松山市文京町 3 番
城北団地内
調査面積 30.8㎡
調査期間 2021 年 10 月 11 日～2021 年 10 月 15 日
調査種別 本格調査
調査担当 三吉秀亮
依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
（令和 3 年 6 月 22 日付）

10 月 14 日（木）
6 トレンチではⅢ層・Ⅳ層を検出。7 トレンチではⅠ層が続いていることを確認。8 トレンチではⅡ層、Ⅳ層が残存していることを確認して、写真撮影、測量。
10 月 15 日（金）
6～8 トレンチの土層確認。調査終了。

（2）整理の経過

調査では縄文時代～中世の遺物がコンテナ（60cm×44cm×15cm）1 箱分出土している。整理作業は、調査が終了した 2021 年 10 月から出土遺物の洗浄・分類・注記・復元作業、遺構実測図の整理、遺物実測作業、遺物写真撮影の順に報告書刊行に向けた準備作業を行い、本書にて 2022 年度に正式報告を行った。

（3）出土遺構・遺物の記録方法

調査で検出した遺構には 1 から遺構番号を付している。本調査では、1 トレンチで検出した自然流路 1 条のみであり、自然流路を示す略号 SR を遺構番号 1 に冠して、SR-1 としている。

出土した遺物には、R-1 ～の遺物登録番号を与え、同じ登録番号をもつ複数の遺物で実測および写真撮影した遺物には、新たな遺物登録番号を付与した。遺物登録番号、遺構、出土区・層位を整理した遺物台帳を作成し、遺物には、調査略号（BNK74）と遺物登録番号を注記した。

発掘調査時の記録には、遺構・土層の観察所見記録・実測図・写真がある。調査および整理の際には、デジタルカメラによる写真撮影を行っており、遺構・土層の観察所見記録・実測図とともに愛媛大学埋蔵文化財調査室に保管している。

3. 出土した遺構と遺物の記録

調査では（仮称）レジオナルコモンズ建物建設予定地を中心として、西に 1 トレンチ、北に 2～5 トレンチ、南に 6～8 トレンチを設定した。レジオナルコモンズ建物東側については発掘調査の指示であったが、2021 年 7 月に実施した文京遺跡 74 次調査において、既設配管を撤去する際、団地造成土であるⅠ層内におさまっていることを確認した。

1. 調査に至る経緯

2021 年 6 月、施設基盤部からレジオナルコモンズ（仮称）建物新営工事に伴う外構工事計画が示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和 3 年 7 月 5 日付けで愛媛県教育委員会に提出し、令和 3 年 7 月 16 日付けで愛媛県教育委員会より、工事着手前の発掘調査及び愛媛大学埋蔵文化財調査室の埋蔵文化財専門職員による工事立会を行うこと、との指示があった。令和 3 年 8 月 3 日付けで埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、8 月 17 日付けで愛媛県教育委員会より受理したとの通知があった。

2. 調査と整理の経過

（1）調査の経過

2021 年 10 月 11 日（月）

1 トレンチの調査開始。北を 1-1 トレンチ、南を 1-2 トレンチとする。重機を用いて表土層を掘り下げ、砂層を検出する。雨天の間を縫いながら調査を進める。
10 月 12 日（火）

1 トレンチ完掘。写真撮影・測量。2 トレンチの調査開始。既設配管、橋設置部分の合間ではⅢ層およびⅣ層の一部が残されていることを確認。手掘りで調査、写真撮影・測量。3 トレンチ、4 トレンチの調査開始。
10 月 13 日（水）

3 トレンチでは一部壁際を深掘りしてⅢ層を確認した。4 トレンチはⅠ層内におさまっていることを確認した後、写真撮影、測量。5 トレンチでは、Ⅲ層を検出し、Ⅳ層まで掘り下げを写真撮影、測量を行った。6～8 トレンチで重機による掘り下げ開始。

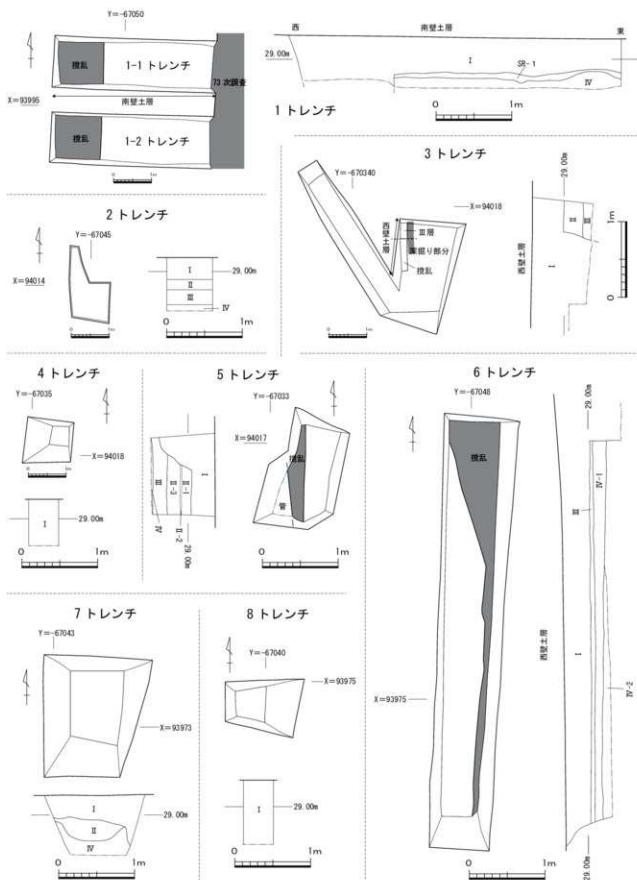


図39 文京74次(02105調査)1～8トレンチ平面図(縮尺1/100・1/50)・土層断面図(縮尺1/50)

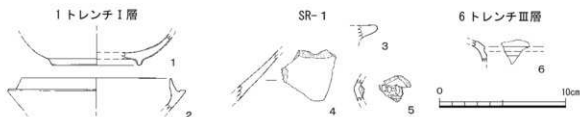


図40 文京74次(02105調査)出土遺物(縮尺1/3)

1 トレンチ

西側に位置する調査区である。南北に約60cmの間隔を置いて東西4.3m、幅1.3mの2つの調査区からなり、北を1-1 トレンチ、南を1-2 トレンチとして調査を行った。

1-1 トレンチと1-2 トレンチともに西側1.35mまでは既設の管路設置に伴う工事によってすでに破壊を受けていた。そこで既設掘削範囲の東に関して調査を行った。重機を用いて掘り下げ、現地表下40～45cmまで造成土であるI層が続くことを確認した。I層中から近代の陶磁器碗の破片(図40-1)や古墳時代後期の須恵器杯身片(図40-2)などが出土した。

I層直下で径5mmの砂礫が混じる灰色粗砂からなる褐色シルトを検出した。弥生時代から古墳時代の遺物を含んでおり、自然流路SR-1の一部であると判断し、そこから人力での掘り下げに切り替え、現地表下43～60cmでIV層を検出した。IV層上面は凹凸がみられ、上部層は自然流路の底面にあたると考えられる。IV層は明黄褐色砂質シルトで、径2mm未満の砂礫が多く混じる。IV層は現地表下70cmまで掘り下げ調査を終了した。

1-1 トレンチSR-1から弥生土器6点が出土した。その内、弥生時代中期の甕の口縁部片(図40-3)と弥生土器の甕胴部下半部片を図化した(図40-4)。1-2 トレンチSR-1埋土から弥生土器中期から後期の甕の屈曲部片(図40-5)が出土した。屈曲部の付け根には刻み目が施された突帯が巡る。1-1 トレンチと1-2 トレンチのIV層中から縄文土器片が各2点、あわせて4点出土した。いずれも胴部小片で調整などは不明である。以上の出土遺物から、SR-1は弥生時代後期以降の自然流路である。

2 トレンチ

北西部に位置する調査区である。既設配管、橋設置部分の合同でIII層およびIV層の一部が残されていることを確認したため、手掘りで調査を行った。III層・IV

層から遺物は出土しなかった。現地表下30cmまで表土層であるI層が続き、直下でII層を検出した。II層は10～15cm堆積し、現地表下43cmでIII層が出土した。III層は灰黄褐色シルトで15cm堆積する。現地表下52cmでIV層を検出した。IV層は浅黄色細砂で、現地表下70cmまで掘り下げ、遺物が出土しないことを確認して調査を終了した。

3 トレンチ

北側中央部に位置する「V」の字状の調査区で、電気工事部分である。調査区全体を現地表下40cm掘り下げ、造成土であるI層が続いていることを確認した。工事に伴って必要な掘削深度を満たしている。調査区内の埋蔵文化財の残存状況を確認するため、調査区北側の一部を壁際に沿って深掘りした。現地表下43cmでII層、68cmでIII層を検出した。調査区北東部付近では南へ50cmまでの範囲で一部III層が残されていることを確認した。III層中から土師器の小片が5点出土したが、図化できるものはなかった。今回の工事では、これ以上掘り下げることないことから以下については、現状保存することとした。

4 トレンチ

調査地点は北部、5 トレンチの西側に位置する。文京道70次(01801)調査1-9 トレンチ内と重複する。重機を用いて現地表下60cmまで掘り下げ、造成土であるI層が続いていることを確認した。遺物は出土しなかった。

5 トレンチ

調査地点は北東部に位置する。文京道70次(01801)調査1-2 トレンチ内と重複する。70次調査1-2 トレンチでは、現地表下40cmまで掘り下げ、基本層序I層を確認し、それ以下については現状保存していた。今回の調査では、重機を用いて現地表下30cmまで掘り下げII層を検出した。II層以下については人力で掘り下げを行った。近世の水田層であるII層は、II層-1～II-3層に分類ができる。II-1層はオリ-

ブ灰色シルトで、径1mmの砂粒が混じる。Ⅱ-2層はⅡ-1層の床土層にあたり、土質は同じであるが、鉄分の沈着により橙色を呈する。Ⅱ-3層は浅黄褐色～オリブ灰色シルトで径1mmの砂粒が混じる。Ⅱ層直下、現地表下63cmでⅢ層が出土した。Ⅲ層は灰黄褐色シルトで、径1mmの砂粒が少量混じる。現地表下83cmでⅣ層、浅黄褐色細砂質土が出土した。現地表下85cmまで掘り下げ調査を終了した。遺物は出土しなかった。

6 トレンチ

調査地点は南西部に位置する。南北5.7m、幅0.85mのトレンチである。現地表下35cmまで重機を用いて掘り下げ、造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。その直下でⅢ層が出土したことから人力で掘り下げを行った。Ⅲ層は約5cmの堆積で、灰黄褐色シルトである。現地表下40cmでⅣ層が出土した。Ⅳ層は明黄褐色砂質土で、径3～4mmの砂礫が混じるⅣ-1層と暗灰色砂礫で径1cm未満の砂礫からなるⅣ-2層を確認している。現地表下60cmまでⅣ層が続いていることを確認して調査を終了した。Ⅲ層から弥生土器壺胴部片1点、弥生土器・土師器小片2点、須恵器坏蓋1点出土した。須恵器坏蓋は、天井部と口縁部との境には凹線が1条巡る（図40-6）。

7 トレンチ

調査地点は南東部に位置する1.6×1.5～1mの調査区である。重機を用いて現地表下30cmまで掘り下げ、Ⅱ層を検出した。ここから人力に切り替えて掘り

1 トレンチⅠ層



図40-1



図40-2

6 トレンチⅢ層



図40-6

写真220 文京74次 (02105 調査) 出土遺物



写真222 文京74次 (02105 調査) 1 トレンチ 表土層除去状況 (北東から)

進め、現地表下35～60cmで灰色砂礫層を検出した。進め3cmの円礫混じりの粗砂層である。隣接する文京遺跡73次調査ではⅣ層中で同様の粗砂層を検出しており、一連のものと考えられる。現地表下78cmまで掘り下げて灰色砂礫層が続いていることを確認した。遺物は出土しなかった。

8 トレンチ

調査地点は南側中央部に位置する1～1.55×1.85～2mの調査区である。文京遺跡70次 (01801) 調査1-7 トレンチと東側半分が重複する。重機を用いて現地表下85cmまで掘り下げ、造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。遺物は出土しなかった。

4. まとめ

調査では、弥生時代後期に位置付けられる自然流路SR-1や基本層序Ⅲ層中から弥生時代から古墳時代遺物が少量出土した。2021年7月に行ったレジオナルコモンズ本体建物部分を対象とした文京遺跡73次調査の北側、西側、南側での調査となる。73次調査の調査や外山秀一氏による地形復元によって、73次調査区周辺は、縄文時代以来、東西方向にのびる谷部を形成していたことが明らかになっている。1 トレンチ



写真221 文京74次 (02105 調査) 1 トレンチ 表土層除去状況 (南東から)



写真223 文京74次 (02105 調査) 1 トレンチ 完掘状況 (北から)



写真 224 文京 74 次 (02105 調査) 1 トレンチ完掘状況
(東から)



写真 225 文京 74 次 (02105 調査) 1-1 トレンチ完掘状況
(北から)



写真 226 文京 74 次 (02105 調査) 2 トレンチ全景
(南西から)



写真 227 文京 74 次 (02105 調査) 2 トレンチ土層
(西から)



写真 228 文京 74 次 (02105 調査) 3 トレンチ土層
(東から)



写真 229 文京 74 次 (02105 調査) 3 トレンチ全景
(東から)



写真 230 文京 74 次 (02105 調査) 3 トレンチ全景
(南から)



写真 231 文京 74 次 (02105 調査) 4 トレンチ北壁土層
(南から)



写真 232 文京 74 次 (02105 調査) 4 トレンチ完掘状況
(南から)



写真 233 文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ
Ⅲ層検出状況 (南から)



写真 234 文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ全景
(南西から)



写真 235 文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ完掘状況
(南から)



写真 236 文京 74 次 (02105 調査) 5 トレンチ東壁土層
(西から)



写真 237 文京 74 次 (02105 調査) 6 トレンチ土層
(南東から)



写真 238 文京 74 次 (02105 調査) 6 トレンチ土層
(東から)



写真 239 文京 74 次 (02105 調査) 6 トレンチ完掘状況
(南から)



写真 240 文京 74 次 (02105 調査) 7 トレンチ完掘状況 (南から)



写真 241 文京 74 次 (02105 調査) 7 トレンチ遠景 (南西から)



写真 242 文京 74 次 (02105 調査) 8 トレンチ完掘状況 (東から)

で検出した弥生時代後期以降に位置付けられる自然流路 SR-1 も、谷部が埋没する過程で、一時的に流路として機能していたことを示している。谷部の北に位置する 2・3・5 トレンチと南に位置する 6・7 トレンチは微高地から谷部への落ち際にあたると。調査では明確な遺構は検出されなかったが、微高地上は集落域などが営まれている可能性が高い。これまでの 74 次および調査や小規模調査・立会調査から、遺跡内の微地形が明らかになっており、今後も地形との関わりの中で時代ごとの土地利用の実態を明らかにしていくことが求められる。

(三吉)

表 13 文京 74 次 (02105 調査) 出土遺物観察表

調査区	遺物名	調査区	出土遺物	遺物の観察		遺物登録番号	収蔵 番号	発掘 調査 番号
				種類	形状・特徴等			
調査区 1	1 トレンチ	1 層	磁器	碗	内面は施釉。外面は灰白色の部分の釉を剥がれ、外側は施釉。内面は灰白色の部分の釉を剥がれ、外側は施釉。内面は灰白色の部分の釉を剥がれ、外側は施釉。	3-12	3	3-1
調査区 2	1 トレンチ	1 層	磁器	杯	内・外面ともに施釉。ナメ調整。	3-13	3	3-1
調査区 3	1-1 トレンチ	SR-1	陶土器	甕	ナメ調整。	3-15	3	3-2
調査区 4	1-1 トレンチ	SR-1	陶土器	甕	ナメ調整。	3-16	3	3-2
調査区 5	1-2 トレンチ	SR-1	陶土器	甕	内面はナメ調整。外側は灰白色の部分の釉を剥がれ、外側は施釉。内面は灰白色の部分の釉を剥がれ、外側は施釉。	3-17	3	3-5
調査区 6	6 トレンチ	3 層	磁器	杯	内・外面ともに施釉。ナメ調整。	3-18	3	3-3

02106 (城北団地) 愛媛大学学内 LAN 光ケーブル (Ⅱ期) 設備工事

調査地点 松山市文京町 3 番

城北団地内

調査面積 6㎡

調査期間 2021 年 10 月 18 日

調査種別 立会調査

調査担当 三吉秀光

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡

(令和 3 年 6 月 25 日付)

1. 調査に至る経緯

2021 年 6 月、施設基盤部から愛媛大学学内 LAN 光ケーブル (Ⅱ期) 設備工事に関わる工事計画が示された。工事予定地点は、既設掘削範囲におさまる、埋蔵文化財への影響はないと予想されたが、既設掘削範囲について不明な点もあることから、既設掘削範囲の確認を目的として、工事に際して立会調査を実施することとした。

2. 調査の記録

工事地点は、城北団地構内北東部教育学部3号館の北東部に位置する。重機を用いて南西部で現地地表下85cm、北東部で現地地表下45cmまで掘り下げ、全面に瓦礫を伴った基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した。



写真 243 20106 調査 調査区全景 (南西から)

3. まとめ

今回の調査では、当初の予想通り、既設の掘削範囲に入っていることを確認した。工事地点の東側に当たる 99911 調査 4 トレンチでは、現地地表下 70cm 前後で基本層序Ⅲ層が出土するなど、周辺には埋蔵文化財が残されている。今後も周辺における開発行為の際には発掘調査・立会調査が必要である。(三吉)



写真 244 20106 調査 南端部西壁土層 (東から)

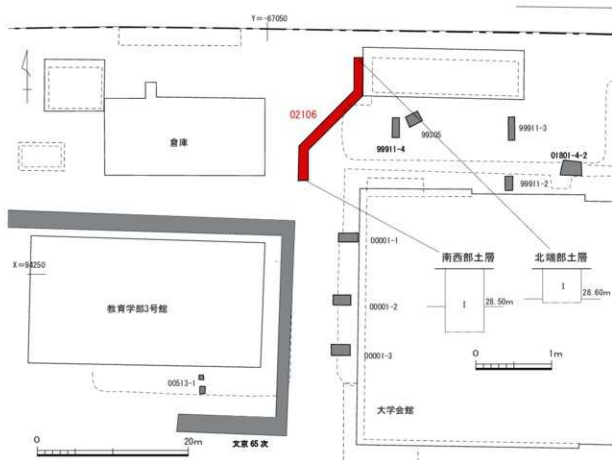


図 41 城北団地 (02106 調査) 調査地点位置 (縮尺 1/500) と土層柱状図 (縮尺 1/50)



写真 245 20106 調査 中央部の状況（南西から）



写真 246 20106 調査 中央部の土層（南東から）



写真 247 20106 調査 北端部の状況（南西から）



写真 248 20106 調査 北端部の土層（南西から）

02107（城北団地）基幹・環境整備（排水設備等改修）工事に伴う立会調査

調査地点 松山市文京町 2 番の一部

城北団地内

調査面積 22㎡

調査期間 2021 年 10 月 22 日～2021 年 11 月 2 日

調査種別 立会調査

調査担当 三吉秀光

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡

（令和 3 年 6 月 18 日付）

らの指示を受け、再度、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で協議を行い、埋蔵文化財へ影響が及び可能性がある工事地点に関して立会調査を実施することとした。文京町 2 番地区北東部における調査を 1 区、南西部における調査を 2 区とし、工事に合わせて 10 月下旬から 11 月上旬に立会調査を実施した。

2. 調査の記録

1 区

調査区は、理学部本館建物の北東部から東に位置し、岩石標本試料室の南を通り、生物資源棟の北から東へと続く。西から 1-1 トレンチ、1-2 トレンチ、1-3 トレンチとした。

1-1 トレンチは東西約 11 m、幅 0.7 m の調査区である。重機を用いて現地表下 35 ～ 40 cm まで掘り下げ、東半部は団地造成土である 1 層が続いていることを確認した。西半部では 1 層を、重機を用いて現地表下 25 cm まで掘り下げ、直下で検出した II 層を人力で掘り

1. 調査に至る経緯

2021 年 6 月、施設基盤部から城北団地文京町 2 番地区内の排水設備改修工事計画が示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和 3 年 7 月 12 日付けで愛媛県教育委員会に提出した。これに対して令和 3 年 7 月 29 日付けで愛媛県教育委員会より、慎重工事に工事を実施することの指示があった。これ

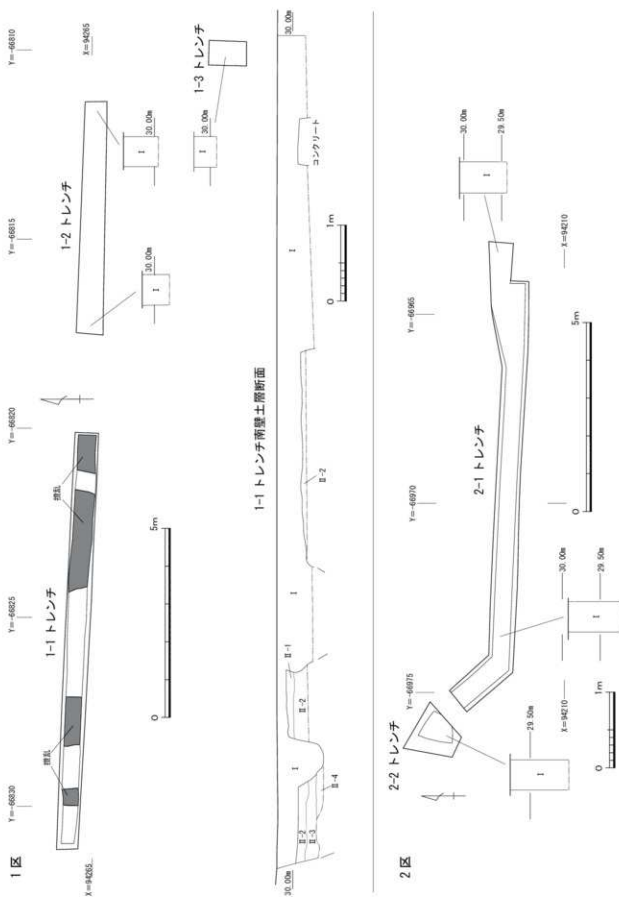


図 42 城北団地 (02107 調査) 調査区平面図 (縮尺 1/100) と土層断面図・土層柱状図 (縮尺 1/50)

下げた。Ⅱ層は、Ⅱ-1層灰オリブシルト、Ⅱ-2層は灰オリブシルトで細砂混じり、Ⅱ-3層は暗灰オリブシルトで下部に橙色の鉄分の沈着層が見られる。Ⅱ-4層は暗灰オリブシルトで灰褐色シルトのブロックや粗砂が混じる。Ⅱ-3・4層から古代～中世の土師器の細片が7点出土している。これらのことから近世前後の水田層の一部と考えられる。

1-2トレンチは東西約62m、幅0.7mの調査区である。重機を用いて現地地表下35～45cmまで掘り下げ、団地造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。

1-3トレンチは南北約1m、幅0.7mの調査区である。重機を用いて現地地表下約30cmまで掘り下げ、団地造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。

2区

調査区は学術支援センター（物質科学部門）の西側に位置する。調査区は東から2-1トレンチ、2-2トレンチとした。

2-1トレンチは東西約125m、幅0.7mの調査区である。重機を用いて現地地表下65～70cmまで掘り下げ、団地造成土であるⅠ層が続いていることを確認した。

2-2トレンチは1.2×1mの台形状を呈する調査区である。現地地表下75cmまで掘り下げ、Ⅰ層が続いていることを確認した。

3. まとめ

今回の調査では、1区で近世以前の水田層を検出した。水田下の状況までは確認できていないが、北東部周辺で実施した00003調査Ⅲ区73区では、現地地表下40cmで近世以前の自然流路SR-603が出土しており、水田域として利用されていたと考えられる。2区では周辺の諸工事による影響を受けており、団地造成土が続いていることを確認した。調査地点南西部の西側で実施した01801調査3-8・9・10トレンチでは現地地表下63～110cmで、縄文時代晩期～弥生時代前期初頭の古土壌であるⅢ層、その下層では縄文時代前期～後期の遺物包含層であるⅣ層が堆積している。特に縄文時代晩期末～弥生時代前期初頭には、集落が広がり、周囲が水田・畠などの農耕地として利用されている可能性が高い。今後とも工事に伴う掘削深度が深い場合は、発掘調査ならびに立会調査が必要である。

(三吉)



写真 249 02107 調査 1-1 区完掘状況 (西から)



写真 250 02107 調査 1-1 区西端南壁土層 (北から)



写真 251 02107 調査 1-1 区全景 (南西から)



写真252 02107調査 1-1区中央部南壁土層 (北から)



写真253 02107調査 1-2区完掘状況 (西から)



写真254 02107調査 1-3区完掘状況 (北から)



写真255 02107調査 2-1区西部完掘状況 (南から)



写真256 02107調査 2-1区東端部完掘状況
(北西から)



写真257 02107調査 2-2区西壁土層 (東から)



写真258 02107調査 2区全景 (西から)

02108（城北団地）共通講義棟 A 等改修機械設備工事に伴う立会調査

調査地点 松山市文京町 3 番の一部

城北団地内

調査面積 20㎡

調査期間 2021 年 11 月 18 日～2021 年 11 月 19 日

調査種別 立会調査

調査担当 三吉秀充

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡

(令和 3 年 6 月 1 日付)

蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和 3 年 6 月 14 日付けで愛媛県教育委員会に提出した。これに対して令和 3 年 6 月 28 日付けで愛媛県教育委員会より、届出範囲の全域について、愛媛大学埋蔵文化財調査室の埋蔵文化財専門職員による工事立会をうけることとの指示があった。この指示を受け、再度、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で協議を行い、新規掘削工事地点に関して立会調査を実施することとした。工事に合わせて 11 月中旬に立会調査を実施した。

1. 調査に至る経緯

2021 年 6 月、施設基盤部から城北団地文京町 3 番地区内の共通講義棟 A 周辺の改修工事計画が示された。

埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋

2. 調査の記録

1 トレンチ

機械設置に伴う基礎工事部分である。南北 6.1 m、東西 2.3～2.5 m の長方形の調査区で、全体を現地地表下から約 30cm 掘り下げ、さらに南北壁ならびに西壁

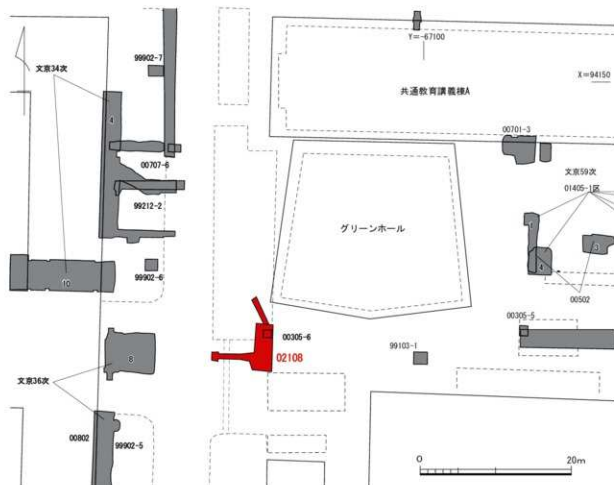


図 43 城北団地（02108 調査）調査地点位置（縮尺 1/500）

沿いに幅 40～70cm で現地表下 54cm まで掘り下げた。いずれも団地造成土である I 層中におさまっていることを確認した。

2 トレンチ

ガス配管設置部分である。東西 5.8 m に幅 0.7～1.1 m の調査区である。西側は既設配管の設置部分にあたる。現地表下 33cm まで I 層が続き、直下で灰色シルトの II 層が出土している。II 層を現地表下 83cm まで掘り下げて、調査を終了した。II 層発掘停止面周辺で古代～中世の土師器坏片が 1 点出土している。

3 トレンチ

配管工事部分である。長軸 3.8 m、幅 0.6～0.8m の調査区で、現地表下約 20cm まで掘り下げを行い、I 層が続いていることを確認した。

3. まとめ

今回の調査では、当初の計画より掘削深度が浅くなり、瓦礫を伴った造成土である I 層ならびに、近世の水田層である II 層までの掘り下げにとどまったため、埋蔵文化財への影響は確認できなかった。しかしながら、調査地点の南側で実施した 00305 調査 6 トレンチでは、現地表下 105cm で中世以前の自然流路が出土している。また西側で実施した 99902 調査 6 トレンチでは、現地表下 65cm で中世以前の自然流路ならびに縄文時代の遺物包含層である基本層序 IV 層が出土している。これらの状況を考えると、掘削深度が深くなる工事を行う際には、今後も引き続き発掘調査や工事立会などの対応が必要となってくる。(三吉)

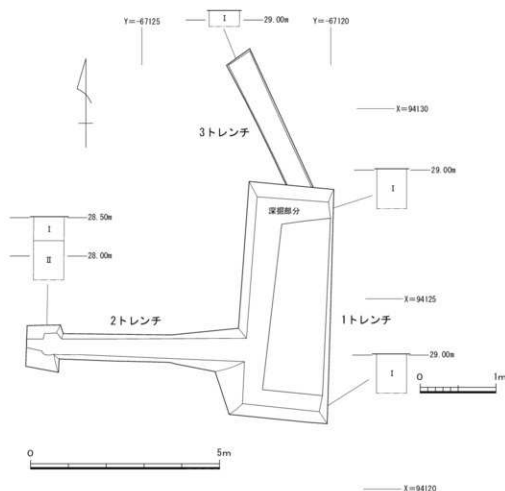


図 44 城北団地 (02108 調査) 1～3 トレンチ平面図 (縮尺 1/100) と土層柱状図 (縮尺 1/50)



写真 259 02108 調査 1 トレンチ全景 (南から)



写真 260 02108 調査 1 トレンチ全景 (北から)



写真 261 02108 調査 1 トレンチ南壁土層 (北から)



写真 262 02108 調査 1 トレンチ北壁土層 (南から)



写真 263 02108 調査 2 トレンチ全景 (西から)



写真 264 02108 調査 2 トレンチ西端部北壁土層 (南から)



写真 265 02108 調査 3 トレンチ全景 (南から)



写真 266 02108 調査 3 トレンチ全景 (北から)

02109（榊団地）農学部会館厨房等改修その他工事に伴う発掘調査

（榊遺跡 20 次調査）

調査地点 松山市榊3丁目5番7の一部

榊団地内

調査面積 106㎡

調査期間 2022年1月11日～2022年1月27日

調査種別 本格調査

調査担当 三吉秀光

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡

（令和3年9月16日付）

1. 序説

（1）調査に至る経緯と調査の経過

2021年9月中旬、施設基盤部から榊団地内北部における改修工事計画が示された。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で埋蔵文化財への影響が極力及ばないよう協議した上で、周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出書を令和3年10月12日付けで愛媛県教育委員会に提出した。これに対して令和3年10月19日付けで愛媛県教育委員会より、「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会を受ける必要のある範囲」の指示があった。そこで令和3年10月25日付けで発掘調査届出書を提出し、令和3年11月1日付けで愛媛県教育委員会より受理したとの通知があった。

既存構造物の撤去が12月より開始し、撤去作業が終了した1月11日から調査に着手した。正門西側、大講義室北部を1区、正門東側を2区、農学部会館西部を3区とした。1区、2区、3区の順に調査を行った。1月27日に3区の調査を終了し、榊遺跡20次調査を終了した。

（2）整理の経過

調査では縄文時代～古墳時代の遺物がコンテナ（60cm×44cm×15cm）2箱分出土している。

整理作業は、調査が終了した2022年1月末から出土遺物の洗浄・分類・注記・復元作業、遺構実測図の整理、遺物実測作業、遺物写真撮影の順に報告書刊行に向けた準備作業を行い、本書にて2022年度に正式報告を行った。

（3）出土遺構・遺物の記録方法

調査で検出した遺構には1～10の遺構番号を付し

ている。遺構番号に加えてSC：堅穴建物、SR：自然流路、SK：土壇、SP：柱穴・小穴、SX：風割木の遺構種別を示す略号を遺構番号に冠している。本調査で出土した遺構はSC-1・2、SP-3～5、SR-6、SK-7～9、SR-10である。

出土した遺物には、R-1～の遺物登録番号を与え、同じ登録番号をもつ複数の遺物で実測および写真撮影した遺物には、新たな遺物登録番号を付与した。遺物登録番号、遺構、出土区・層位を整理した遺物台帳を作成し、遺物には、調査略号（TRM20）と遺物登録番号を注記した。

発掘調査時の記録には、遺構・土層の観察所見記録・実測図・写真がある。調査では、榊団地構内に設置している日本測地系平面直角座標Ⅳ系の3級基準点データに基づいて測量を行っている。調査および整理の際には、デジタルカメラによる写真撮影を行っており、遺構・土層の観察所見記録・実測図とともに愛媛大学埋蔵文化財調査室に保管している。

2. 調査の記録

（1）基本層序

榊遺跡では基本層序を上位からⅠ～Ⅴ層に区分している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を伴った造成土部分。

Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。

Ⅲ層：黒色～黒褐色系の土層。弥生時代～中世の遺物を含む。

Ⅳ層：黄褐色系のシルト層で、下部には礫が混じる。

Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫や礫層。

本調査ではⅠ層～Ⅳ層を確認できた。

（2）調査で出土した遺構と遺物

調査地点は榊団地内西北部を中心として、正門西側、大講義室北部と正門東側と農学部会館西部の大きく3地点からなる。正門西側、大講義室北部を1区、正門東側を2区、農学部会館西部を3区とした。ここでも1区、2区、3区の順に調査区ごとに報告を行う。

調査では、弥生時代の土壇SK-7（2区29トレンチ）、古墳時代の堅穴建物SC-1（1区2トレンチ）・SC-2（1区3トレンチ）、自然流路SR-10（2区13トレンチ）、

古墳時代～中世の小穴 SP-3～5（2区 22 トレンチ）、近世の自然流路 SR-6（2区 29 トレンチ）、配石遺構 SK-8・9（2区 14 トレンチ）を検出した。

① 1 区の調査

1 トレンチ～11 トレンチ、25 トレンチ、26 トレンチからなる。旧表土はアスファルト舗装されており、舗装面から約 20cm 掘り下げた後、調査に着手した。すべての調査区は、発掘調査の指示範囲であるが、工事によって破壊を受ける地点については発掘調査を行い、工事によって破壊を受けない地点については現状保存した。

1 トレンチ

1 区の北西部に設けた 2 m × 1 m の調査区である。現地表下 80cm まで掘り下げ、瓦礫を伴った I 層が続いていることを確認した。

2 トレンチ

1 区の中央部に設けた 1.15 m × 0.8 ～ 1.15 m 調査区である。近現代の造成土である現地表下 15cm まで掘り下げ II 層を検出した。II 層は灰色シルトの II-1 層と橙色を呈する床土層である II-2 層からなる。II 層直下、現地表下 33cm で III 層を検出した。III 層および堅穴建物 SC-1 を検出した。III 層上面における精査では SC-1 を検出できず、現地表下 40cm まで掘り下げ、北東隅で IV 層を検出し、SC-1 の掘り形を検出した。掘り形は北西方向と南東方向へ直線的にのびており、方形の堅穴建物の一部と考えられる。埋土は黒褐色シルトで、径 1 ～ 8cm の明褐色シルトの円形ブロックや

径 3cm 未満の円礫を少量混じる。床面を精査したが、柱など出土しなかった。

埋土中から弥生土器・土師器の破片が 50 点前後出土した。その内、4 点を図化した（図 49-1 ～ 4）。1 は土師器直口窓の口縁部片である。2 は土師器高坏の脚部片である。3 は土師器大型窓の頸部片である。頸部の付け根には突帯が施され、板状工具を用いた刺突文が施される。4 は弥生土器甕の平底を呈する底部片である。1・2 が SC-1 の廃棄時期を示しており、古墳時代中期後半に位置づけられる。

3 トレンチ

1 区の東部に設けた 2.7 m × 1.35 m の調査区である。北半分はすでに IV 層を削り取り、コンクリート基礎が設置されていた。南半分では現地表下 50cm まで I 層ならびに II 層が続き、直下で III 層が出土した。III 層を掘り下げ、IV 層上面で凹凸を確認した。中央部を中心として径 10cm 前後の凹凸がみられた。III 層と考えた土壌を精査したところ、黒褐色シルトに丸やレンズ状の明黄褐色ブロックが混じると同時に II 層の灰色シルトのブロックがみられた。周辺には植栽が植えられており、IV 層上面でみられる凹凸は植栽の根による影響を受けたと考えられる。調査区東壁沿いで土師器がまともに出て出土した。焼土や炭化物などはみられなかった。調査区が狭いため、掘り形などは確認できなかったが、IV 層上面がほぼ水平であることから堅穴建物の一部と判断し、整理段階で堅穴建物 SC-2 とした。

SC-2 の埋土中から 60 点前後の須恵器・土師器片と石器が出土した。その内、図化したのは以下の通りで

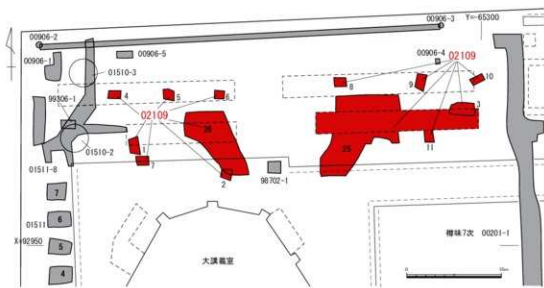


図 45 榊 20 次 (02109 調査) I 区調査地点配置図 (縮尺 1/400)

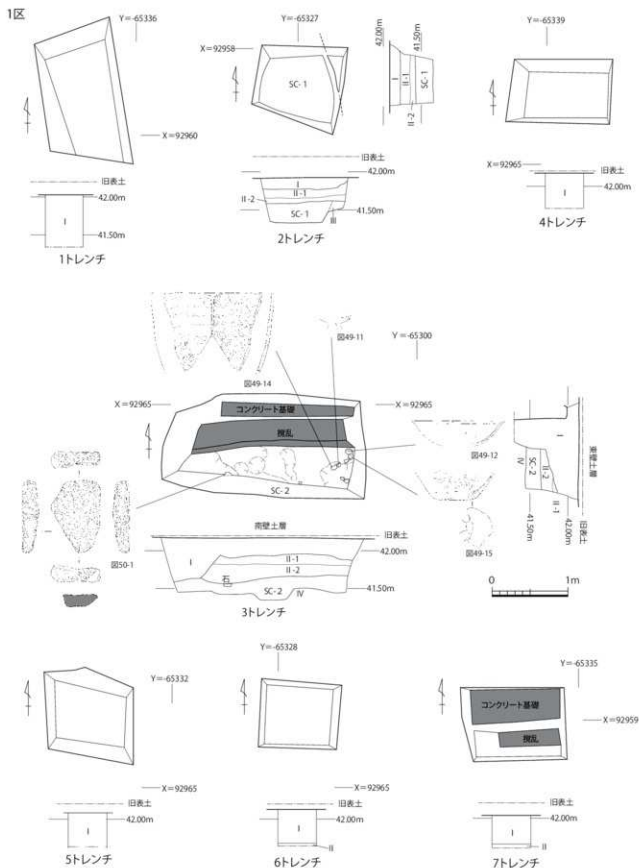


図46 樽味遺跡20次(02109調査)1～7トレンチ配置図・土層断面図(縮尺1/50)

ある(図49-5～15、図50-1・2)。

5～7は古代～中世の土師器である。5は皿・碗の口縁部片、6は内黒土器碗の口縁部片である。7は皿・碗の底部片である。いずれもⅡ層中からの混入品と考えられる。8・9は弥生土器である。8は高杯の脚端部片である。端部外面には凹線文が施され、その上方には矢羽根状の透かしが穿たれる。9は蓋の肩部片である。

10は須恵器、11～15は土師器である。10は須恵器蓋環の底部あるいは天井部片である。外面には回転ヘラケズリ調整が施される。11・12は土師器高杯の坏部片である。12は大型の高杯で口縁部が外方へ屈曲する。13は土師器鉢で平底の底部片である。14・15は同一個体と考えられる瓶である。14は瓶の上半部片で、胴部から口縁部にかけて直線的にのび、端部は面取り調整が施される。15は瓶の底部片であり、穿孔が2カ所確認できる。残存状況から楕円形の穿孔と考えられる。

図50-1・2は石器である。1は南壁土層中、2は埋土中からの出土である。1・2の端部や側面に敲打痕や磨面を確認できることから、敲石・磨石と考えられる。

トレンチ内南東部に土師器高杯や瓶がまともに出土しており、竈周辺である可能性も考えられる。以上から、SC-2は古墳時代中期の堅穴建物跡と考えられる。

4 トレンチ

1区の北西部に設けた1.4m×0.8mの調査区である。

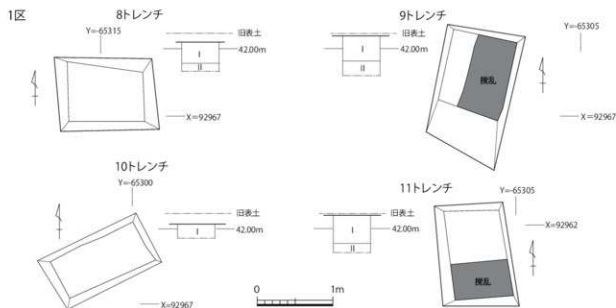


図47 樽味20次(02109調査)8～11 トレンチ配置図・土層断面図(縮尺1/50)

現地表下45cmまで掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いており、工事による影響がないことを確認した。

5 トレンチ

1区の北西部に設けた1.1m×1mの調査区である。現地表下46cmまで掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いており、工事による影響がないことを確認した。

6 トレンチ

1区の中央部、5 トレンチの東に設けた1.1m×0.9mの調査区である。現地表下45cmまで掘り下げ瓦礫を伴ったⅠ層、50cmまで掘り下げⅡ層が続いていることを確認した。工事による影響がないことを確認した。

7 トレンチ

1区の南西部に設けた1.4m×0.9mの調査区である。南西部以外はコンクリート基礎が広がっていることを確認した。南西部は現地表下38cmまで掘り下げ瓦礫を伴ったⅠ層、42cmまで掘り下げⅡ層が続いていることを確認した。工事による影響がないことを確認した。Ⅰ層から、外面に平行叩き目の調整を施した古代の須恵器の甕片(図50-3)や弥生土器片(図50-4)が出土している。

8 トレンチ

1区の中央部、北側に設けた1.3m×0.9mの調査区である。現地表下28cmまで掘り下げ瓦礫を伴ったⅠ層、38cmまで掘り下げⅡ層が続いていることを確認した。工事による影響がないことを確認した。

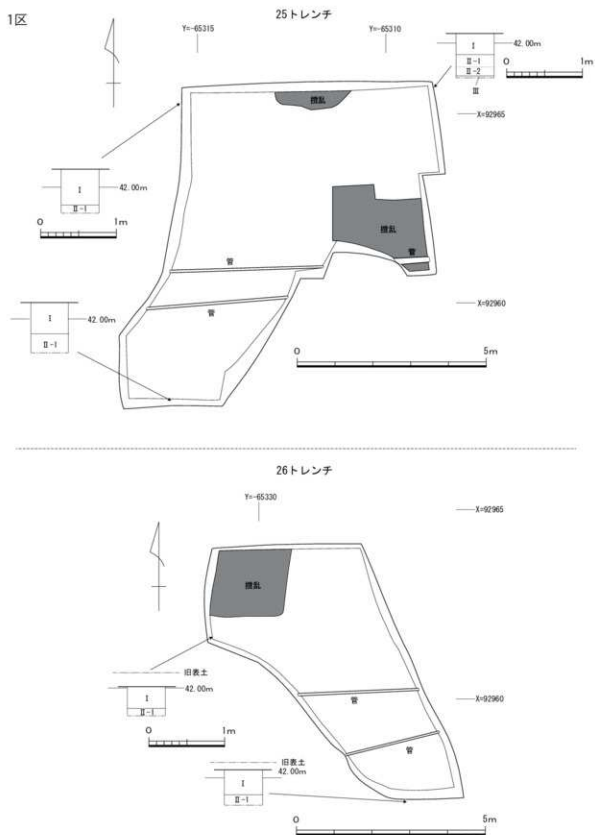


図 48 榑味 20 次 (02109 調査) 25・26 トレンチ配置図 (縮尺 1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)

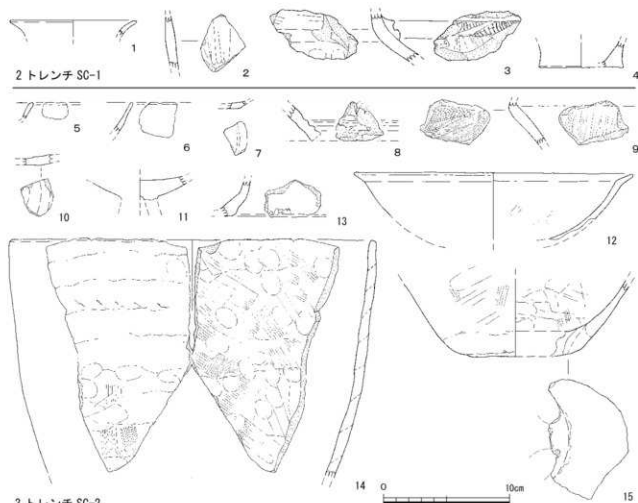


図49 樽味20次(O2109調査)1区出土遺物1(縮尺1/3)

9 トレンチ

1区の北東部に設けた1.7m×1mの調査区である。現地表下34cmまで掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層、54cmまで掘り下げⅡ層が続いていることを確認した。工事による影響がないことを確認した。

10 トレンチ

1区の北東部に設けた1.4m×0.7mの調査区である。現地表下20cmまで掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いており、工事による影響がないことを確認した。

11 トレンチ

1区の南東部に設けた1.3m×1mの調査区である。現地表下36cmまで掘り下げ瓦礫を伴ったⅠ層、50cmまで掘り下げⅡ層が続いていることを確認した。工事による影響がないことを確認した。

25 トレンチ

1区の中央部にある植栽である大王松の土壌改良工事部分東側に設けた6.5m×8.5mの不定形調査区である。調査段階で1-1区と1-2区にしてあったが、調査終了後に25トレンチとした。

西部では現地表下45cmまで表土層であるⅠ層が続き、直下で近代以前の水田・畠跡であるⅡ-1層が出土した。現地表下56cmまで掘り下げ、Ⅱ-1層が続くことを確認した。東部では現地表下28cmまでⅠ層が続き、直下でⅡ層が出土した。Ⅱ層は水田層であるⅡ-1層と床土層であるⅡ-2層からなる。現地表下55cmでⅢ層が出土した。南部では、現地表下42cmまでⅠ層が続き、直下でⅡ-1層が出土し、66cmまで掘り下げ、Ⅱ-1層が続き、工事による埋蔵文化財への影響がな

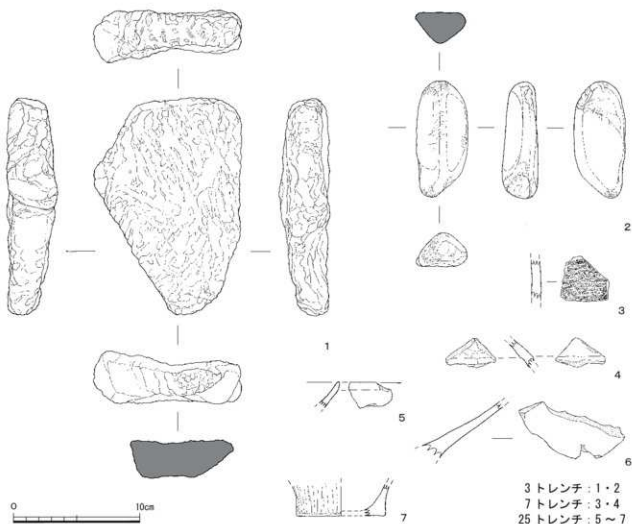


図50 樽味20次(02109調査)1区出土遺物2(縮尺1/3)

いことを確認した。土壌改良に伴う掘り下げをⅡ層下部までにおさめて、以下については現状保存することとした。

25 トレンチではⅡ層下部からⅢ層直上から陶磁器片や弥生土器・土師器片が9点出土した。その内3点を図化した(図50-5～7)。

5は土師器杯。椀の口縁部片である。6は弥生土器高杯の坏部片である。7は弥生土器壺の平底底部片である。

26 トレンチ

大王松の西側に設けた6.5m×4mの不定形の調査区である。調査段階では1-3区として調査を行ったが、調査終了後26 トレンチとした。

北部では現地表下38cmまでⅠ層が続き、直下でⅡ

-Ⅰ層が出土した。現地表下40cmまで掘り下げ、Ⅱ-Ⅰ層が続いていることを確認した。南部側では現地表下35cmまでⅠ層が続き、直下で確認したⅡ-Ⅰ層が現地表下46cmまで続き、埋蔵文化財へ影響がないことを確認した。

②2区の調査

2区は13～24 トレンチ、27～31 トレンチからなる。旧表土はアスファルト舗装されており、そこから20～30cm掘り下げた後、調査に着手した。すべての調査区は、発掘調査の指示範囲であるが、工事によって破壊を受ける地点については発掘調査を行い、工事によって破壊を受けない地点については現状保存した。

13 トレンチ

2区西部に設けた1.6m×0.75mの調査区である。南側は攪乱を受ける。現地表下35cmまでI層が続き、直下で灰色シルトであるII層、床土層であるII-2層が出土した。現地表下45cmで径1～2cmの円礫が混じる黒褐色シルトであるIII層を検出した。その直下には黒褐色砂質土の粗砂層（SR-10-1）が33～43cm堆積する。自然流路SR-10の一部と判断した。その直下で径10cmの褐色砂礫層（SR-10-2）を検出した。SR-10から遺物は出土しなかった。II層下で検出しており、中世以前の自然流路と考えられる。

14 トレンチ

2区西部、13 トレンチの南に設けた1.3m×0.8mの調査区である。現地表下20cmまでI層が続き、直下で近世以前の水田層であるII層が出土した。II層を掘り下げ途中で、調査区南東部で1辺5～15cm前後の円礫・角礫13点がまとまって出土した。個々の円礫・角礫をみると、表面が平滑で砥石や磨石などとして使用されたと考えられる。IV層上面まで掘り下げ、残存長45cmで幅25cmの土塊SK-8と残存長22cm、幅15cmのSK-9を検出した。前述の円礫・角礫はSK-8埋土の上部に伴うことが明らかになった。SK-8・9の埋土はII層と同じ灰色シルトである。

SK-8ならびにII層中から土師器や陶器の細片・小片が30点前後出土した。その内、土師器3点を図化した（図51-1～3）。1は口径8cm、器高1.9cmを測る皿である。2は皿の底部片である。3は復元口径12cmを測る椀の口縁部片である。

以上の出土遺物や遺構の状況から、SK-8・9は、近世の水田層中に掘り込まれた土塊である。

15 トレンチ

2区の中央部に設けた2.8m×1.3mの調査区である。調査区全体は、30 トレンチ中央部を走る管路工事に伴ってすでに掘り返されていた。調査区南半部では、現地表下33cmまで掘り返されており、直下でIV層を検出した。IV層上面を精査したが、遺構は確認できなかった。調査区南壁を精査し、土層観察を行った。東部から中央部をのぞいて、西部は大きく掘り込まれており、現地表下60cm前後までI層が続く。東部から中央部では現地表下10cmまで灰色シルトであるII層が続き、直下でIII層を検出した。III層は灰褐色シルトであるIII-1層と褐色シルトで径1～30cmの礫が混じるIII-2層からなり、層厚約40cmの堆積がある。遺物

は出土しなかった。

16 トレンチ

2区の東部に設けた1.2m×1mの調査区である。北部は攪乱によってすでに破壊されていた。現地表下6cmまでI層が続き、直下で褐色砂質土であるIII層が出土した。III層を現地表下22～24cmまで掘り下げIV層を検出した。IV層上面で精査したが遺構は確認できなかった。IV層は浅黄色シルトで径1mmの白色砂粒を含む。IV層を現地表下35cmまで掘り下げ、遺構・遺物が出土しないことを確認した。

17 トレンチ

2区の東部、16 トレンチの北に設けた1.2m×1mの調査区である。東部は攪乱によって破壊されていた。現地表下18cmまでI層が続き、直下で褐色砂質土（中砂）であるIII層を検出した。III層は現地表下45～46cmまで続き、直下でIV層を検出した。IV層上面を精査したが遺構は確認できなかった。

18 トレンチ

2区東部に設けた調査区で、29 トレンチの東端部にあたる。29 トレンチで報告を行う。

19 トレンチ

2区の東部に設けた1m×0.9mの調査区である。現地表下でIII層を検出した。III層は上部には黒色シルトからなるIII-1層と径1mm未満の砂粒が混じる褐色シルトのIII-2層が堆積する。現地表下45cmまでIII層が堆積し、直下でIV層を検出した。III層から遺物は出土しなかった。

20 トレンチ

2区中央部に設けた2.3m×1mの調査区である。現地表下約10cmまでI層が続き、直下には近世の水田層であるII-1層と床土層であるII-2層が堆積する。II層を現地表下27cmまで掘り下げ、IV層が出土した。IV層上面を精査したが、遺構は出土しなかった。

21 トレンチ

2区東部に設けた2.2m×1.1mの調査区である。31 トレンチの北東部にあたることから、21 トレンチで報告を行う。

22 トレンチ

連合農学研究科棟の西部に設けた1.5m×1mの調査区である。北側はすでに攪乱され、現地表下35cmまで掘り返されていた。南側は現地表下5cmで灰褐色シルトで径0.1mmの白色砂粒を含むIII層を検出した。III層は約6～10cm堆積しており、直下で径1mm未満の

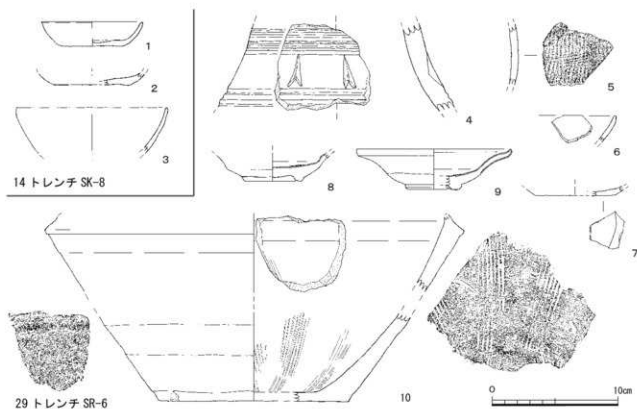


図51 樽味20次(02109調査)2区出土遺物1(縮尺1/3)

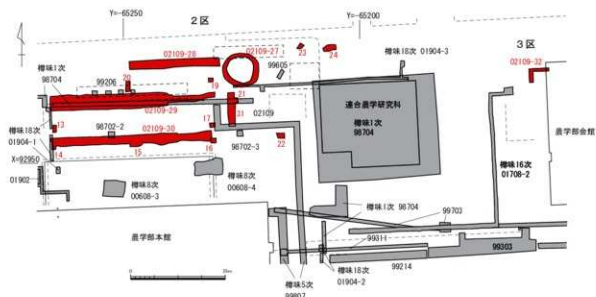


図52 02109(樽味道跡20次)調査2区・3区調査地点配置図(縮尺1/800)

白色砂粒を多く含む浅黄色シルトのⅣ層を検出した。Ⅳ層掘り下げ途中で小穴SP-3とSP-4を検出した。SP-3は径15cm、SP-4は径10cmの円形の掘り形をもつ。Ⅳ層上面から掘り込まれていた小穴と考えられ、深さは約20cmと想定される。SP-3・4ともに埋土は黒褐色シルトである。調査東壁を精査したところ、Ⅲ層上面で掘り込まれている小穴SP-5を検出した。SP-5は径15cmを測り、検出面からの深さは約6cmである。埋土は黒褐色シルトである。いずれの小穴からも遺物は出土しなかった。埋土の特徴からSP-3～5は古墳時代～中世の柱穴と考えられる。

23 トレンチ

連合農学研究科棟の北西部に設けた1.4～1m×1.1mの調査区である。現地表下96cmまでⅠ層が続き、明黄褐色シルトのⅣ層を検出した。北と南はすでに擾乱されていた。Ⅳ層上面で精査を行ったが遺構は確認できなかった。現地表下98cmまで掘り下げ、Ⅳ層が続いていることを確認した。遺物は出土しなかった。

24 トレンチ

連合農学研究科棟の北西部に設けた2.8m×1.3mの調査区である。調査区の東側のみが残り、西側はすでに掘削を受けていた。現地表下15cmまで瓦礫を伴ったⅠ層が続き、直下で検出した近世の水田層であるⅡ層が現地表下35cmまで続き、その直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層上面で遺構は確認できなかった。Ⅳ層は上部から明黄褐色シルト層、黄色シルト層、径1cmの円礫を含む橙色シルト層、明黄褐色シルト層を検出した。最下層の明黄褐色シルト層は、1次調査で検出したAT層と考えられる。明黄褐色シルト層を現地表下120cmまで掘り下げ、遺構・遺物がないことを確認した。

27 トレンチ

2区北東部に位置する楠の土壌改良工事部分に当たり、円形を呈する調査区で調査段階では2-1区としていた。整理段階に27 トレンチとした。

調査は、楠の周囲を0.7～1.1m幅で掘り下げを行った。北部では現地表下(以後深さは現地表下から)27cm、東部では30cm、南部では25cm、西部では50cmまで表土層であるⅠ層が続いていた。北部ではⅠ層直下でⅣ層が出土した。さらにⅣ層を73cmまで掘り下げた。東部、南部、西部ではⅠ層直下でⅢ層が出土した。東部ではⅢ層は褐色シルトのⅢ-1層と径0.1mmの白色シルトが混じる褐色シルトのⅢ-2層とかなる。Ⅲ層

直下でⅣ層を検出し、現地表下80cmまで掘り下げた。南部ではⅠ層直下でⅢ-1層を検出した。現地表下45cmでⅣ層、62cmで礫混じりのⅣ-2層を検出し、78cmまで掘り下げた。西部ではⅢ層が65cmまで続き、Ⅳ層を検出した。Ⅳ層を80cmまで掘り下げ調査を終了した。調査区全体において、Ⅳ層上面で精査を行ったが、遺構は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

27 トレンチでは、北部でⅢ層が確認されておらず、旧地形が高かったため、早い段階に削平されたと考えられる。

28 トレンチ

2区の北側に設けた東西19m、南北18～19mの調査区である。調査段階には2-1区として調査を行ったが、整理段階に28 トレンチとした。調査区全体を30～40cm掘り下げ、Ⅰ・Ⅱ層が続いていることを確認した。屋根基礎工事部分については、遺構・遺物の有無を確認するため、現地表下約60cmまで深く掘り下げた。調査区の東部を中心として標高41.75m前後でⅣ層を検出したが、遺構・遺物ともに出土しなかった。なお、Ⅰ・Ⅱ層中から4点の土器が出土しており、土器器耳1点を図化した(図57-12)。12は復元口径10.8cmを測る杯の口縁部片である。

29 トレンチ

2区の中央部に設けた東西35m、南北1～3.3mの調査区である。調査段階に2-3区として調査を行ったが、整理段階に29 トレンチとした。調査区東端部は18 トレンチにあたる。調査区中央部には樽埴遺跡1次調査Ⅲ区にあたる。

工事では、西部で現地表下20cmまで、東部で50cmまでの掘削工事を行うことから、調査区全体をその高さまで掘り下げた際、埋蔵文化財へ影響が及ぶ範囲については調査を行い、影響が及ばない範囲については現状保存することとした。調査区全体を、表土層であるⅠ層、近世の水田層であるⅡ層を掘り下げた後、西部で土壌SK-7、東部で自然流路SR-6を検出した。西部のSK-7については工事による影響を受けるため現状保存が難しいことから調査を行った。SR-6ならば調査区東側については、自然流路という遺構の性格を考慮して、現地表下50cmまで調査を行い、それ以下については現状保存することとした。調査区西側は駐輪場工事予定地であり、屋根の基礎工事部分として現地表下30～40cmまでの掘り下げが予定されることから、9カ所の深掘り調査区を設けて、西から8カ所

についてはⅠ層内あるいはⅣ層中まで掘り下げ、遺構・遺物が出土しないことを確認した。東端の深掘り調査区では、SR-6の埋土が続くことを確認した。

自然流路SR-6は、29トレンチ西部、Ⅰ・Ⅱ層下、Ⅲ層・Ⅳ層の上面、現地表下22cmで検出した。北壁における土層観察では、東西幅7.8mを測る。南北方向へ続くと考えられ、1次調査で検出したSR-1に対応する。1次調査では中世の遺物が出土しているが年代の特定には当たっていない。

埋土は灰黄褐色シルトのSR-6-1層と灰色シルト～ごく細砂のSR-6-2層を確認している。SR-6の中央部付近で、現地表下50cmまで深掘りを行い、SR-6-2層が続いていることを確認した。深掘り調査では、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器片などが少量出土した。その内、7点を図化した(図51-4～10)。

4は弥生時代中期の高坏脚部片である。外面には凹線文が施され、矢羽根状透かしが施されている。透かしは貫通しない。5は、古代の須恵器・甕の胴部片である。外面には格子目の叩き板を用いた調整の後、カキ目調整が施される。6は土師器杯の底部片である。7は陶器の坏口縁部片である。8は、胴部が屈曲する陶器の皿である。9は、胴部が屈曲したのち口縁部へと続き、口唇部が直立する17世紀前後の磁器皿である。10は復元口径33.4cmの備前焼の播鉢である。7条1単位の播目を加える。14世紀に位置づけられる。以上から17世紀前後までに埋没した自然流路と考えられる。

トレンチ西部でSK-7を検出した。表土層であるⅠ層ならびにⅡ層を掘り下げた後、調査区西部で東西約6.8mにわたってⅢ層が広がり、Ⅲ層中では弥生土器や石器など確認できた。Ⅲ層の広がりの東西では、Ⅳ層を検出できたことから、調査ではⅣ層を掘り込む土壌と考え、SK-7とした。北東部の一部が土壌の掘り形の一部ととめていいると推定する。北壁での観察ではSK-7埋土は約10cm堆積する。

埋土中から50点を越える弥生土器、須恵器の小片・細片、石鏝が出土した。これらの内、11点を実測した。(図57-1～11)1は弥生時代前期の甕の口縁部片である。口縁部は如意状を呈し、その端部に刻み目を施す。2は甕の口縁部片である。上下に拡張された口縁端部には凹線文が施される。3～6は甕である。3は端部を上方につまみ上げ、端部に凹線文を施す。4は甕の胴部片で、外面に板状工具によるナデ調整、内面には刷

毛目調整が施される。5は上げ底、6は平底の底部片である。7は鉢の底部片である。8は高坏杯底部片である。内外面ともにミガキ調整が施される。9・10は須恵器である。9は蓋杯の天井部あるいは底部片である。外面には回転ヘラケズリ調整が施される。10は横板の胴部片である。外面には格子目の叩き調整が施された後にカキ目調整が施される。内面には青海波文が残る。9・10は古墳時代後期に位置づけられる。11は平基式の石鏝である。1や9・10はやや時期が異なるが、その他は弥生時代中期末～後期初頭部であることからSK-7は当該期の土壌と考えられる。

SK-7の底面で、小穴SP-10～12を検出した。SP-10は南半分が攪乱を受けていた。径30cm、深さ20cmの小穴である。埋土は暗褐色～黒褐色シルトで、弥生土器片が3点出土した(図57-15～17)。15は壺口頸部片である。内外面にヘラミガキ調整痕が残る。16は壺の肩部片である。外面には板状工具を用いた刺突文列点文が施される。17は壺の胴部片である。これらの遺物はいずれも弥生時代中期末～後期初頭部であり、土壌SK-7と同時に位置づけられる。SP-10では柱痕跡を確認できなかったが、SK-7に伴うものとするれば、SK-7は土壌ではなく、堅固建物の一部である可能性を考えておく必要がある。

SP-11は径28～30cmの小穴である。深さは32cmを測る。埋土は暗褐色～黒褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

SP-12は径23～25cmを測る小穴である。深さは12cmを測る。埋土は暗褐色～黒褐色シルトである。遺物は出土しなかった。

18トレンチ西部、29トレンチ東部のⅡ層～Ⅲ層中から弥生土器、土師器、須恵器の小片が10点出土した。その内、弥生土器2点を実測した(図57-13・14)。13は口縁端部を上方につまみ上げる甕の口縁部片である。14は甕の平底底部片である。13・14ともに弥生時代中・後期の遺物である。

30 トレンチ

2区の南部に設けた東西約34m、南北1.4m～2.2mの調査区である。調査段階に2-4区としていたが、整理段階に30トレンチとした。バイク置き場土間コンクリート設置部分とU型側溝設置工事部分である。調査区全体を旧地表面下48cmまで掘り下げⅠ層が続いていることを確認した。根根基礎工事部分として現地表下64cmまで掘り下げるの必要があり、30トレンチ

東部に深掘りトレンチを3地点設けた。東部2地点では表土層であるI層が続いていることを確認した。西部深掘り地点ではI層下で、灰褐色シルトのⅢ層を確認した。慎重に掘り下げたが、遺構・遺物は出土しなかった。

31 トレンチ

2区東部に設けた南北7.1m、東西1.3m～1.7mの調査区である。調査段階に2-5区としていたが、整理段階に31 トレンチとした。北東部では21 トレンチと重なる。

北端部では現地表下30cmまでI層が続き、直下でⅢ層が出土した。Ⅲ層は北端部の一部に堆積しているだけで、その他の地点ですべてに削平されていた。Ⅲ層を慎重に掘り下げ、Ⅳ層上面で精査したが、遺構・遺物ともに確認できなかった。21 トレンチ部分では、Ⅳ層下部で砂礫層を検出した。

③3区の調査

3区として調査したのは32 トレンチで、工事立会の指示範囲にあたる。

32 トレンチ

農学部会館建物の北西部に設けた全長7m、幅0.7～0.8mのL字状の調査区である。現地表下から30～35cmまで掘り下げ、Ⅳ層を検出した。北側は中央部で幅約2mにわたって掘り返されていた。また南北方向にのびる調査区では、北端部を除き、掘り返されていた。Ⅳ層上面で精査を行い、調査区北西部で近現代の畚に伴う小溝を検出した。その他の遺構は確認できなかった。その後、確認のため調査区全体を現地表下40cmまで掘り下げ、Ⅳ層が続いていることを確認した。

3. まとめ

今回の20次調査では、榑味団地構内北西部を中心として大小の32のトレンチを設けて、弥生時代、古墳時代、古代、中世の遺構を確認した。また本書でも報告した19次調査では団地構内南東部を中心として12のトレンチを設けて調査を行った。19・20次調査によって、榑味団地内に広がる榑味遺跡の西部をのぞく、全域の調査を行ったことになる。ここでは19・20次調査の成果を遺跡全体の評価を行うことによってまとめたい。

(1) 弥生時代

榑味遺跡周辺の地形図をみると、等高線の間隔が広がり、旧地形が大きく改変されていることがわかる。近現代の団地造成あるいはそれ以前の耕地化に伴って大規模な削平が行われたと考えられる。

このような榑味遺跡内では、最も古く位置づけられるのが弥生時代前期の遺構・遺物である。本調査でも、20次調査2区SK-7から混入ではあるが、弥生時代前期の甕の口縁部片が出土した。

団地西部では3次調査で弥生時代前期の甕などが出土している。また団地中央部北側では、1次調査I区で土壠SK-5・溝SD-4、5次調査ⅡE区で土壠SK-38、5次調査V区で堅穴建物SC-16～18・20と溝SD-15、16次調査2区で土壠SK-02が出土している。団地中央部北側周辺から団地西部に弥生時代前期の集落域が展開したと考えられる。

その後、弥生時代中期後葉から後期の遺物が団地内全域で出土する。ただ明確な遺構は確認されていない。今回の調査成果と周辺の調査成果を踏まえると、榑味遺跡北西部で遺構・遺物が広がっていることから、集落域が広がっていたと考えられる。

(2) 古墳時代

榑味団地西部ならびに北部には、榑味四反地遺跡、榑味高木遺跡、榑味立添遺跡などがひろがり、榑味団地構内の榑味遺跡と一連の榑味遺跡群を形成している。

榑味遺跡は、榑味遺跡群の中では南東部に位置し、古墳時代中期・後期の集落域の中でも南東部に位置する。団地北西部では、3次調査で古墳時代後期の堅穴建物跡1棟・掘立柱建物2棟、7次調査では古墳時代後期の堅穴建物跡3棟・掘立柱建物1棟や自然流路、溝などが確認されている。20次調査では、2トレンチにおいて堅穴建物跡SC-1、3トレンチにおいて堅穴建物跡SC-2が出土した。いずれも出土遺物から古墳時代中期に位置づけられる。弥生時代に引き続き、古墳時代中期から後期の集落域が団地北西部に広がっていたと考えられる。

(3) 古代

19次調査1トレンチや9トレンチでは径20～25cmの小穴が出土している。隣接する6次調査や10次調査では、10世紀～11世紀前半の掘立柱建物跡や土壠

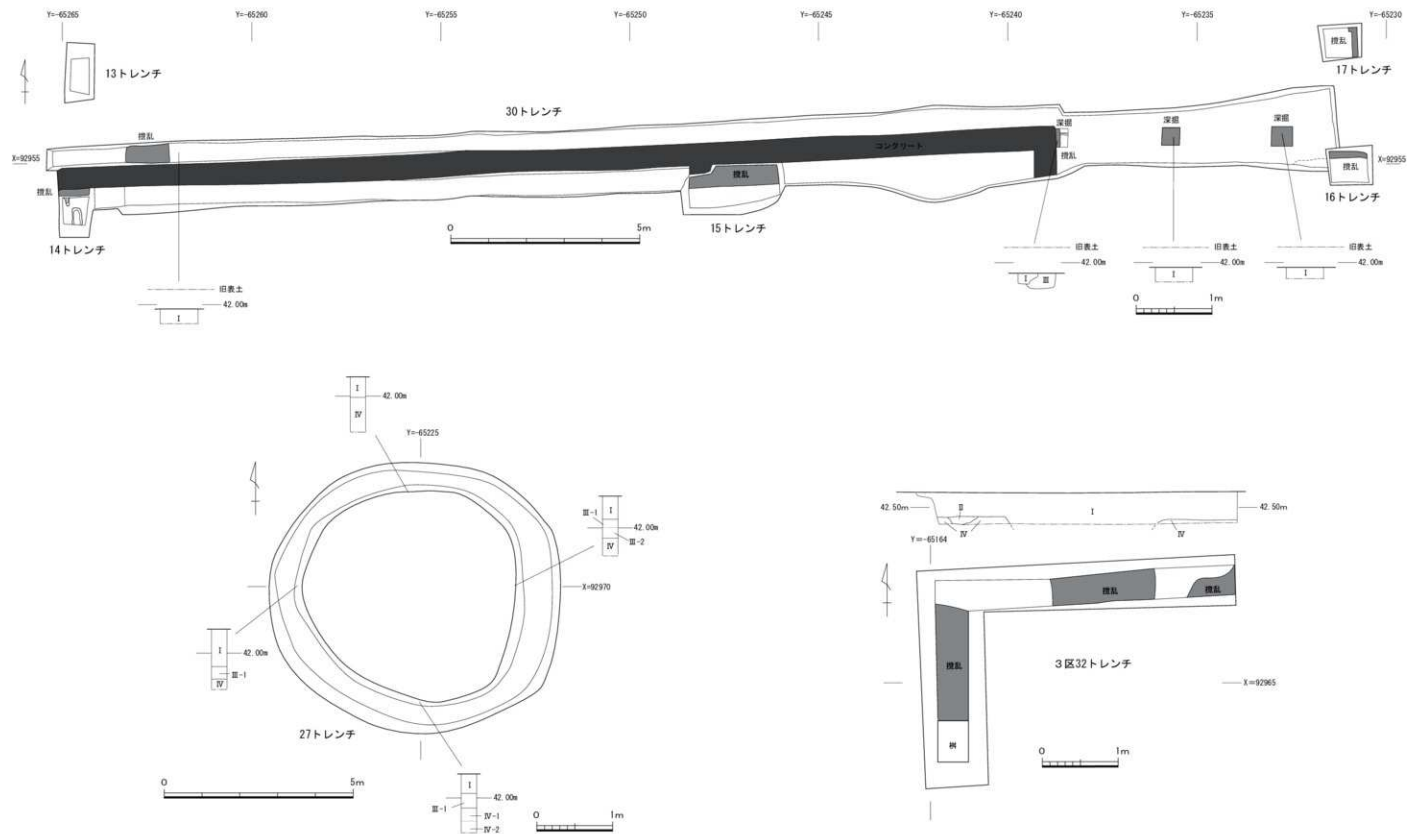


図 53 O2109 (柳味通跡 20 次) 2 区・3 区調査地点配置図 1 (縮尺 1/50・1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)

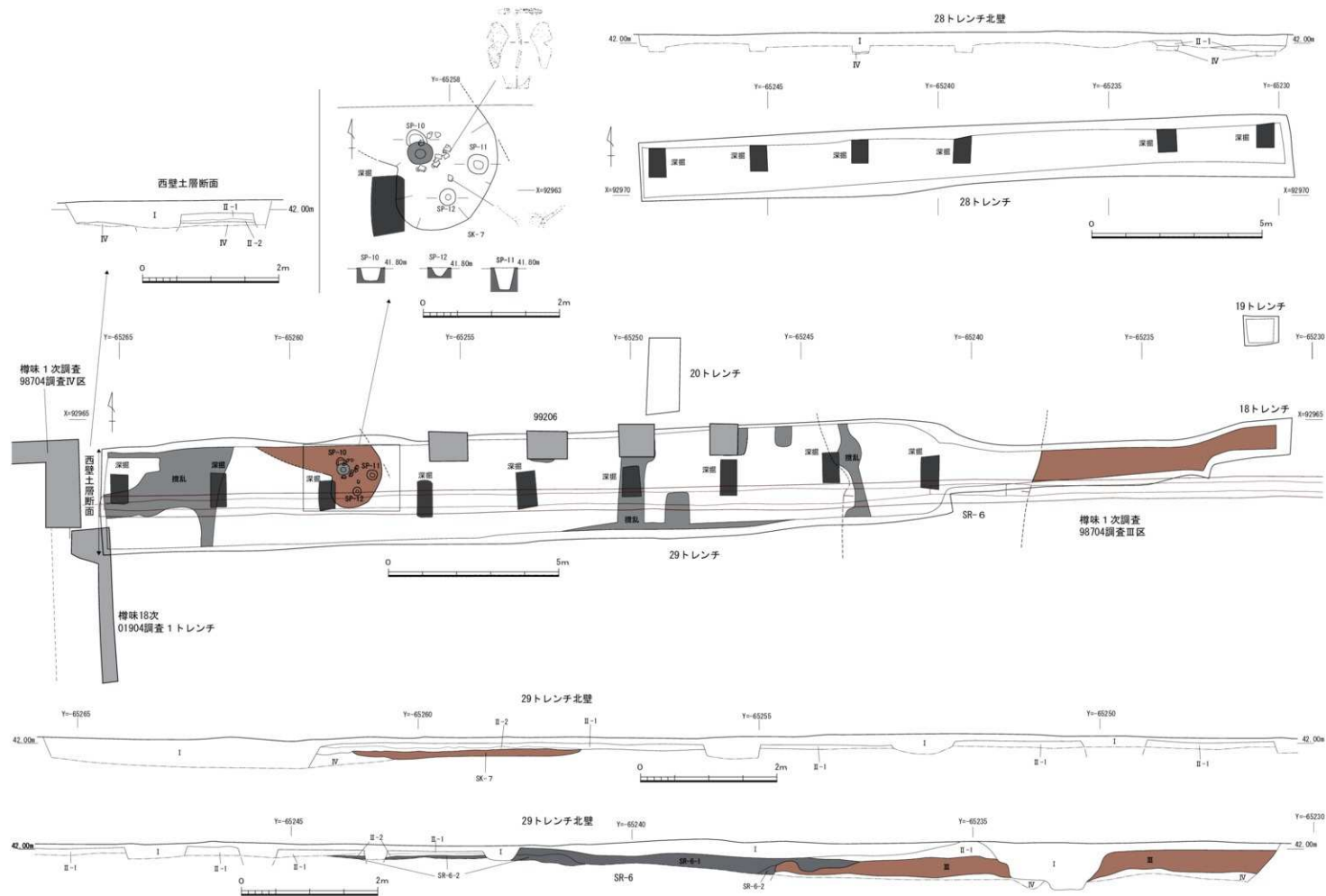


図 54 02109 (榑味遺跡 20 次) 2 区・3 区調査地点配置図 2 (縮尺 1/50・1/100)・土層断面図 (縮尺 1/50)

2区

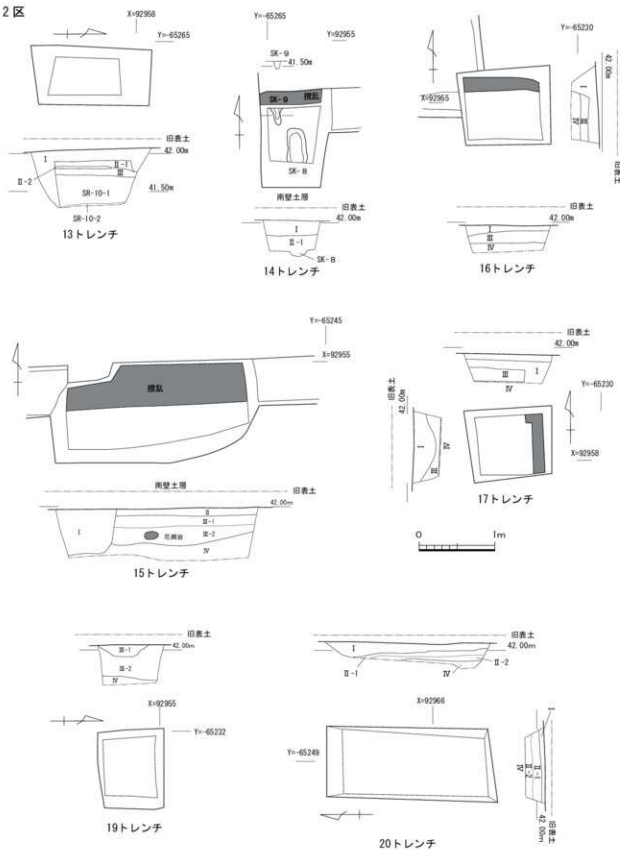


図55 梅味20次(02109調査)13～17・19・20トレンチ配置図・土層断面図(縮尺1/50)

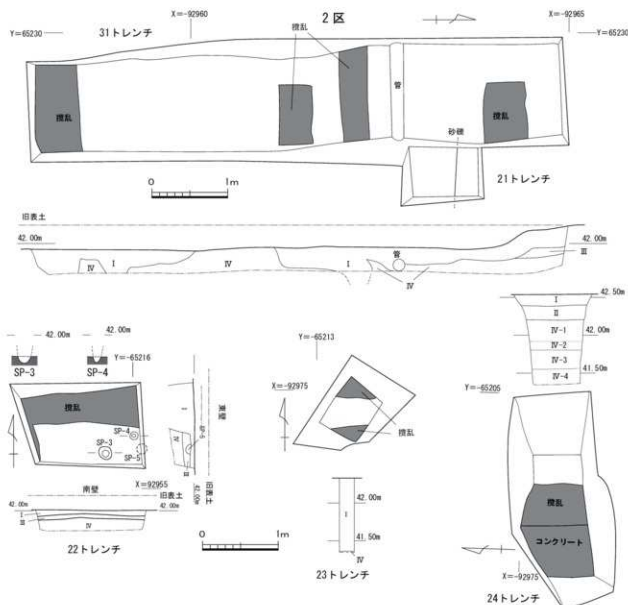


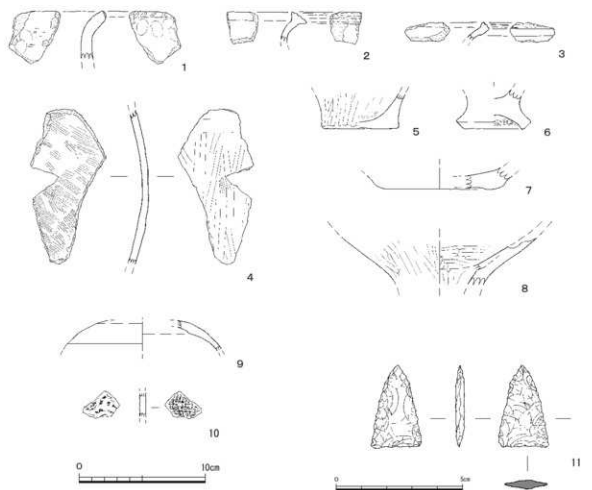
図 56 樽味 20 次 (02109 調査) 22～24 トレンチ配置図・土層断面図 (縮尺 1/50)

が出土している。小規模な集落域が展開していたと考えられる。20 次調査 22 トレンチでは SP-4～5 が出土している。遺物の出土がないことから、詳細な年代は不明だが古代～中世の遺構と考えられる。柱穴は径 10～15cm と小型であることから、櫓列などを構成する小穴と考えられる。

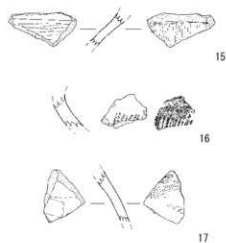
この他に 20 次調査 1 区 3 トレンチから古代の須恵器や内黒土器碗が出土している。また同 28 トレンチでは I・II 層中から土師器杯が出土しており、生活域として利用されていたと考えられる。

樽味遺跡の南部には谷部が広がり、古代～中世の自然流路 (5 次調査 SR-1) が広がっていることが明らかになっている。樽味遺跡の東部で調査を行った 19 次調査 12 トレンチでは、自然流路 SR-6 が出土しており、南東部 4 次調査で出土した SR-1 と一連の流路であると考えられる。さらにこれらの流路は樽味遺跡の南部に流れており、5 次調査で出土した SR-1 に合流すると考えられる。

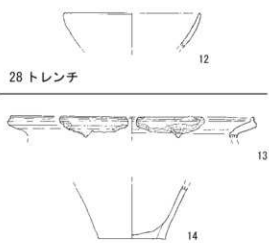
4 次調査 SR-1 では 8 世紀前半までに埋没することが明らかになっている。一方、5 次調査 SR-1 では 14



29 トレンチ SK-7



29 トレンチ SP-10



28 トレンチ

18 トレンチ・29 トレンチ東部

図57 樽味20次(02109調査)2区出土遺物2(縮尺1/3・2/3)



写真 267 榊味 20 次 (02109 調査) 1 区全景 (東から)



写真 268 榊味 20 次 (02109 調査) 1 区東部全景 (西から)



写真 269 榑味 20 次 (02109 調査) 1 トレンチ全景
(東から)



写真 270 榑味 20 次 (02109 調査) 2 トレンチ
SC-1 検出状況 (北から)



写真 271 榑味 20 次 (02109 調査) 2 トレンチ
SC-1 検出状況 (東から)



写真 272 榑味 20 次 (02109 調査) 2 トレンチ
SC-1 完掘状況 (南から)



写真 273 榑味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ
SC-2 検出状況 (東から)



写真 274 榑味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ
SC-2 検出状況 (北から)



写真 275 榑味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ
SC-2 遺物出土状況 (北から)



写真 276 榑味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ
SC-2 完掘状況 (北から)



写真 277 榑味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ
SC-2 東部遺物出土状況 (西から)



写真 278 榑味 20 次 (02109 調査) 3 トレンチ
SC-2 完掘状況 (東から)



写真 279 榑味 20 次 (02109 調査) 4 トレンチ全景
(南から)



写真 280 榑味 20 次 (02109 調査) 5 トレンチ全景
(南から)



写真 281 榑味 20 次 (02109 調査) 6 トレンチ全景
(南から)



写真 282 榑味 20 次 (02109 調査) 7 トレンチ全景
(東から)



写真 283 榑味 20 次 (02109 調査) 8 トレンチ全景
(南から)



写真 284 榑味 20 次 (02109 調査) 9 トレンチ全景
(東から)



写真 285 樽味 20 次 (02109 調査) 10 トレンチ全景
(南東から)



写真 286 樽味 20 次 (02109 調査) 11 トレンチ全景
(東から)



写真 287 樽味 20 次 (02109 調査) 11 トレンチ全景
(北から)



写真 288 樽味 20 次 (02109 調査) 25 トレンチ
北西隅土層断面 (東から)



写真 289 樽味 20 次 (02109 調査) 25 トレンチ
北東隅土層断面 (西から)



写真 290 樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ
西部土層断面 (東から)



写真 291 樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ
南部土層断面 (北から)



写真 292 樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ全景
(東から)



写真 293 樽味 20 次 (02109 調査) 25 トレンチ全景 (北東から)



写真 294 樽味 20 次 (02109 調査) 26 トレンチ全景 (北から)



写真 295 榑味 20 次 (02109 調査) 2 区全景 (東から)



写真 296 榑味 20 次 (02109 調査) 13 トレンチ全景
(南から)



写真 297 榑味 20 次 (02109 調査) 13 トレンチ
西壁土層断面 (東から)



写真 298 榑味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ
SX-8・9 検出状況 (東から)



写真 299 榑味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ
SX-8・9 検出状況 (南から)



写真 300 榑味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ
完掘状況 (東から)



写真 301 榑味 20 次 (02109 調査) 14 トレンチ
完掘状況 (北から)



写真 302 榑味 20 次 (02109 調査) 15 トレンチ全景
(東から)



写真 303 榑味 20 次 (02109 調査) 15 トレンチ全景
(北から)



写真 304 榑味 20 次 (02109 調査) 16 トレンチ全景
(西から)



写真 305 榑味 20 次 (02109 調査) 17 トレンチ全景
(南から)



写真 306 榑味 20 次 (02109 調査) 18 トレンチ全景
(東から)



写真 307 榑味 20 次 (02109 調査) 18 トレンチ
北壁土層断面 (南から)



写真 308 樽味 20 次 (02109 調査) 19 トレンチ全景
(南から)



写真 309 樽味 20 次 (02109 調査) 20 トレンチ全景
(西から)



写真 310 樽味 20 次 (02109 調査) 21 トレンチ全景
(東から)



写真 311 樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ全景
(北から)



写真 312 樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ
SP-3 土層断面 (北から)



写真 313 樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ
SP-3 完掘状況 (北から)



写真 314 樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ
SP-4 土層断面 (北から)



写真 315 樽味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ
SP-4 完掘状況 (北から)



写真 316 榊味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ
完掘状況 (北から)



写真 317 榊味 20 次 (02109 調査) 22 トレンチ
東壁土層断面 (西から)



写真 318 榊味 20 次 (02109 調査) 23 トレンチと
24 トレンチ遠景 (西から)



写真 319 榊味 20 次 (02109 調査) 23 トレンチ全景
(南から)



写真 320 榊味 20 次 (02109 調査) 24 トレンチ全景
(南から)



写真 321 榊味 20 次 (02109 調査) 24 トレンチ
東壁土層断面 (西から)



写真 322 榊味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ全景
(東から)



写真 323 榊味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ全景
(西から)



写真 324 榑味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ
西側土層 (西から)



写真 325 榑味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ
東側土層 (東から)



写真 326 榑味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ
南側土層 (南から)



写真 327 榑味 20 次 (02109 調査) 27 トレンチ
北側土層 (北から)



写真 328 榑味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ全景
(西から)



写真 329 榑味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ全景
(東から)



写真 330 榑味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ
完掘状況 (東から)



写真 331 榑味 20 次 (02109 調査) 28 トレンチ
完掘状況 (西から)



写真 332 榑味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ全景
(西から)



写真 333 榑味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
完掘状況 (西から)



写真 334 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SK-7 検出状況 (東から)



写真 335 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SK-7 検出状況 (南から)



写真 336 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SK-7 遺物出土状況 (西から)



写真 337 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SK-7 遺物出土状況 (南から)



写真 338 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SK-7 北壁土層断面 (南西から)



写真 339 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SP-10 完掘状況 (南から)



写真 340 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SP-11 土層断面 (南から)



写真 341 梅味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ
SP-11 完掘状況 (南から)



写真 342 樽味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ SR-6 検出状況 (西から)



写真 343 樽味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ SR-6 検出状況 (東から)



写真 344 榑味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ東部全景 (南西から)



写真 345 榑味 20 次 (02109 調査) 29 トレンチ東部北壁土層断面 (南から)



写真 346 榑味 20 次 (02109 調査) 30 トレンチ全景
(西から)



写真 347 榑味 20 次 (02109 調査) 30 トレンチ全景
(東から)



写真 348 榑味 20 次 (02109 調査) 31 トレンチ全景 (南から)



写真 349 樽味 20 次 (02109 調査) 31 トレンチ全景 (南東から)



写真 350 樽味 20 次 (02109 調査) 32 トレンチ
西端部完掘状況 (南から)



写真 351 樽味 20 次 (02109 調査) 32 トレンチ全景
(西から)

世紀までの遺物がみられる。これらのことから、4 次調査 SR-1・19 次調査 SR-6 は、5 次調査 SR-1 の支流で 8 世紀前半に埋没したと考えられる。

(4) 中世・近世

樽味道跡 1 次調査・2 次調査の成果から、樽味道跡北部では 14～16 世紀の集落が広がっていることが明らかになっている (愛媛大学埋蔵文化財調査室 1989・1993)。さらに附属高校北側で実施した 13 次調査で

14～15 世紀の掘立柱建物が出土しており、樽味道跡東部にも集落が広がっていることが明らかになっている。19・20 次調査では、これらの集落域内の様子を具体的に示す資料が出土している。

20 次調査 29 トレンチでは、14 世紀～17 世紀の遺物を含んだ SR-6 が出土している。SR-6 は南北方向にのび、2 次調査で検出した SD-1 と一連の幹線水路と考えられ、14 世紀の段階に整備されたことが指摘されている (愛媛大学埋蔵文化財調査室 1993)。14 世

紀段階整備された水路は、17世紀まで機能していたことが今回の調査で確認できたことになる。18世紀には石手川の氾濫などが文献や遺跡でも確認されており、洪水などによって水路が埋没した可能性も考えられる。

20次調査14トレンチでは、近世の水田層中から5～15cm前後の円礫・角礫が集石されたSK-7が出土している。土師器皿が伴っており、水田域内に設けられた祭祀遺構と考えられる。

(5) 今後の課題

以上のように、これまでの20回に及ぶ大規模調査

の成果によって、弥生時代～近世の榑味遺跡の様相を具体的に示す資料を得ることができた。特に中世以降に関しては、集落域と同時に周辺の耕地開発の状況も想定できるようになっている。一方、古代以前に関しては、弥生時代と古墳時代の集落域は、榑味遺跡北西部に広がるのが今回の調査でも追認されたが、集落の生活を支えた生産域、農耕空間の実態は不明なままである。今後、農耕空間の把握を踏まえた上で、集落域との関係の検討、さらには周辺に展開する榑味立派遺跡、榑味高木遺跡、榑味四反地遺跡などの周辺の遺跡を含めた遺跡の展開を検討していく必要がある。

(三吉)



写真352 榑味20次(02109調査)出土遺物

02110（城北団地）基幹・環境整備（排水設備等改修）工事に伴う立会調査

調査地点 松山市道後樋又10番13号

城北団地内樋又地区

調査面積 3.6㎡

調査期間 2021年10月2日

調査種別 立会調査

調査担当 三吉秀亮

依頼文書 施設基盤部長発事務連絡
(令和3年6月28日付)

1. 調査に至る経緯

2021年6月下旬、施設基盤部から、城北団地2番町地区、城北団地樋又地区、樽味団地内における基幹・環境整備（排水設備等改修）工事計画が示された。城北団地樋又地区における工事予定地点は、いずれも既設掘削範囲におきまり、埋蔵文化財への影響はないと予想された。しかし、樋又地区に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である道後樋又遺跡では、南東部における埋蔵文化財調査データが少ないことから、既設掘削範囲の確認を目的として、埋蔵文化財調査室正面の工事に際して立会調査を実施することとした。

2. 調査の記録

工事地点は、城北団地樋又地区構内埋蔵文化財調査室の西側に位置する。重機を用いて現地表下120cmまで掘り下げ、瓦礫を伴った基本層序Ⅰ層の直下、標高28.50m付近で明黄褐色シルト層を確認した。工事では、これ以上の掘削を行わないことから、写真撮影ならびに測量を行った後、施設基盤部担当職員、工事施工業者へ慎重工事を依頼して調査を終了した。



写真 353 02110 調査 トレンチ全景（北東から）

3. まとめ

今回の調査では、当初の予想通り、既設の掘削範囲に入っていることを確認した。また現地表面下約120cm、標高28.50m付近で明黄褐色シルト層を確認した。明黄褐色シルト層は、層序関係から道後樋又遺跡の南側に隣接する文京遺跡を中心とした城北団地内で用いている基本層序Ⅳ層にあたる。

今回の調査地点の約30m西側の地点で、2012年に実施した道後樋又遺跡3次調査では、Ⅳ層上面で弥生時代・古代・中世の溝、土壇、小穴が検出され、そしてⅣ層中から縄文土器片が出土したことが報告されている（愛媛大学埋蔵文化財調査室2014）。また本調査地点から東へ約130mの地点で実施された道後今市遺跡15次調査では、縄文時代の自然流路、古墳時代の竪穴建物、13～15世紀の集落跡が確認されており（財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2011）、大学構内から東側にかけて同時期の遺構が広がっていると考えられる。今後も周辺における開発行為の際には発掘調査・立会調査が必要である。（三吉）

参考文献

愛媛大学埋蔵文化財調査室2014『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報2012年度』

財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2011『道後今市遺跡15次』



写真 354 02110 調査 完掘状況（東から）

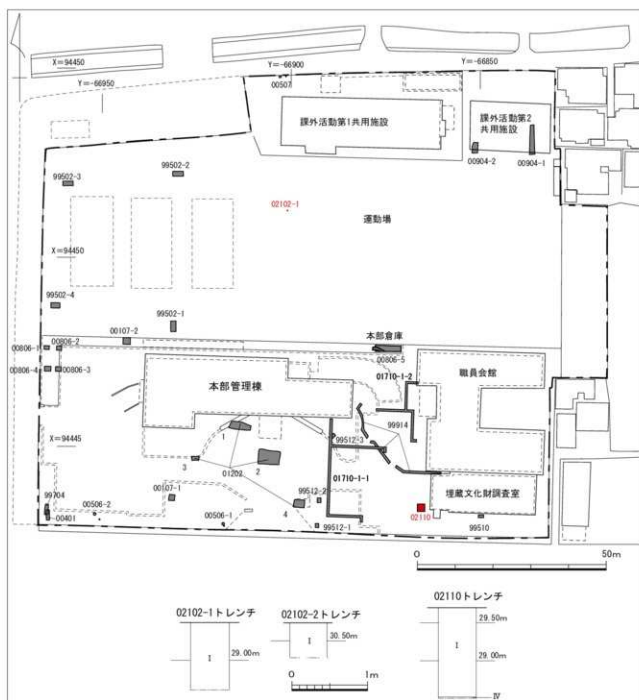


図 58 城北団地 (02102 調査・02110 調査) 調査地点位置 (縮尺 1/1,000)・土層柱状図 (縮尺 1/50)

報告書抄録

ふりがな	えひめだいがくまいごうぶんかざいちょうさしつねんほう 2020・2021 ねんど						
書名	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 2020・2021 年度						
副書名	2020・2021年度事業報告と文京道跡72～74次調査・榊道跡19・20次調査正式報告						
巻次							
シリーズ名	愛媛大学埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	X X X VI						
編著者名	柴田昌晃、三吉秀光						
編集機関	愛媛大学埋蔵文化財調査室						
所在地	〒790-8577 松山市道後橋又10番13号						
発行年月日	2023年3月25日						
ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ふんきょういせき 文京道跡 72次調査	まつやましふんきょういせき 松山市文京町3番	38201	33° 50' 54"	132° 77' 06"	2020.12.21 ~ 2021.1.12	20.3 m ²	(城北団地)基幹・環境整備 (排水設備改修)工事
ふんきょういせき 文京道跡 73次調査	まつやましふんきょういせき 松山市文京町3番	38201	33° 50' 55"	132° 77' 28"	2021.7.1 ~ 8.3	365 m ²	(城北団地)統合車庫取り壊し その他工事
たふみいせき 榊道跡 19次調査	まつやましふんきょういせき 松山市榊3丁目5番7	38201	33° 50' 19"	132° 79' 34"	2021.8.23 ~ 12.7	147.2 m ²	(城北団地1か)基幹・環境整備 (排水設備等改修)工事 榊地区
ふんきょういせき 文京道跡 74次調査	まつやましふんきょういせき 松山市文京町3番	38201	33° 50' 55"	132° 77' 28"	2021.10.11 ~ 10.15	30.8 m ²	(城北団地)レジオナルコモンズ (仮称)新営その他工事
たふみいせき 榊道跡 20次調査	まつやましふんきょういせき 松山市榊3丁目5番7	38201	33° 50' 22"	132° 79' 17"	2022.1.11 ~ 1.27	106 m ²	(榊団地)農学部会館厨房 等改修その他工事
所収道跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
文京道跡 72次調査	集落	弥生時代中期～後期 古墳時代中期	掘立柱建物1棟、土塼1基、 堅穴建物1棟		弥生土器、土師器、石器		2次調査地に隣接している。
文京道跡 73次調査	集落	縄文時代～弥生時代 後期～中世	土器溜まり1基		縄文土器、弥生土器、土師皿		—
榊道跡 19次調査	集落	中世	柱穴1基		土師器		—
文京道跡 74次調査	集落	縄文時代～弥生時代 後期～中世	土器溜まり1基		縄文土器、弥生土器、土師皿		—
榊道跡 20次調査	集落	弥生時代～中世	堅穴建物2棟、土塼、柱穴、 自然流路		弥生土器、土師器		—

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

— 2020・2021年度 —

愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XXXVI

2023年3月25日

発行 愛媛大学先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室
〒790-8577 松山市道後通又10番13号
TEL・FAX 089-927-9127

印刷 株式会社ハラブックス
〒799-1594 今治市喜田村1-2-1
TEL 0898-48-5511 FAX 0898-48-5512
